

HP Data Protector 7.00
Granular Recovery Extension
ユーザーガイド
- Microsoft SharePoint Server

HP 部品番号: N/A
2012 年 8 月
第 3 版



© Copyright 2011, 2012 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本書で取り扱っているコンピュータソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett-Packard Company から使用許諾を得る必要があります。米国政府の連邦調達規則である FAR 12.211 および 12.212 の規定に従って、コマーシャルコンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアドキュメンテーションおよびコマーシャルアイテムのテクニカルデータ (Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items) は、ベンダが提供する標準使用許諾規定に基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

本書に記載されている内容は事前の通知なしに変更されることがあります。HP 製品およびサービスに対する保証は、当該製品およびサービスに付属の明示的保証規定に記載されているものに限られます。本書のいかなる内容も当該保証に新たに保証を追加するものではありません。HP は、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して責任を負いかねます。

インテル®、Itanium®、Pentium®、Intel Inside®、および Intel Inside ロゴは、米国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

Microsoft®、Windows®、Windows XP®、および Windows NT® は、米国における Microsoft Corporation の登録商標です。

Adobe および Acrobat は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

Java は、Oracle および/またはその関連会社の登録商標です。

Oracle® は、Oracle Corporation (Redwood City, California) の米国における登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

LiveVault® は、Autonomy Corporation plc の登録商標です。

目次

出版履歴.....	5
本書について.....	6
対象読者.....	6
ドキュメントセット.....	6
ガイド.....	6
ヘルプ.....	8
ドキュメントマップ.....	9
略称.....	9
対応表.....	9
統合ソフトウェア.....	10
表記上の規則および記号.....	11
Data Protector グラフィカルユーザーインターフェース.....	12
一般情報.....	12
HP テクニカルサポート.....	12
メールニュース配信サービス.....	12
HP Web サイト.....	13
1 はじめに.....	14
バックアップ.....	14
復旧.....	14
2 インストール.....	16
前提条件.....	16
3 構成.....	18
復旧 Web アプリケーションの構成の確認.....	18
手順.....	18
HP Data Protector のユーザー権限の構成.....	18
手順.....	18
Data Protector バックアップ仕様の構成.....	19
インターネットインフォメーションサービスのアプリケーションプールの構成の確認.....	20
4 バックアップ.....	21
留意事項.....	21
5 復旧.....	22
HP Data Protector Granular Recovery Extension GUI を開く.....	22
手順.....	22
バックアップからのコンテンツデータベースのインポート.....	24
前提条件.....	24
手順.....	24
ファイルシステムからのコンテンツデータベースのインポート.....	27
前提条件.....	27
留意事項.....	27
手順.....	28
[コンテンツ復旧の実行] タスクの実行.....	29
前提条件.....	29
手順.....	30
サイトアイテムの復旧.....	30
前提条件.....	30
留意事項.....	31
手順.....	31
キャッシュからのコンテンツデータベースの削除.....	37

手順.....	37
詳細復旧インポートジョブの監視.....	37
手順.....	37
HP Data Protector Granular Recovery Extension の設定の変更.....	38
手順.....	38
6 コマンドラインリファレンス.....	40
例.....	40
Data Protector バックアップからのコンテンツデータベースの復元.....	40
ジョブの進行状況の監視.....	40
復元先のディスク容量の確認.....	41
コンテンツデータベースの一覧表示.....	41
復元ジョブの削除.....	41
オリジナルサイトへのサイトアイテムの復旧.....	42
別の場所へのサイトアイテムの復旧.....	42
キャッシュからのコンテンツデータベースの削除.....	42
ディスクからのコンテンツデータベースの削除.....	42
コンテンツデータベースの自動削除の設定.....	42
コンテンツデータベースからのアイテムのエクスポート.....	43
エクスポートするアイテムの一覧表示.....	43
コンテンツデータベースからのアイテムのインポート.....	43
Microsoft SharePoint ファームの情報の表示.....	43
コンテンツデータベースの情報の表示.....	43
サイトの一覧の表示.....	44
サイトのブラウズ.....	44
詳細復旧のバージョンの表示.....	44
7 トラブルシューティング.....	45
インポートジョブが失敗する.....	46
インポートジョブが失敗する.....	46
復旧セッションが失敗する.....	47
マイサイトから詳細復旧キャッシュ管理リンクにアクセスできない.....	47
マイサイトから詳細復旧キャッシュ管理リンクにアクセスできない.....	48
コマンドラインインタフェースの応答が遅い.....	49
グラフィカルユーザーインタフェースの応答が遅い.....	50
Data Protector サービスが実行されていない.....	51
[復元中 - マウント要求を保留] ステータス.....	51
サブフォルダが元の場所に復旧されない.....	51
Granular Recovery Extension コンポーネントのインストールに失敗する.....	51
Granular Recovery Extension の削除に失敗する.....	52
サーバーの全体管理上の複数のサーバーを含むファームで、インストールが突然終了する.....	52
用語集.....	54
索引.....	88

出版履歴

次の版が発行されるまでの間に、間違いの訂正や製品マニュアルの変更を反映したアップデート版が発行されることもあります。アップデート版や新しい版を確実に入手するためには、対応する製品のサポートサービスにご登録ください。詳細については、HP の営業担当にお問い合わせください。

表 1 出版履歴

製品番号	ガイド版	製品
使用不可	2011 年 3 月	Data Protector リリース 6.20
使用不可	2011 年 3 月 (第 2 版)	Data Protector リリース 6.20
使用不可	2012 年 3 月	Data Protector リリース 7.00
使用不可	2012 年 4 月	Data Protector リリース 7.00
使用不可	2012 年 7 月	Data Protector リリース 7.00。次のいずれかのパッチバンドルで提供: DPWINBDL_00701、 DPUXBDL_00701、DPLNXBDL_00701

本書について

対象読者

本書は、Microsoft SharePoint Server のバックアップおよび復旧の計画、セットアップ、保守を担当する管理者を対象としています。また、以下に関する十分な知識があることを想定しています。

- Data Protector の基本機能
- Microsoft SharePoint Server の管理

ドキュメントセット

その他のガイドおよびヘルプには、関連情報が記載されています。

ガイド

Data Protector のガイドは、電子的な PDF 形式で提供されます。PDF ファイルは、Data Protector のセットアップ時に、Windows の場合は英語のドキュメント（ガイド、ヘルプ）コンポーネントを、UNIX の場合は OB2-DOCS コンポーネントを、それぞれ選択してインストールします。ガイドのインストール後の保存先ディレクトリは、

`Data_Protector_home\docs(Windows)` または `/opt/omni/doc/C(UNIX)` です。

これらの資料は、HP サポート Web サイトの [Manuals] ページから入手できます。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

[Storage] セクションの **[Storage Software]** をクリックし、ご使用の製品を選択してください。

- 『HP Data Protector コンセプトガイド』
このガイドでは、Data Protector のコンセプトを解説するとともに、Data Protector の動作原理を詳細に説明しています。これは、タスクごとのヘルプとともに使用するよう作成されています。
- 『HP Data Protector インストールおよびライセンスガイド』
このガイドでは、Data Protector ソフトウェアのインストール方法をオペレーティングシステムおよび環境のアーキテクチャごとに説明しています。また、Data Protector のアップグレード方法や、環境に適したライセンスの取得方法についても説明しています。
- 『HP Data Protector トラブルシューティングガイド』
このガイドでは、Data Protector の使用中に起こりうる問題に対するトラブルシューティングの方法について説明します。
- 『HP Data Protector ディザスタリカバリガイド』
このガイドでは、ディザスタリカバリの計画、準備、テスト、および実行の方法について説明します。
- 『HP Data Protector インテグレーションガイド』
このガイドでは、さまざまなデータベースやアプリケーションをバックアップおよび復元するための、Data Protector の構成方法および使用法を説明します。このガイドは、バックアップ管理者やオペレータを対象としています。6 種類のガイドがあります。
 - 『HP Data Protector インテグレーションガイド - Microsoft アプリケーション: SQL Server、SharePoint Server、Exchange Server』
このガイドでは、Microsoft SQL Server、Microsoft SharePoint Server、Microsoft Exchange Server といった Microsoft アプリケーションに対応する Data Protector の統合ソフトウェアについて説明します。

- 『HP Data Protector インテグレーションガイド - Oracle、SAP』
このガイドでは、Oracle Server、SAP R/3、SAP MaxDB に対応する Data Protector の統合ソフトウェアについて説明します。
- 『HP Data Protector インテグレーションガイド - IBM アプリケーション: Informix、DB2、Lotus Notes/Domino』
このガイドでは、Informix Server、IBM DB2 UDB、Lotus Notes/Domino Server といった IBM アプリケーションに対応する Data Protector の統合ソフトウェアについて説明します。
- 『HP Data Protector インテグレーションガイド - Sybase、Network Node Manager、Network Data Management Protocol Server』
このガイドでは、Sybase Server、HP Network Node Manager、および Network Data Management Protocol Server に対応する HP の統合ソフトウェアについて説明します。
- 『HP Data Protector インテグレーションガイド - 仮想環境』
このガイドでは、Data Protector と仮想環境 (VMware 仮想インフラストラクチャ、VMware vSphere、VMware vCloud Director、Microsoft Hyper-V、および Citrix XenServer) との統合について説明します。
- 『HP Data Protector Integration Guide for Microsoft Volume Shadow Copy Service』
このガイドでは、Data Protector と Microsoft ボリュームシャドウコピーサービスの統合について説明します。また、ドキュメントアプリケーションライターの詳細についても説明します。
- 『HP Data Protector Integration Guide for HP Operations Manager for UNIX』
このガイドでは、UNIX 版の HP Operations Manager と HP Service Navigator を使用して、Data Protector 環境の健全性と性能を監視および管理する方法について説明します。
- 『HP Data Protector Integration Guide for HP Operations Manager for Windows』
このガイドでは、Windows 版の HP Operations Manager を使用して、Data Protector 環境の健全性と性能を監視および管理する方法について説明します。
- 『HP Data Protector ゼロダウンタイムバックアップコンセプトガイド』
このガイドでは、Data Protector ゼロダウンタイムバックアップとインスタントリカバリのコンセプトについて解説するとともに、ゼロダウンタイムバックアップ環境における Data Protector の動作原理を詳細に説明します。手順を中心に説明している『HP Data Protector ゼロダウンタイムバックアップ管理者ガイド』および『HP Data Protector ゼロダウンタイムバックアップインテグレーションガイド』とあわせてお読みください。
- 『HP Data Protector ゼロダウンタイムバックアップ管理者ガイド』
このガイドでは、HP P4000 SAN ソリューション、HP P6000 EVA ディスクアレイファミリ、HP P9000 XP ディスクアレイファミリ、HP P10000 Storage Systems、EMC Symmetrix Remote Data Facility および TimeFinder に対応する Data Protector 統合ソフトウェアの構成方法および使用方法を説明します。このガイドは、バックアップ管理者やオペレータを対象としています。ファイルシステムとディスクイメージのゼロダウンタイムバックアップ、インスタントリカバリ、および復元についても説明します。
- 『HP Data Protector ゼロダウンタイムバックアップインテグレーションガイド』
このガイドでは、Oracle Server、SAP R/3、Microsoft Exchange Server、Microsoft SQL Server の各データベースに対して、そのゼロダウンタイムバックアップ、インスタントリカバリ、標準復元を実行するための Data Protector の構成方法および使用方法について説明します。

- 『HP Data Protector Granular Recovery Extension User Guide for Microsoft Exchange Server』
 このガイドでは、Microsoft Exchange Server 2010 環境用の Granular Recovery Extension を構成し使用する方法について説明します。Microsoft Exchange Server 用の Data Protector Granular Recovery Extension のグラフィカルユーザーインターフェースは、Microsoft 管理コンソールに組み込まれます。このガイドは、Microsoft Exchange Server 管理者および Data Protector バックアップ管理者を対象としています。
- 『HP Data Protector Granular Recovery Extension ユーザーガイド - Microsoft SharePoint Server』
 このガイドでは、Microsoft SharePoint Server 用に Data Protector Granular Recovery Extension を構成し使用する方法について説明します。Data Protector Granular Recovery Extension は Microsoft SharePoint Server のサーバーの全体管理に組み込まれ、個々のアイテムをリカバリできるようにになります。このガイドは、Microsoft SharePoint Server 管理者および Data Protector バックアップ管理者を対象としています。
- 『HP Data Protector Granular Recovery Extension User Guide for VMware vSphere』
 このガイドでは、VMware vSphere 用 Data Protector Granular Recovery Extension の構成方法および使用方法について説明します。Data Protector Granular Recovery Extension は VMware vCenter Server に組み込まれ、個々のアイテムをリカバリできるようにになります。このガイドは、VMware vCenter Server ユーザーおよび Data Protector バックアップ管理者を対象としています。
- 『HP Data Protector Media Operations User Guide』
 このガイドは、システムの保守とバックアップを担当するネットワーク管理者を対象に、オフラインストレージメディアの追跡と管理に関する情報を提供します。アプリケーションのインストールと構成、日常のメディア操作、およびレポート作成のタスクについて説明します。
- 『HP Data Protector 製品案内、ソフトウェアノートおよびリファレンス』
 このガイドでは、HP Data Protector 7.00 の新機能について説明しています。また、インストール要件、必要なパッチ、制限事項、報告されている問題とその回避方法などの情報も記載されています。
- 『HP Data Protector Product Announcements, Software Notes, and References for Integrations to HP Operations Manager』
 このガイドは、HP Operations Manager 統合ソフトウェアに対して同様の機能を果たします。
- 『HP Data Protector Media Operations Product Announcements, Software Notes, and References』
 このマニュアルは、Media Operations に対して同様の機能を果たします。
- 『HP Data Protector Command Line Interface Reference』
 このガイドでは、Data Protector コマンドラインインターフェース、コマンドオプション、使用方法を、基本コマンドラインの例とともに説明しています。

ヘルプ

Data Protector は、Windows および UNIX の各プラットフォーム用にヘルプトピックとコンテンツ依存ヘルプ (F1 キー) を備えています。

Data Protector をインストールしていない場合でも、任意のインストール DVD-ROM の最上位ディレクトリからヘルプにアクセスできます。

Windows システムの場合: DP_help.chm を開きます。

UNIX システムの場合: 圧縮された tar ファイル DP_help.tar.gz をアンパックし、DP_help.htm 経由でヘルプシステムにアクセスします。

ドキュメントマップ

略称

次の表は、ドキュメントマップで使用される略称の説明です。ドキュメント項目のタイトルには、すべて先頭に「HP Data Protector」が付きます。

略称	ドキュメント項目
CLI	Command Line Interface Reference
Concepts	コンセプトガイド
DR	ディザスタリカバリガイド
GS	スタートガイド
GRE-Exchange	Granular Recovery Extension User Guide for Microsoft Exchange Server
GRE-SPS	Granular Recovery Extension ユーザーガイド - Microsoft SharePoint Server
GRE-VMware	Granular Recovery Extension User Guide for VMware vSphere
Help	ヘルプ
IG-IBM	インテグレーションガイド - IBM アプリケーション: Informix、DB2、Lotus Notes/Domino
IG-MS	インテグレーションガイド - Microsoft アプリケーション: SQL Server、SharePoint Server、Exchange Server
IG-O/S	インテグレーションガイド - Oracle、SAP
IG-OMU	Integration Guide for HP Operations Manager for UNIX
IG-OMW	Integration Guide for HP Operations Manager for Windows
IG-Var	インテグレーションガイド - Sybase、Network Node Manager、Network Data Management Protocol Server
IG-VirtEnv	インテグレーションガイド - 仮想環境
IG-VSS	Integration Guide for Microsoft Volume Shadow Copy Service
Install	インストールおよびライセンスガイド
MO-GS	Media Operations Getting Started Guide
MO-PA	Media Operations Product Announcements, Software Notes, and References
MO-UG	Media Operations User Guide
PA	製品案内、ソフトウェアノートおよびリファレンス
Trouble	トラブルシューティングガイド
ZDB-Admin	ZDB 管理者ガイド
ZDB-Concept	ZDB コンセプトガイド
ZDB-IG	ZDB インテグレーションガイド

対応表

以下の表は、各種情報がどのドキュメントに記載されているかを示したものです。セルが塗りつぶされているドキュメントを最初に参照してください。

	Help	GS	Concepts	Install	Trouble	DR	PA	インテグレーションガイド							ZDB			GRE		MO			CLI			
								MS	O/S	IBM	Var	VSS	VirtEnv	OMU	OMW	Concept	Admin	IG	Exchange	SPS	VMware	GS		UG	PA	
バックアップ	X	X	X					X	X	X	X	X	X	X	X	X										
CLI																									X	
概念/ 手法	X		X					X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X						
ディザスタリカバリ	X		X			X																				
インストール/ アップグレード	X	X		X			X						X	X									X	X		
インスタントリカバリ	X		X												X	X	X									
ライセンス	X			X			X																X			
制限事項	X				X		X	X	X	X	X	X				X									X	
新機能	X						X																		X	
プランニング方法	X		X												X											
手順/ 作業	X			X	X	X		X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X			X			
推奨事項			X				X								X										X	
必要条件				X			X	X	X	X	X	X	X	X									X	X	X	
復元	X	X	X					X	X	X	X	X			X	X	X	X	X							
サポートされる 構成															X											
トラブルシューティング	X			X	X			X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X							

統合ソフトウェア

以下のソフトウェアアプリケーションとの統合に関する詳細については、該当するガイドを参照してください。

ソフトウェアアプリケーション	ガイド
HP Network Node Manager(NNM)	IG-Var
HP Operations Manager	IG-OMU、IG-OMW
IBM DB2 UDB	IG-IBM
Informix Server	IG-IBM
Lotus Notes/Domino Server	IG-IBM
Media Operations	MO-UG
Microsoft Exchange Server	IG-MS、ZDB IG、GRE-Exchange
Microsoft Hyper-V	IG-VirtEnv
Microsoft SharePoint Server	IG-MS、ZDB-IG、GRE-SPS
Microsoft SQL Server	IG-MS、ZDB-IG
Microsoft ボリュームシャドウコピーサービス (VSS)	IG-VSS
ネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) サーバー	IG-Var
Oracle Server	IG-O/S、ZDB-IG
SAP MaxDB	IG-O/S
SAP R/3	IG-O/S、ZDB-IG

ソフトウェアアプリケーション	ガイド
Sybase Server	IG-Var
VMware vSphere	IG-VirtEnv、GRE-VMware
VMware vCloud Director	IG-VirtEnv

以下のディスクアレイシステムファミリとの統合に関する詳細については、該当するガイドを参照してください。

ディスクアレイファミリ	ガイド
EMC Symmetrix	すべての ZDB
HP P4000 SAN ソリューション	ZDB-Concept、ZDB-Admin、IG-VSS
HP P6000 EVA ディスクアレイファミリ	すべての ZDB、IG-VSS
HP P9000 XP ディスクアレイファミリ	すべての ZDB、IG-VSS
HP P10000 Storage Systems	ZDB-Concept、ZDB-Admin、IG-VSS

表記上の規則および記号

表 2 表記上の規則

規則	要素
青色のテキスト: 「表記上の規則」 (11 ページ)	クロスリファレンスリンクおよび電子メールアドレス
青色の下線付きテキスト: http://www.hp.com	Web サイトアドレス
太字テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 押すキー ボックスなど GUI 要素に入力するテキスト メニュー、リストアイテム、ボタン、タブ、およびチェックボックスなどクリックまたは選択する GUI 要素
斜体テキスト	テキスト強調
等幅テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ファイルおよびディレクトリ名 システム出力 コード コマンド、引数、および引数の値
等幅、斜体テキスト	<ul style="list-style-type: none"> コード変数 コマンド変数
等幅、太字テキスト	強調された等幅テキスト

△ 注意: 指示に従わなかった場合、機器設備またはデータに対して、損害をもたらす可能性があることを示します。

① 重要: 詳細情報または特定の手順を示します。

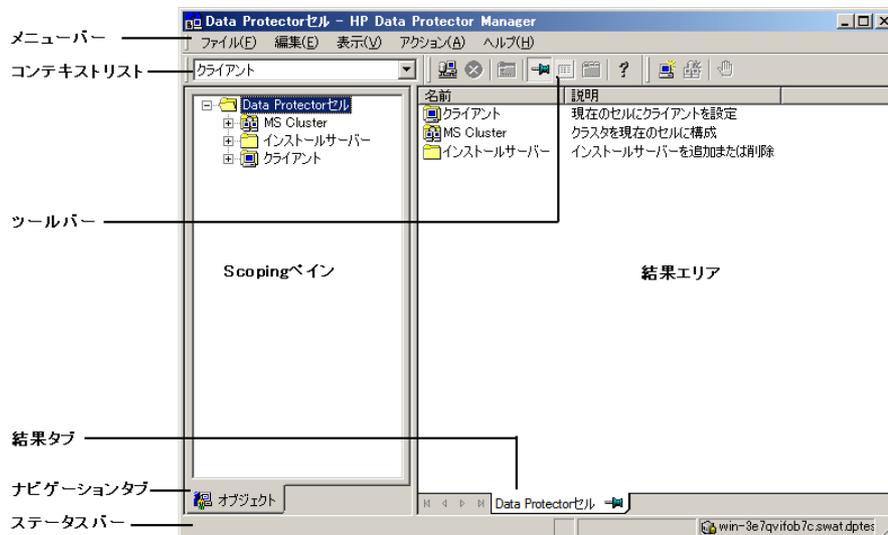
注記: 補足情報を示します。

☺ ヒント: 役に立つ情報やショートカットを示します。

Data Protector グラフィカルユーザーインターフェース

Data Protector では、クロスプラットフォーム (Windows と UNIX) のグラフィカルユーザーインターフェースを提供します。オリジナルの Data Protector GUI (Windows のみ) または Data Protector Java GUI を使用できます。Data Protector グラフィカルユーザーインターフェースに関する詳細は、『HP Data Protector ヘルプ』を参照してください。

図 1 Data Protector グラフィカルユーザーインターフェース



一般情報

Data Protector に関する一般的な情報は、<http://www.hp.com/go/dataprotector> にあります。

HP テクニカルサポート

各国のテクニカルサポート情報については、以下のアドレスの HP サポート Web サイトを参照してください。

<http://www.hp.com/support>

HP に問い合わせる前に、以下の情報を集めておいてください。

- 製品のモデル名とモデル番号
- 技術サポートの登録番号 (ある場合)
- 製品のシリアル番号
- エラーメッセージ
- オペレーティングシステムのタイプとリビジョンレベル
- 詳細な質問内容

メールニュース配信サービス

ご使用の製品を以下のアドレスのメールニュース配信登録 Web サイトで登録することをお勧めします。

<http://www.hp.com/go/e-updates>

登録すると、製品の強化機能内容、ドライバの新バージョン、ファームウェアのアップデートなどの製品リソースに関する通知が電子メールで届きます。

HP Web サイト

その他の情報については、次の HP Web サイトを参照してください。

- <http://www.hp.com>
- <http://www.hp.com/go/software>
- <http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>
- <http://www.hp.com/support/downloads>

1 はじめに

このドキュメントでは、HP Data Protector Granular Recovery Extension for Microsoft Office SharePoint Server 2007 および Microsoft SharePoint Server 2010(**Microsoft SharePoint Server**) について説明します。

このドキュメントに記載されている情報の一部は、HP Data Protector Granular Recovery Extension for Microsoft SharePoint Server によって基本的な Microsoft SharePoint Server ヘルプに追加された独自のヘルプコレクションでも利用できます。このヘルプコレクションには、Granular Recovery Extension 関連トピックが含まれています。これらのトピックには、サーバーの全体管理サイトの Granular Recovery Extension コンテキストにあるヘルプアイコンをクリックすると、アクセスできます。

バックアップ

Microsoft SharePoint Server のデータのバックアップには、以下のいずれかのバックアップソリューションを使用します。

- HP Data Protector Microsoft SharePoint Server 2007/2010 用統合ソフトウェア
- HP Data Protector Microsoft SharePoint Server 2007/2010 VSS ベースのソリューション
- HP Data Protector Microsoft SQL Server 用統合ソフトウェア
- HP Data Protector Microsoft Volume Shadow Copy Service 用統合ソフトウェア

復旧

HP Data Protector Granular Recovery Extension の利点は、次のとおりです。

- **復旧単位**

バックアップソリューションで復元できる最小オブジェクトは、Microsoft SQL Server データベース (**コンテンツデータベース**) です。このデータベースには複数の Web サイトのデータが格納されていることがあります。それに対し、HP Data Protector Granular Recovery Extension で復元できる最小オブジェクトは、個々の Web サイトアイテムです。たとえば、カレンダーアイテム、カレンダー、タスクアイテム、チームディスカッションアイテム、ドキュメント、共有ドキュメント、フォルダー、リスト、ライブラリ、お知らせ、フォーム、レポートテンプレート、オブジェクトのメタデータ、ドキュメントワークフローなどです。

- **Microsoft SharePoint Server サーバーの全体管理への統合**

Granular Recovery Extension は、Microsoft SharePoint Server サーバーの全体管理に完全に統合されます。これにより、サイトコレクションの管理者は、単一アイテムの復旧を独自に (バックアップ管理者の最小限の介在で) 実行できるようになります。

- **複数サイトの復旧**

サイトを誤って削除しても問題にならなくなります。これは、ごみ箱を使ってサイトを復旧することができない場合にも当てはまります。Granular Recovery Extension は、複数のサブサイトを持つサイト全体を復旧できます。

- **検索が容易**

容易な検索 Granular Recovery Extension の高度なクイック検索を使用して、復旧が必要なアイテムを検索できます。この検索システムではオブジェクトのメタデータがチェックさ

れるため、検索内容をドキュメントタイプ、作者などで絞り込むことができます。オブジェクトは、オブジェクトツリーブラウザに表示されます。

- **別の場所への復旧**

Granular Recovery Extension では、別の場所への復旧が可能です。たとえば、別のサイト、別のファーム、別のファイルシステムなどにオブジェクトを復旧できます。

2 インストール

この章では、HP Data Protector Granular Recovery Extension のインストール方法を説明します。

前提条件

- **Microsoft パッケージ:**

以下の Windows Management Framework Core パッケージをインストールします。

- Microsoft PowerShell 2.0

- **Microsoft SQL Server パッケージ:**

Microsoft SQL Server 2005 または Microsoft SQL Server 2008 用の以下のパッケージをインストールします。

- Microsoft SQL Server Native Client
- Microsoft Core XML Services (MSXML) 6.0
- Microsoft SQL Server 2008 管理オブジェクトコレクション

上記のパッケージは、以下のサービスの少なくとも 1 つが有効になっている Microsoft SharePoint Server システムすべてにインストールされている必要があります。

- サーバーの全体管理
- Windows SharePoint Services Web Application

パッケージは、以下の Web サイトからダウンロードできます。<http://www.microsoft.com/downloads/en/default.aspx>

Microsoft SQL Server 2008 用 Feature Pack を検索してください。

- **Data Protector コンポーネント:**

Data Protector バックアップソリューションは、以下の説明に従ってインストールおよび構成する必要があります。

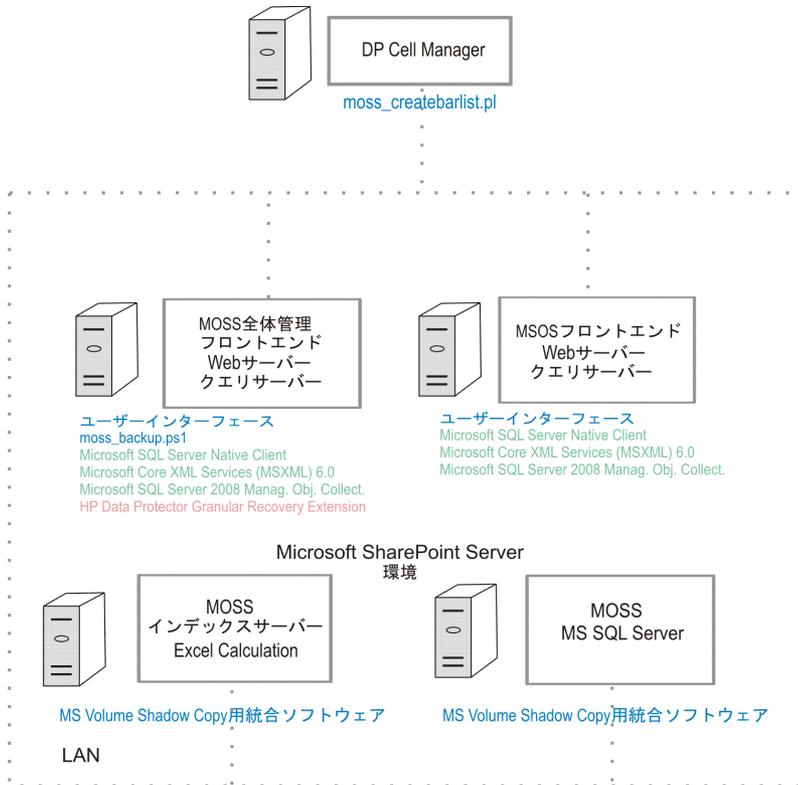
- 『HP Data Protector インストールおよびライセンスガイド』
- 『HP Data Protector インテグレーションガイド - Microsoft アプリケーション: SQL Server、SharePoint Server、Exchange Server』の該当する章
- 『HP Data Protector ゼロダウンタイムバックアップインテグレーションガイド』
- 『HP Data Protector Integration Guide for Microsoft Volume Shadow Copy Service』

このほか、以下のサービスの少なくとも 1 つが有効になっている Microsoft SharePoint Server システムすべてに、Data Protector ユーザーインターフェイスコンポーネントがインストールされていることを確認してください。

- サーバーの全体管理
- Windows SharePoint Services Web Application

「HP Data Protector Microsoft SharePoint Server VSS ベースソリューションを使用する中規模ファームのインストール (例)」 (17 ページ) では、HP Data Protector コンポーネントが青色、Microsoft SQL Server のインストールパッケージが緑色、HP Data Protector Granular Recovery Extension が赤色で示されています。

図 2 HP Data Protector Microsoft SharePoint Server VSS ベースソリューションを使用する中規模ファームのインストール (例)



インストール手順については、『HP Data Protector インストールおよびライセンスガイド』を参照してください。

3 構成

ここでは、実行しなければならない構成手順について説明します。この手順に従わなかった場合は、オブジェクトの復旧に失敗することがあります。

復旧 Web アプリケーションの構成の確認

手順

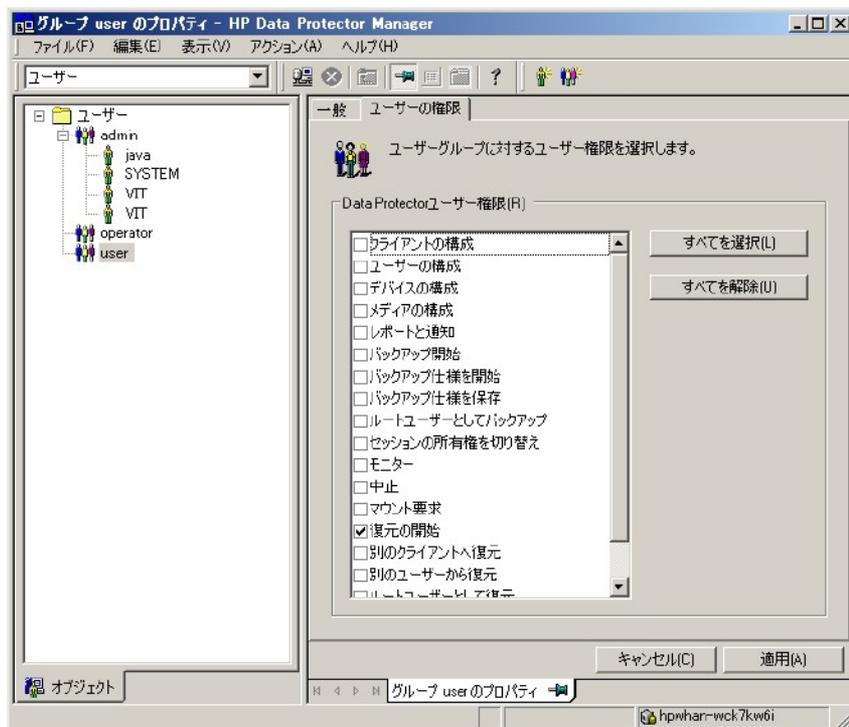
1. [サーバーの全体管理]Web ページを開き、[アプリケーション管理] タブをクリックします。
2. [アプリケーションセキュリティ] で [認証プロバイダ] をクリックし、[既定] をクリックします。
3. 復旧 Web アプリケーションの設定が、サーバーの全体管理アプリケーションのデフォルト設定と同じであることを確認します。

HP Data Protector のユーザー権限の構成

手順

1. Data Protector GUI ([**Data Protector Manager**]) を開きます。
2. コンテキストリストで [ユーザー] を選択します。
3. Windows SharePoint Services Timer サービスを実行しているユーザーアカウントに、Data Protector の [復元の開始] および [プライベートオブジェクトを表示] の各ユーザー権限が割り当てられていることを確認します。

図 3 Data Protector ユーザー権限



注記: 「プライベートオブジェクトを表示」のユーザー権限は、アクセスの種類をプライベートとして、バックアップオブジェクトオーナーを指定して構成されたバックアップ仕様を作成した場合に有用です。このユーザーアカウントは、バックアップを実行したアカウントか、**[所有権]**バックアップオプションで指定されたアカウントのいずれかです。このユーザーアカウントが Windows SharePoint Services Timer サービスを実行しているユーザーアカウントと異なる場合は、**[復旧キャッシュ管理]**でプライベートバックアップオブジェクトにアクセスできません。

Data Protector バックアップ仕様の構成

- VSS トランスポートバックアップを作成する場合は、**[複製をインスタントリカバリに使用する]**オプションが選択されていないことを確認します。
- Data Protector が **[詳細復旧キャッシュ管理]**のコンテンツデータベースをバックアップしない (つまり、Data Protector が同じコンテンツデータベースを 2 回バックアップしない) ようにするために、構成に応じて以下の作業を行います。

- 同じ Microsoft SQL Server インスタンスが Microsoft SharePoint Server と HP Data Protector Granular Recovery Extension の両方で使用されている場合:
バックアップ仕様を作成するときに、個々のコンテンツデータベースを選択します。クライアント、Microsoft SQL Server インスタンス、または Microsoft Volume Shadow Copy ライターは選択しません。

HP Data Protector Granular Recovery で復元されるコンテンツデータベースの名前は *OriginalName_DataProtectorSessionID* です。

「コンテンツデータベースの選択」 (19 ページ) を参照してください。

図 4 コンテンツデータベースの選択

Content Database	Backup Version	Content Database Size	Added	Expires On	Added By
WSS_Content	2010/09/16-2	49.0 MB	9/16/2010 3:42:13 PM	10/7/2010 3:42:13 PM	user

Original Site URL	Recovery Site URL
http://apno/	http://apno:38000/1
http://apno/sites/	http://apno:38000/sites/

注記: 個別のコンテンツデータベースが選択されているバックアップ仕様がある場合は、ファーム管理者が新しいコンテンツデータベースを追加するたびに、新しく追加されたコンテンツデータベースをバックアップ仕様を含める必要があります。

- 詳細復旧のために単独の Microsoft SQL Server インスタンスが使用されている場合は、このシステムを **[バックアップからのインポート]**の手順のインポート先の Microsoft SQL Server として指定します。
このシステムがバックアップ仕様から除外されていることを確認してください。

インターネットインフォメーションサービスのアプリケーションプールの構成の確認

復旧 Web アプリケーションと SharePoint Central Administration v3 アプリケーションプールの両方で、同じ Microsoft SharePoint Server ユーザーアカウントが使用されます。

アイテムをファイルシステムに復旧できるようにするために、これらのアプリケーションプールで指定されているユーザーに十分なパーミッションが付与されていることを確認します。このユーザーにファイルシステムのフルコントロールが付与されていることを確認してください。

復旧 Web アプリケーションまたは SharePoint Central Administration (Microsoft Office SharePoint Server 2007 の場合は v3、Microsoft SharePoint Server 2010 の場合は v4) アプリケーションプールで構成されているユーザーアカウントを確認するには、次の手順を実行します。

1. Microsoft SharePoint Server サーバーの全体管理システムに接続します。
2. [スタート]メニューで[コントロールパネル]、[管理ツール]、[インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャー]の順にクリックします。
3. オペレーティングシステムのバージョンによって、以下の手順を実行します。

Windows Server 2008 の場合:

- a. [アプリケーションプール] ページを開きます。
- b. アプリケーションプールを右クリックし、[詳細設定] をクリックします。
- c. [プロセスモデル] で、Microsoft SharePoint Server ユーザーアカウントの ID を確認します。

Windows Server 2003 の場合:

- a. [アプリケーションプール] を展開します。
- b. アプリケーションプールを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- c. [ID] タブをクリックし、[構成可能] オプションを選択して、選択した Microsoft SharePoint Server ユーザーアカウントを確認します。

4 バックアップ

Microsoft SharePoint Server データのバックアップは、バックアップソリューションのドキュメントの説明に従って行います。

HP Data Protector のバックアップソリューションの詳細については、以下のドキュメントを参照してください。

- 『HP Data Protector インテグレーションガイド - Microsoft アプリケーション: SQL Server、SharePoint Server、Exchange Server』
- 『HP Data Protector ゼロダウンタイムバックアップインテグレーションガイド』

注記: Granular Recovery Extension for Microsoft SharePoint Server は、さまざまなオブジェクトを同じ手順で復旧します。復旧手順は、バックアップの種類に関係しません。

留意事項

- 10 GB より大きなコンテンツデータベースは、VSS トランスポートابلバックアップから復元することをお勧めします。
- disk + tape への ZDB を使用する VSS トランスポートابلバックアップを構成した場合、Granular Recovery Extension for Microsoft SharePoint Server は、ディスクからコンテンツデータベースバージョンを復元用に選択します。このバックアップタイプは、ディスク容量が余分に必要ないため、比較的大きなコンテンツデータベースに適しており、復元セッションを短い時間で完了できます。

5 復旧

各サイトのデータは、Microsoft SQL Server データベース (**コンテンツデータベース**) に保存されています。このため、サイトアイテムを復旧するために以下の基本的な手順に従います。

1. インポート

a. 復元

コンテンツデータベースをバックアップから Microsoft SQL Server システム上の一時的な保管場所に復元します。

b. マウント

復元したコンテンツデータベース (**復旧コンテンツデータベース**) を Microsoft SharePoint Server に認識させます。これにより、一時サイト (**復旧サイト**) が作成されます。

2. 復旧

サイトアイテムを復旧サイトから元のサイトに転送するか、選択した別の場所に転送します。

3. アンマウント

復旧コンテンツデータベースを Microsoft SharePoint Server からアンマウントします。必要に応じて、コンテンツデータベースをディスクから削除します。

HP Data Protector Granular Recovery Extension GUI を開く

手順

1. Microsoft SharePoint Server サーバーの全体管理システムに、Microsoft SharePoint Server **ファーム管理者**ユーザーアカウントでログオンします。
2. [サーバーの全体管理]Web ページに接続します。
3. Microsoft Office SharePoint Server 2007 固有の手順: [操作] タブをクリックします。
4. **HP Data Protector Granular Recovery Extension** を探します。

図 5 HP Data Protector Granular Recovery Extension のリンク

[HP Data Protector Granular Recovery Extension](#)
[Granular Recovery Cache Management](#)
[Granular Recovery Import Job Status](#)
[Granular Recovery Settings](#)

5. [詳細復旧キャッシュ管理] をクリックします。[復旧キャッシュ管理] ページが表示されます。

詳細復旧キャッシュは、どの復旧コンテンツデータベースが Microsoft SharePoint Server に現在マウントされているかを示します。最初は、詳細復旧キャッシュは空です。「**復旧キャッシュ管理 (空の状態)**」 (23 ページ) を参照してください。

図 6 復旧キャッシュ管理 (空の状態)

The screenshot shows the 'Granular Recovery Cache Management' interface. The top navigation bar includes 'Site Actions', 'Granular Recovery Cache Management', 'Give Feedback', and 'User'. Below the navigation bar are icons for 'Import from Backup', 'Import from Filesystem', 'Import Jobs Status', 'Remove Content Database', and 'Start Recovery'. The main content area is divided into two sections: 'Content Databases' and 'Sites'. The 'Content Databases' section shows a message: 'No content database available in recovery cache.' The 'Sites' section is currently empty.

「コンテンツデータベースがマウントされた状態の復旧キャッシュ管理」(23 ページ) は、コンテンツデータベースがすでにマウントされているときに使用可能な [復旧キャッシュ管理] の機能を示しています。機能の概要については、「詳細復旧キャッシュ管理」(24 ページ) を参照してください。

図 7 コンテンツデータベースがマウントされた状態の復旧キャッシュ管理

The screenshot shows the 'Granular Recovery Cache Management' interface with a content database mounted. The 'Content Databases' section displays a table with the following data:

Content Database	Backup Version	Content Database Size	Added	Expires On	Added By
WSS_Content	2010/09/16-2	49.0 MB	9/16/2010 3:42:13 PM	10/7/2010 3:42:13 PM	user

The 'Sites' section displays a table with the following data:

Original Site URL	Recovery Site URL
http://apno/	http://apno:38000/1
http://apno/sites	http://apno:38000/sites

表 3 詳細復旧キャッシュ管理

<ul style="list-style-type: none"> ● バックアップからのインポート コンテンツデータベースを HP Data Protector のバックアップソリューションでバックアップした後で、[バックアップからのインポート]を使用してデータベースを一時的な場所に復元し、そのデータベースを Microsoft SharePoint Server にマウントします。 詳細については、「バックアップからのコンテンツデータベースのインポート」(24 ページ)を参照してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ファイルシステムからのインポート コンテンツデータベースをファイルシステムに復元した場合は、[ファイルシステムからのインポート]を使用してコンテンツデータベースを Microsoft SharePoint Server にマウントします。 詳細については、「ファイルシステムからのコンテンツデータベースのインポート」(27 ページ)を参照してください。
<ul style="list-style-type: none"> ● インポートジョブのステータス これにより、インポートジョブ(バックアップまたはファイルシステムからのコンテンツデータベースのインポート処理)のステータスを監視することができます。 詳細については、「詳細復旧インポートジョブの監視」(37 ページ)を参照してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 復旧キャッシュから削除 復旧コンテンツデータベースを Microsoft SharePoint Server からアンマウント(コンテンツデータベースを詳細復旧キャッシュから削除)し、データベースファイルをディスクから削除します。 詳細については、「キャッシュからのコンテンツデータベースの削除」(37 ページ)を参照してください。
<ul style="list-style-type: none"> ● 復旧の開始 これは、復旧コンテンツデータベースに格納されているオブジェクトを選択して復旧するために使用します。 これは、元のサイトからサイトコレクションの管理者も使用可能です([サイトアクション]→[サイト設定]→[詳細復旧])。 詳細については、「[コンテンツ復旧の実行]タスクの実行」(29 ページ)および「サイトアイテムの復旧」(30 ページ)を参照してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ● オリジナルサイト URL オリジナルサイトへのリンクです。 ● 復旧サイト URL 復旧サイトへのリンクです。

バックアップからのコンテンツデータベースのインポート

前提条件

インポート先の Microsoft SQL Server システム上に、インポートするコンテンツデータベースに対して十分なディスクスペースが必要です。

手順

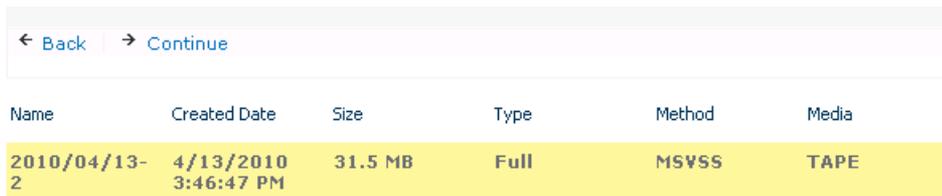
1. [復旧キャッシュ管理] ページで [バックアップからのインポート] をクリックします。[サイトコレクション選択] ページが表示されます。復旧するサイトのコンテンツデータベースを選択し、[続行] をクリックします。

図 8 [サイトコレクション選択] ページ

Site URL	Site Name	Content Database	Web Application Name
http://apno/		WSS_Content	SharePoint - 80
http://apno/	sites/user	WSS_Content	SharePoint - 80
http://apno:23902/		SharePoint_AdminContent_0a8c5c49-3c69-4838-aad0-760edd06b87e	
http://apno:23902/	sites/Help	SharePoint_AdminContent_0a8c5c49-3c69-4838-aad0-760edd06b87e	

2. [バックアップバージョン選択] ページで、復元するコンテンツデータベースのバージョンを選択し、[続行] をクリックします。

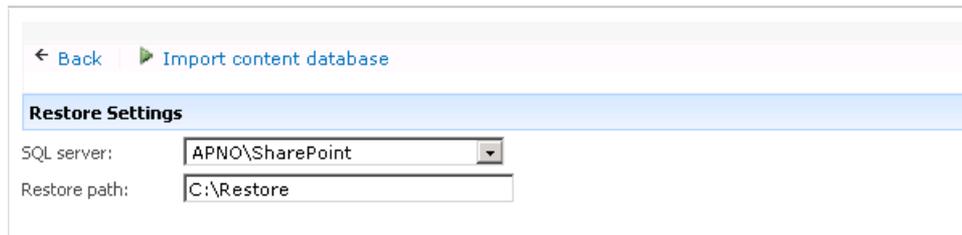
図 9 [バックアップバージョン選択] ページ



Name	Created Date	Size	Type	Method	Media
2010/04/13-2	4/13/2010 3:46:47 PM	31.5 MB	Full	MSVSS	TAPE

3. 以下のように、[コンテンツデータベース復旧] ページが表示されます。

図 10 [コンテンツデータベース復旧] ページ



← Back ▶ Import content database

Restore Settings

SQL server: APNO\SharePoint

Restore path: C:\Restore

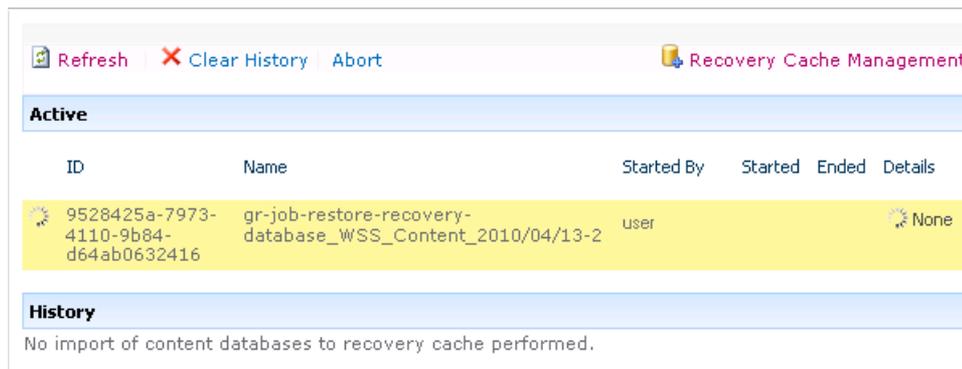
[SQL Server] ドロップダウンリストで、インポート先の Microsoft SQL Server インスタンスを選択します。新しいパスを指定して、デフォルトの復元場所を変更することが可能です。デフォルトの復元場所は C:\Restore です。

注記: Microsoft SQL Server がクラスター内で構成されている場合は、復元場所が Microsoft SQL Server のクラスター共有ディスクに存在することを確認してください。

[コンテンツデータベースのインポート] をクリックします。

4. 必要に応じて、ジョブのステータスを監視するために [続行] をクリックします。[詳細復旧インポートジョブのステータス] ページが以下のように表示されます。

図 11 ジョブのステータスの監視



Refresh Clear History Abort Recovery Cache Management

Active

ID	Name	Started By	Started	Ended	Details
9528425a-7973-4110-9b84-d64ab0632416	gr-job-restore-recovery-database_WSS_Content_2010/04/13-2	user			None

History

No import of content databases to recovery cache performed.

5. [復旧キャッシュ管理] をクリックして [復旧キャッシュ管理] ページに戻ります。コンテンツデータベースが Microsoft SharePoint Server にマウントされます。

図 12 復旧キャッシュ管理

Content Database	Backup Version	Content Database Size	Added	Expires On	Added By
WSS_Content	2010/09/16-2	49.0 MB	9/16/2010 3:42:13 PM	10/7/2010 3:42:13 PM	user

Sites	
Original Site URL	Recovery Site URL
http://apno/	http://apno:38000/1
http://apno/sites	http://apno:38000/sites

注記: コンテンツデータベースが Microsoft SharePoint Server にマウントされると、[コンテンツ復旧の実行] タスクがサイトコレクションの管理者に割り当てられます。

詳細については、「[コンテンツ復旧の実行] タスクの実行」(29 ページ) を参照してください。

ファイルシステムからのコンテンツデータベースのインポート

前提条件

- コンテンツデータベースはファイルシステムに復元する必要があります。
- Windows SharePoint Services Timer サービスを実行しているユーザーアカウントに、コンテンツデータベースへのフルコントロールのアクセス許可が付与されている必要があります。

留意事項

- Microsoft SQL Server データベースプライマリデータファイル、およびすべてのトランザクションログファイルは、ネットワーク共有からはインポートできません。
- サイトがすでに復旧キャッシュ管理に存在していて、そのサイトに対してファイルシステムからのインポートセッションを実行する場合、新しい URL は以下のようになります。
 - `http://computer.company.com:38000/OriginalNameSequenceNumber`
 - `http://computer.company.com:25884/SequenceNumber`
(ルートサイト)
- オリジナルサイトが [復旧キャッシュ管理] に存在しない場合、サイトの URL は変更されません。
- ルートサイトが存在しない場合、復元セッション中に [復旧キャッシュ管理] で空の文字列が使用され、ルートサイトの URL が以下の URL に変更されます。

`http://computer.company.com:25884/SequenceNumber`

手順

1. [復旧キャッシュ管理] ページで [ファイルシステムからのインポート] をクリックします。
2. [コンテンツデータベースのデータの入力] ページで、Microsoft SQL Server データベースプライマリデータファイル *AbsolutePath.mdf* およびすべてのトランザクションログファイル *AbsolutePath.ldf* の場所を指定します。[追加] をクリックします。

[続行] をクリックします。

図 13 コンテンツデータベースのファイルの指定

Central Administration > Enter content database data
Specify database files

< Back > Continue

Database File Location

Database file path: Add

Database Files

File path	Remove
C:\Restore\2010-09-16-2\C\Program Files\Microsoft Office Servers\14.0\Data\MSSQL10.SHAREPOINT\MSSQL\DATA\WSS_Content.mdf	Remove
C:\Restore\2010-09-16-2\C\Program Files\Microsoft Office Servers\14.0\Data\MSSQL10.SHAREPOINT\MSSQL\DATA\WSS_Content_log.LDF	Remove

3. [SQL Server] ドロップダウンリストで、インポート先の Microsoft SQL Server インスタンスを選択します。

図 14 ファイルシステムからのコンテンツデータベースのインポート

Give Feedback User

Central Administration > Import content database
Click **Import content database** to start import.

< Back > Import content database

Import Settings

SQL server:

Database name:

Version:

コンテンツデータベースの名前とバージョンが自動的に入力されます。このデータベースの名前とバージョンは、必要に応じて変更することができます。

[コンテンツデータベースのインポート] をクリックします。

4. 必要に応じて、ジョブのステータスを監視するために [続行] をクリックします。
[詳細復旧インポートジョブのステータス] ページが以下のように表示されます。

図 15 ジョブのステータスの監視

The screenshot shows the 'Active' section of the Recovery Cache Management interface. It features a table with columns for ID, Name, Started By, Started, Ended, and Details. A single job is listed with a yellow background. Below the table is a 'History' section with a message: 'No import of content databases to recovery cache performed.'

ID	Name	Started By	Started	Ended	Details
9528425a-7973-4110-9b84-d64ab0632416	gr-job-restore-recovery-database_WSS_Content_2010/04/13-2	user			None

History
No import of content databases to recovery cache performed.

5. [復旧キャッシュ管理] をクリックして [復旧キャッシュ管理] ページに戻ります。コンテンツデータベースが Microsoft SharePoint Server にマウントされます。

図 16 復旧キャッシュ管理

The screenshot shows the 'Granular Recovery Cache Management' interface. It includes a navigation menu on the left with options like 'Central Administration', 'Application Management', 'System Settings', etc. The main content area is divided into 'Content Databases' and 'Sites' sections. The 'Content Databases' section contains a table with columns for Content Database, Backup Version, Content Database Size, Added, Expires On, and Added By. The 'Sites' section contains a table with columns for Original Site URL and Recovery Site URL.

Content Database	Backup Version	Content Database Size	Added	Expires On	Added By
WSS_Content	2010/09/16-2	49.0 MB	9/16/2010 3:42:13 PM	10/7/2010 3:42:13 PM	user

Original Site URL	Recovery Site URL
http://apno/	http://apno:38000/1
http://apno/sites	http://apno:38000/sites

注記: コンテンツデータベースが Microsoft SharePoint Server にマウントされると、[コンテンツ復旧の実行] タスクがサイトコレクションの管理者に割り当てられます。

詳細については、「[コンテンツ復旧の実行] タスクの実行」(29 ページ) を参照してください。

[コンテンツ復旧の実行] タスクの実行

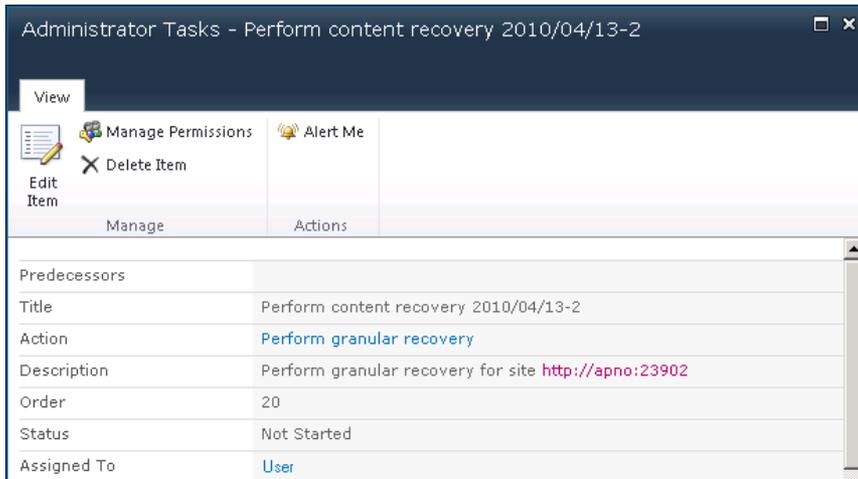
前提条件

- 「バックアップからのコンテンツデータベースのインポート」(24 ページ) または 「ファイルシステムからのコンテンツデータベースのインポート」(27 ページ) に従って、コンテンツデータベースが Microsoft SharePoint Server にマウントされている必要があります。
- 復旧するサイトの **サイトコレクションの管理者** である必要があります。

図 17 [コンテンツ復旧の実行] タスク

Type	Title	Action	Associated Service	System Task	Assigned To	Status	Order	Due Date
	Perform content recovery 2010/09/17 -3 NEW	Perform granular recovery			User	Not Started	20	10/8/2010

図 18 [コンテンツ復旧の実行] リンク



手順

1. [コンテンツ復旧の実行] タスクのリンクをクリックします。[オブジェクトのブラウズと選択] ページが表示されます。
2. [ステップ 2](#)に進みます。

サイトアイテムの復旧

前提条件

- すべてのフロントエンド Web サーバーシステム上に、復旧するサイトアイテムに対して十分なディスクスペースが必要です。デフォルトの復旧先は C:\Recovery です。このデフォルトのパスを変更する場合は、[「HP Data Protector Granular Recovery Extension の設定の変更」 \(38 ページ\)](#) を参照してください。
- 復旧するサイトの **サイトコレクションの管理者** である必要があります。
- 復旧コンテンツデータベースが Microsoft SharePoint Server にマウントされている必要があります。
- オリジナルサイトが消失してしまっている場合は、空のサイトを作成し、**[既存を上書き]** 復旧モードを使用してください。[復旧キャッシュ管理] で復旧するサイトの **ファーム管理者** である必要があります。復旧したサイトにサブサイトがある場合は、クイックリンクとトップナビゲーションバーがリストの最後に再配置されます。
- サイトの URL パスが 260 文字以下であることを確認します。
[存在する場合は名前を変更] 復旧モードを使用する場合は、サイトの URL パスを 255 文字未満にする必要があります。

留意事項

- 復旧するデータが復旧先にすでに存在する場合は、復旧モードに応じて、以下の事項に留意してください。
 - **[存在する場合は名前を変更]:** ファイル、フォルダ、およびアイテムは、別の名前 (*OriginalName_DPGRE_Timestamp*) で復旧されます。たとえば、2009 年 11 月 17 日 10 時 59 分 35 秒にファイル wizard.txt の復旧を開始したとします。このファイルの復旧後の名前は wizard_DPGRE_20091117-105935.txt になります。テンプレート、ドキュメント、およびタスクアイテムは復旧されません。また名前が元の場所に変更されることもありません。
 - **[既存を置き換えない]:** ファイル、フォルダ、およびアイテムは復旧されません。
 - **[既存を上書き]:** ファイル、フォルダ、およびアイテムは元の名前で復旧され、既存のファイル、フォルダ、およびアイテムが置き換えられます。たとえば、既存の Microsoft SharePoint Server アイテム (ドキュメントライブラリ) は、バックアップデータからのアイテムによって上書きされます。ただし、リストとサイトだけは上書きされません。
- 復旧対象のデータが復旧先に存在しない場合、データは元の名前で復旧されます。
- リストアイテム (お知らせ、連絡先、リンク、カレンダー、またはタスク) は、復旧モードに応じて、別の場所に復旧されるか、他のファームに 2 回復旧されます。
 - **[既存を上書き]:** リストアイテムは同じ名前と別の ID で複製されます。同じ名前のアイテムを削除してください。
 - **[存在する場合は名前を変更]:** リストアイテムは、名前の変更がサポートされていない種類であっても、名前が変更されます。
- 添付ファイルや返信のあるディスカッションアイテム、回答のある調査が **[既存を上書き]** 復旧モードで復旧される場合、アイテムは上書きされますが、添付ファイル、返信、回答は復旧されません。データの消失を防ぐには、復旧セッションを開始する前に、添付ファイル、返信、または回答を削除します。
- 復旧対象として同じアイテムを選択している場合を除き、複数の復旧セッションを同時に実行できます。
- 複数のファーム管理者またはサイトコレクションの管理者が同時にオブジェクトをブラウズできます。
- ドキュメントのワークフローステータスを復旧するには、復旧先のサイトでテンプレートおよび関連付けを作成してください。ワークフローステータスは、他のファームに復旧できません。
 - ワークフロー履歴は復旧できません。

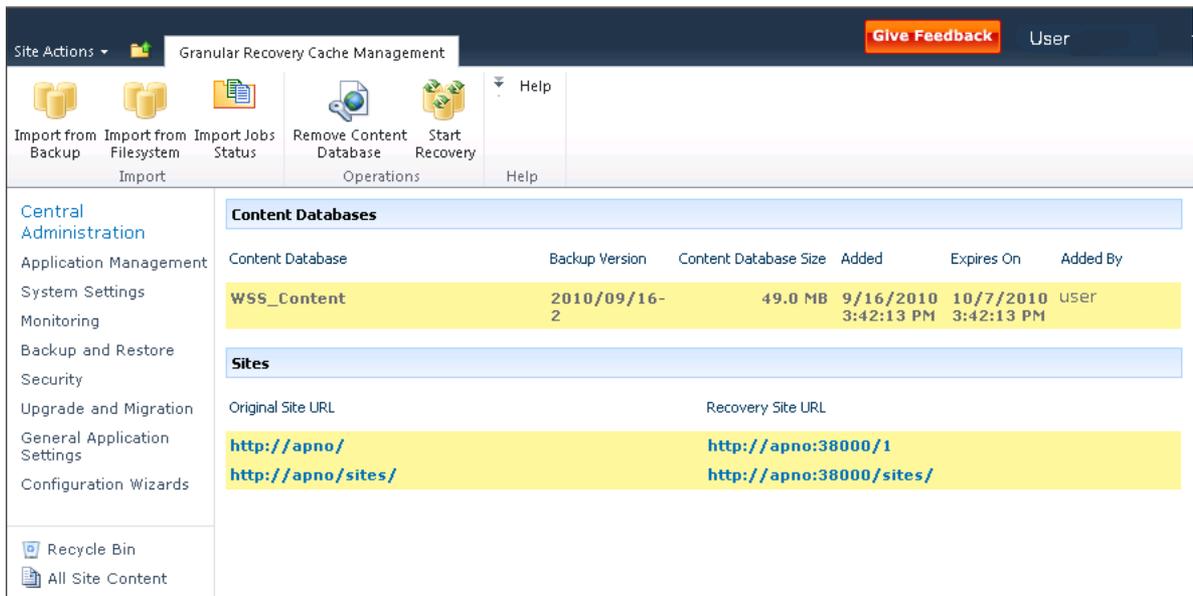
手順

1. [復旧キャッシュ管理] ページで、復旧するコンテンツデータベースおよびサイトを選択します。複数のサイトのデータがコンテンツデータベースに含まれていることがあるので注意してください。

📌 **ヒント:** 複数のサイトからアイテムを復旧するには、**Ctrl** キーを押しながら [サイト] で特定のサイトを複数選択し、[復旧の開始] をクリックします。

また、**Shift** キーを押しながら [サイト] でサイトのグループを選択し、[復旧の開始] をクリックすることも可能です。

図 19 復旧するコンテンツデータベースと複数のサイトの選択

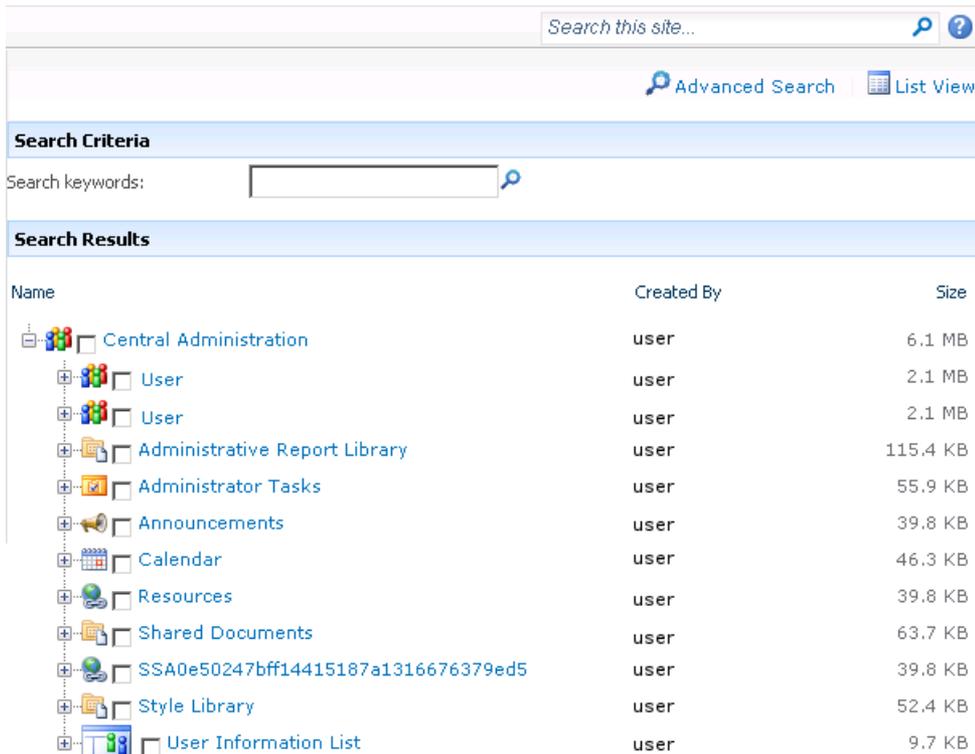


注記: または、以下の方法で復旧セッションを開始することもできます。

- 元の Web サイトに接続します。[サイトアクション]メニューで、[サイト設定]を選択します。[サイト設定] ページで、HP Data Protector Granular Recovery Extension を探します。[詳細復旧] をクリックします。
- サイトタスクを実行します。詳細については、「[コンテンツ復旧の実行] タスクの実行」(29 ページ) を参照してください。

2. [オブジェクトのブラウズと選択] ページで、復旧するサイトアイテムを選択します。

図 20 サイトアイテムの選択



注記: どのアイテムも、アイテム名をクリックするとプレビューできます。



ヒント: 一覧表示されているアイテムを複数選択するには、**Ctrl** キーを押しながら特定のアイテムを選択します。また、**Shift** キーを押しながら一連のアイテムを選択することもできます。

図 21 高度な検索



ヒント: **高度な検索**を使用して、アイテムをフィルタ処理することができます。たとえば、[結果の種類] で [Microsoft Office Word ドキュメント] を選択し、[プロパティ制限の追加] でプロパティを選択し、[検索] をクリックします。

高度なクイック検索の詳細については、『Microsoft SharePoint Server ヘルプ』を参照してください。

一覧表示されているアイテムを複数選択するには、**Ctrl** キーを押しながら特定のアイテムを選択します。また、**Shift** キーを押しながら一連のアイテムを選択することもできます。

[続行] をクリックします。

3. [復旧オブジェクト] ページに、選択したサイトアイテムが表示されます。

注記: [復旧モード] ドロップダウンリストには以下のオプションがあります。

- **[存在する場合は名前を変更]:** ファイルやフォルダなどのアイテムは、新しい名前 (*OriginalName_DPGRE_Timestamp*) で復旧されます。
- **[既存を置き換えない]:** アイテムは復旧されません。既存のアイテムは復旧先で同じ状態のままです。
- **[既存を上書き]:** 既存のアイテムが、復旧したアイテムによって置き換えられます。



ヒント: カレンダーの毎週のチームミーティングなど、繰り返されるイベントを復旧するときは、[既存を上書き] 復旧モードを選択する前に、繰り返されるイベントをすべて削除してください。

図 22 サイトアイテムの復旧

Central Administration ▶ Recovery Objects
Click **Start Recovery** to recover the selected items.

Search this site... [?] [!]

Start Recovery [Back]

Recovery Settings

Recovery Mode:

Temporary Path:

Items for Recovery

Status	Type	Name	Into	Created By	Size	Log
		Central Administration/Announcements	<input type="text" value="Original Location"/>	User	39.8 KB	
		Central Administration/Shared Documents	<input type="text" value="Original Location"/>	User	63.7 KB	

Status

[一時パス] オプションでは、復旧に使用する Microsoft SharePoint Server システム上の場所を指定します。

注記: [復元先] ドロップダウンリストでは、復旧先を以下のように指定します。

- **元の場所:** アイテムは元のサイトの元の場所に復旧されます。
 - **他の場所:** アイテムは、他のサイト、または元のサイトの他の場所に復旧されます。これは、元のサイトが消失してしまっている場合に使用します。
 - **他のファーム:** アイテムは、別の復旧先ファームに復旧されます。
 - **ファイルシステム:** アイテムは、ファイルシステムのディレクトリに復旧されます。このオプションはファイルおよびフォルダに対してのみ使用できます。
- [他の場所] を選択した場合は、[他の場所へ復旧] ダイアログボックスが表示されます。

図 23 別の場所へのサイトアイテムの復旧

Recovery to other location

Destination Site
Select destination site for recovery

Sites

Apply to all items of the same type

[サイト] ドロップダウンリストで復旧先サイトを選択します。

[同じ種類のすべてのアイテムに適用] オプションを選択した場合は、同じ種類のアイテム (カレンダーアイテムなど) が同じ場所に復旧されます。

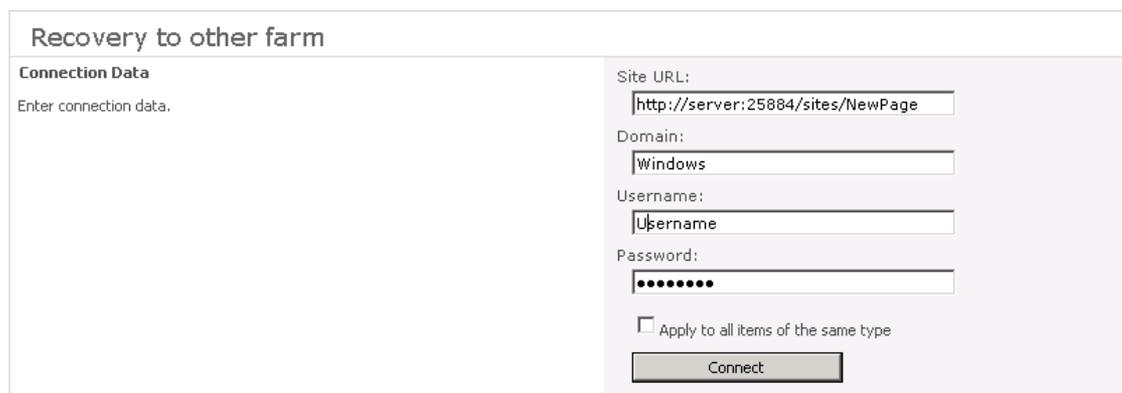
[OK] をクリックします。



ヒント: [他の場所へ復旧] ダイアログボックスには、サイトのうち、十分なパーミッションを保有しているサイトが一覧表示されます。たとえば、サイトコレクションの管理者の場合、構成データベースの読み取り権限が付与されている必要があります。

- [他のファーム] を選択した場合は、[他のファームへ復旧] ダイアログボックスが表示されます。

図 24 別のファームへのサイトアイテムの復旧



復旧先のファームと、使用する Windows ドメインのユーザーアカウントを指定します。

[同じ種類のすべてのアイテムに適用] オプションを選択した場合は、同じ種類のアイテム (カレンダーアイテムなど) が同じファームに復旧されます。

[接続] をクリックします。

- [ファイルシステム] を選択した場合は、[ファイルシステムへ復旧] ダイアログボックスが表示されます。

図 25 ネットワーク共有へのサイトアイテムの復旧



[パス] で復旧先ディレクトリを指定します。

ネットワーク共有を復旧先として指定するときは、以下の条件を満たしている必要があります。

- 復旧セッションを開始するユーザーに、読み取り、書き込み、および変更パーミッションが付与されている。
- 必要なすべてのパーミッションがネットワーク共有に付与されている。**Web Recovery Application** および **SharePoint Central Administration v3** アプリケーションプールで構成されているユーザーアカウントに指定されているものと同じパーミッションを付与してください。詳細については、「[インターネットインフォメーションサービスのアプリケーションプールの構成の確認](#)」(20 ページ) を参照してください。
- 復旧セッションを開始した、Windows SharePoint Services Web Applicationが実行されているシステムから、そのネットワーク共有にアクセスできる。

復旧先としてフォルダを指定するときは、以下の条件を満たしている必要があります。

- Windows SharePoint Services Web Applicationが実行されているシステムから、そのフォルダにアクセスできる。
- 復旧セッションを開始するユーザーに、読み取り、書き込み、および変更パーミッションが付与されている。

[すべてのファイルとフォルダに適用] オプションを選択した場合は、すべてのファイルとフォルダが同じディレクトリに復旧されます。

[OK] をクリックします。

4. [復旧の開始] をクリックします。

復旧が完了すると、指定した復旧先にアイテムが復旧されます。

キャッシュからのコンテンツデータベースの削除

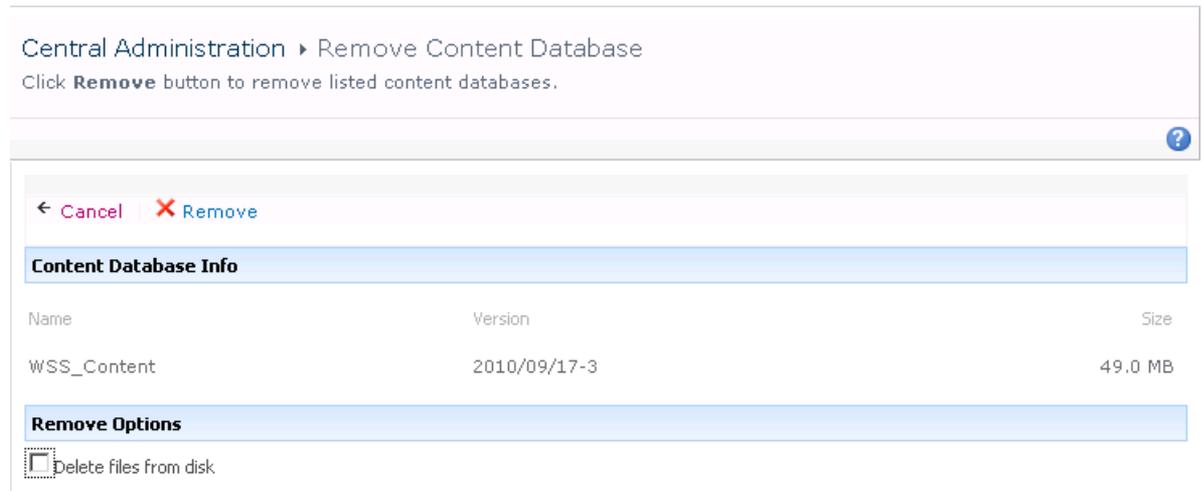
手順

コンテンツデータベースは3週間使用できます。その後は、キャッシュから自動的に削除されます。コンテンツデータベースを復旧キャッシュから手動で削除するには、以下の手順を実行します。

1. [復旧キャッシュ管理] ページで、削除するコンテンツデータベースを選択し、[復旧キャッシュから削除] をクリックします。[復旧キャッシュから削除] ページが表示されます。
2. コンテンツデータベースのファイルをディスクに残しておくには、[ディスクからファイルを削除] オプションをオフにします。

[削除] をクリックします。

図 26 コンテンツデータベースの削除



詳細復旧インポートジョブの監視

手順

1. [サーバーの全体管理] Web ページに接続します。
2. Microsoft Office SharePoint Server 2007 特有の手順: [操作] タブをクリックします。
3. **HP Data Protector Granular Recovery Extension** を探して、[詳細復旧ジョブのステータス] をクリックします。[詳細復旧インポートジョブ] ページが表示されます。
4. コンテンツデータベースのインポートセッションを開始すると、HP Data Protector Granular Recovery Extension でインポートジョブの進行状況の監視が開始されます。

図 27 インポートジョブの進行状況の監視

Central Administration ▶ Granular Recovery Import Job Status
Click **Refresh** to update jobs list.

Refresh Clear History Abort Recovery Cache Management

Active

ID	Name	Started By	Started	Ended	Details
1021ebca-05b3-4637-9a90-27e9069e5111	gr-job-restore-recovery-database_WSS_Content_2010/04/13-2	user			None

History

Status	ID	Name	Started By	Started	Ended	Details
✓	93a17a01-0ec4-421b-8b7d-4778ecec0a14	gr-job-restore-recovery-database_WSS_Content_2010/09/16-2	user	9/16/2010 3:40:22 PM	9/16/2010 3:42:13 PM	✓ Checking disk space ✓ Restoring ✓ Mounting ✓ Creating recovery cache remove job Starting ✓ recovery cache content source crawl Posting recovery tasks to site collection administrators

必要に応じて、復旧ジョブの完了後にジョブステータスが不要になった場合は [履歴のクリア] をクリックします。

進行中の操作を停止するには、[中止] をクリックします。

HP Data Protector Granular Recovery Extension の設定の変更

詳細復旧セッションでは、選択した Microsoft SQL Server システム上の一時的な場所 (デフォルトでは C:\Restore) に、まずコンテンツデータベースが復元されます。

サイトアイテムは、復旧される前に Microsoft SharePoint Server システム上の一時的な場所 (デフォルトでは C:\Recovery) にコピーされます。

手順

1. これらのデフォルトの場所を変更するには、[サーバーの全体管理] Web ページに接続します。
2. Microsoft Office SharePoint Server 2007 特有の手順: [操作] タブをクリックします。
HP Data Protector Granular Recovery Extension を探して、[詳細復旧設定] をクリックします。
3. [詳細復旧設定] ページで、新しい復旧場所または一時復旧場所を入力し、[OK] をクリックします。

図 28 詳細復旧設定の変更

Product Version View Granular Recovery Extension version.	Version 6.11.28.1500
Default SQL Server for Import Select default SQL Server for import of content database.	SQL server <input type="text" value="APNO\SharePoint"/>
Restore Location Specify path on SQL server to which selected content database will be restored during import from backup.	Path <input type="text" value="C:\Restore"/> Example: c:\Restore
Temporary Location for Recovery Specify path for temporary files created during recovery.	Path <input type="text" value="C:\Recovery"/> Example: c:\Recovery

6 コマンドラインリファレンス

使用するコマンドラインツール `HP.SharePoint.GranularRecovery.CLI.exe` は、以下の場所にあります。

Microsoft Office SharePoint Server 2007:

```
C:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\Web Server Extensions\12\BIN
```

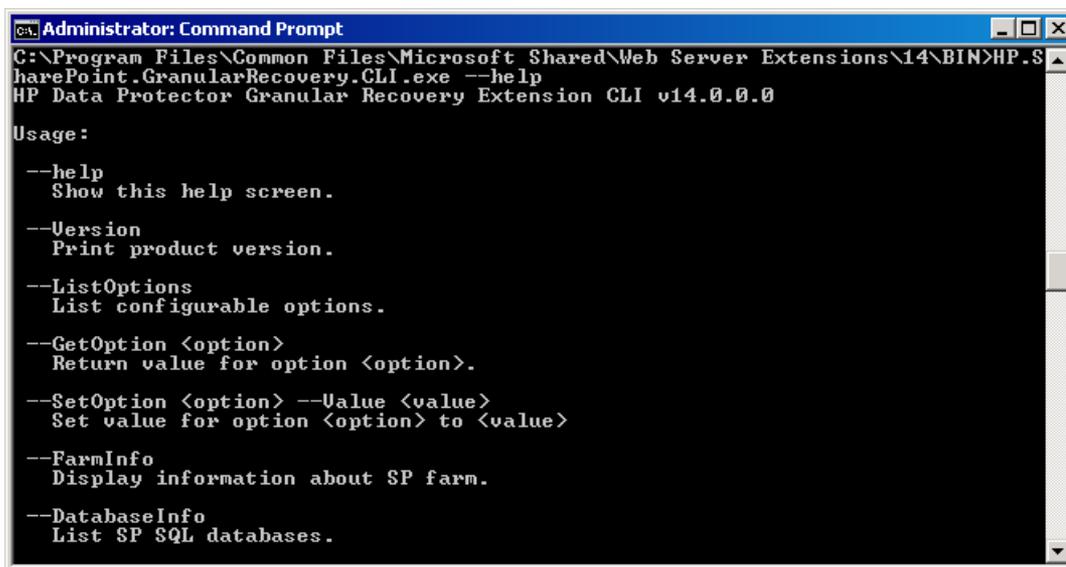
Microsoft SharePoint Server 2010:

```
C:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14\BIN
```

オプションの説明と使用方法を表示するには、以下のコマンドを実行します。

```
HP.SharePoint.GranularRecovery.CLI.exe --help.
```

図 29 コマンドラインヘルプの表示



注記: 以下の例では、簡単にするために `HP.SharePoint.GranularRecovery.CLI.exe` が省略されています。

例

Data Protector バックアップからのコンテンツデータベースの復元

- `WSS_Content_054a5bfa-f23c-49b8-8f78-e0b3ce00b193` という名前のコンテンツデータベースのバックアップバージョンをすべて一覧表示するには、以下のように指定します。

```
--ListBackupVersions  
--ContentDB=WSS_Content_054a5bfa-f23c-49b8-8f78-e0b3ce00b193
```

ジョブの進行状況の監視

- 開始されたコンテンツデータベースのジョブをすべて一覧表示するには、以下のように指定します。

```
--ListJobs
```

- バックアップバージョン「2010/04/20-4」からデフォルトの復元場所 C:\Restore にコンテンツデータベースをインポートして復元ジョブを開始するには、以下のように指定します。

```
--StartImportJob
--ContentDB WSS_Content_054a5bfa-f23c-49b8-8f78-e0b3ce00b193
--BackupID "2010/04/20-4" --Server computer
--Instance OFFICESERVERS --TargetLocation C:\Restore
```

- Microsoft SharePoint Server のファイルシステムからデフォルトの復元場所 C:\Restore にコンテンツデータベースをインポートして復元ジョブを開始するとします。

Microsoft SQL Server データベースプライマリデータファイルが WSS_Content_054a5bfa-f23c-49b8-8f78-e0b3ce00b193.mdf で、SQL Server トランザクションログファイルが WSS_Content054a5bfa-f23c-49b8-8f78-e0b3ce00b193_log.LDF である場合は、以下のように指定します。

```
--StartImportJob
--ContentDB WSS_Content_054a5bfa-f23c-49b8-8f78-e0b3ce00b193
--BackupID "2010/04/20-4" --Server computer
--Instance OFFICESERVERS
--Files="C:\Restore\WSS_Content_054a5bfa-f23c-49b8-8f78-e0b3ce00b193.mdf";"C:\Restore\WSS_Content054a5bfa-f23c-49b8-8f78-e0b3ce00b193_log.LDF"
--TargetLocation C:\Restore
```

復元先のディスク容量の確認

- デフォルトの復元先 C:\Restore の空き容量を確認するには、以下のように指定します。

```
--QueryServerInfo --Server computer --Instance OFFICESERVERS
--TargetLocation C:\Restore
```

この場合、コンテンツデータベースのすべてのファイルの場所がツリー構造で一覧表示されます。

コンテンツデータベースの一覧表示

- バックアップバージョンを含め、復旧キャッシュのすべてのコンテンツデータベースを一覧表示するには、以下のように指定します。

```
--ListCache --All
```

- コンテンツデータベースの詳細情報を一覧表示するには、以下のように指定します。

```
--ListCache --Verbose
```

復元ジョブの削除

- 復元ジョブのステータスをすべて削除するには、以下のように指定します。

```
--DeleteAllJobs Confirm
```

- 特定の復元ジョブを削除するには、以下のように指定します。

```
--DeleteJob=JobID
```

オリジナルサイトへのサイトアイテムの復旧

- サイト `http://computer.company.com:25884/sites/AnikyB` からバックアップされたサイトアイテム `/Shared Documents/Document.txt` を復旧するとします。また、復旧サイトは `http://computer.company.com:38000/sites/AnikyB` であるとします。サイトアイテムを元の場所に復旧するには、以下のように指定します。

```
--Recover
--Source http://computer.company.com:38000/sites/AnikyB
--Destination http://computer.company.com:25884/sites/AnikyB
--TempLocation="C:\Recovery"
--Items "/Shared Documents/Document.txt"
```

復旧セッションが完了すると、以下のメッセージが表示されます。

```
recovery ended, object status:object:[/Shared Documents/Document.txt]
destination:[/Shared Documents/Document_MOSSGR_24032010-024302.txt]
status:Finished status details:[recovered to
 [http://computer.company.com:25884/sites/AnikyB//Shared Documents]]
```

別の場所へのサイトアイテムの復旧

- サイトアイテム `"/Shared Documents/Document.txt"` を My Documents に復旧するには、以下のように指定します。

```
--Recover
--Source http://computer.company.com:38000/sites/AnikyB
--Destination http://computer.company.com:25884/sites/AnikyB
--TempLocation="C:\Recovery"
--Items "/Shared Documents/Document.txt:/My Documents"
```

キャッシュからのコンテンツデータベースの削除

- キャッシュからデータベースを削除するには、以下のように指定します。
`--RemoveFromCache --ContentDB DatabaseName --BackupID BackupID`
- キャッシュからコンテンツデータベースをすべて削除するには、以下のように指定します。
`--RemoveFromCache --All`

ディスクからのコンテンツデータベースの削除

- あるコンテンツデータベースをキャッシュから削除した後、それをディスクから削除するには、以下のように指定します。

```
--RemoveFromCache --ContentDB DatabaseName --DeleteFiles
```

コンテンツデータベースの自動削除の設定

コンテンツデータベースは 21 日間 (デフォルトの保持期間) 使用できます。この期間が経過するとコンテンツデータベースはキャッシュから削除されます。

- コンテンツデータベースがキャッシュから削除され使用できなくなるまでの時間 (日数) を表示するには、以下のように指定します。

```
--GetOption RecoveryDatabaseAutoCleanupDays
```

- コンテンツデータベースがキャッシュから自動的に削除され使用できなくなるまでの時間を設定するには、以下のように指定します。

```
--SetOption RecoveryDatabaseAutoCleanupDays --Value number_of_days
```

コンテンツデータベースからのアイテムのエクスポート

- あるアイテムをコンテンツデータベースからエクスポートするには、以下のように指定します。

```
--Export --Source source --Location path  
--Item item
```

- 複数のアイテムをコンテンツデータベースからエクスポートするには、以下のように指定します。

```
--Export --Source source --Location path  
--Items item1 item2 item3
```

注記: ワークフローはエクスポートできません。

エクスポートするアイテムの一覧表示

- エクスポートするアイテムを一覧表示するには、以下のように指定します。

```
--ListExport --Location
```

コンテンツデータベースからのアイテムのインポート

- あるアイテムをコンテンツデータベースからインポートするには、以下のように指定します。

```
--Import --Destination destination --Location path  
--Item item
```

- 複数のアイテムをコンテンツデータベースからインポートするには、以下のように指定します。

```
--Import --Destination destination --Location path  
--Items item1 item2 item3
```

注記: ワークフローはインポートできません。

Microsoft SharePoint ファームの情報の表示

- ファームの詳細情報 (名前、表示名、アドレス、タイプ名、ロール、バージョン、ステータス、そのファームで実行されているすべてのサービスなど) を表示するには、以下のように指定します。

```
--FarmInfo
```

コンテンツデータベースの情報の表示

- コンテンツデータベースの情報 (Office Servers、Shared Services、SharePoint 構成、Share Services Search、復旧 Web アプリケーション、Shared Services Content、SharePoint Admin Content、コンテンツデータベース名など、コンテンツデータベース名など) を表示するには、以下のように指定します。

```
--DatabaseInfo
```

サイトの一覧の表示

- Web アプリケーション名、サイトの URL、コンテンツデータベース名、そのコンテンツデータベースのすべてのサイトを表示するには、以下のように指定します。

```
--ListSites
```

サイトのブラウズ

- マイサイトの構造およびアイテム (フォーム、リスト、テンプレートギャラリー、マスターページギャラリー、個人用ドキュメント、共有ドキュメント、共有画像、サイトテンプレートギャラリー、ユーザー情報リスト、Web パーツギャラリーなど) をブラウズするには、以下のように指定します。

```
--BrowseSite --Site http://ivanka/personal/anikyb
```

詳細復旧のバージョンの表示

- 詳細復旧のバージョンを表示するには、以下のように指定します。

```
--Version
```

7 トラブルシューティング

デバッグエントリおよびログを含むフォルダは、次のフォルダにあります。

Microsoft Office SharePoint Server 2007:

C:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\Web Server Extensions\12\LOGS\GranularRecovery

Microsoft SharePoint Server 2010:

C:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14\LOGS\GranularRecovery

このフォルダには、debugs.txt、debugs_cliproxy.txt、note.txt、およびnote_cliproxy.txt ファイルがあります。フォルダの場所は、Microsoft SharePoint Server のインストール先により異なる場合があります。

インポートジョブが失敗する

問題

[バックアップからのインポート] を実行した後、復元中フェーズでの失敗ステータスが [詳細復旧インポートジョブのステータス] で報告されます。

図 30 不十分なユーザー権限での復元の失敗

Central Administration > Granular Recovery Import Job Status
Click **Refresh** to update jobs list.

Refresh Clear History Abort Recovery Cache Management

Active
No import of content database to recovery cache is in progress.

History

Status	ID	Name	Started By	Started	Ended	Details
✖	1021ebca-05b3-4637-9a90-27e9069e5111	gr-job-restore-recovery-database_WSS_Content_2010/04/13-2	user	9/16/2010 4:25:37 PM	9/16/2010 4:26:58 PM	✔ Checking disk space ✖ Restoring - Restore failed.

対処方法

Windows SharePoint Services Timer サービスを実行しているユーザーアカウントに、Data Protector の [復元の開始] および [プライベートオブジェクトを表示] の各ユーザー権限が割り当てられていることを確認します。たとえば、Windows SharePoint Services Timer サービスがネットワークサービスアカウントで実行されている場合は、次の手順に従います。

1. Data Protector GUI ([Data Protector Manager]) を開きます。
2. コンテキストリストで [ユーザー] を選択します。[復元の開始] および [プライベートオブジェクトを表示] ユーザー権限を持つユーザーグループを右クリックし、[ユーザーの追加/削除] をクリックします。

[ネットワークサービス] ユーザーアカウントは以下のプロパティで構成されています。

- 名前: ネットワークサービス
- ドメイン/グループ: NT Authority

- クライアントシステム: 任意

詳細については、「[「HP Data Protector のユーザー権限の構成」 \(18 ページ\)](#)を参照してください。

インポートジョブが失敗する

問題

バックアップからのインポートを実行した後に、[詳細復旧インポートジョブのステータス] に [使用可能なスペース不足] が報告され、[詳細] 列に [ディスク容量をチェックしています。] が表示されます。

図 31 十分でないディスクスペースによる復元の失敗

ID	Name	Started By	Started	Ended	Details
e06fc2ce-c9af-44b0-ba29-967d7a41ea7f	gr-job-restore-recovery-database_WSS_Content_2011/02/28-8	ESC\tic	2/28/2011 11:55:36 AM		<ul style="list-style-type: none"> Checking disk space Restoring 0%

対処方法

問題の根本的な原因は、インターネット接続がないこと、および HP Data Protector Granular Recovery Extension の署名の確認が完了するまでかなり長い時間がかかる場合があることです。以下の手順を実行します。

- インターネット接続があることを確認します。
- 署名の確認を無効にします。

HP Data Protector Granular Recovery Extension の署名の確認を無効にするには、次の手順を実行します。

1. Microsoft SharePoint Server BIN フォルダ内で、cliproxy.exe ファイルと HP.Sharepoint.GranularRecovery.CLI.exe ファイルを探します。デフォルトで、BIN フォルダは以下のディレクトリにあります。

Microsoft Office SharePoint Server 2007:

C:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\Web Server Extensions\12

Microsoft SharePoint Server 2010:

C:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14

2. BIN フォルダで、以下の内容が入力された構成ファイル cliproxy.exe.config および HP.Sharepoint.GranularRecovery.CLI.exe.config を作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
```

```
<configuration>
  <runtime>
    <generatePublisherEvidence enabled="false"/>
  </runtime>
</configuration>
```

復旧セッションが失敗する

問題

オリジナルの Web サイトに接続して復旧セッションを開始した場合に、以下のメッセージが表示されます。

このサイト <http://computer:25884/sites/User!> に使用できる復旧はありません。詳細については、詳細復旧管理者にお問い合わせください!

対処方法

この問題の根本的な原因は、コンテンツデータベースがキャッシュ内に存在しないことです。インポートジョブを実行してください。

マイサイトから詳細復旧キャッシュ管理リンクにアクセスできない

問題

新しいサイトコレクション、新しい Web アプリケーションを作成し、新しいサイトコレクションをバックアップした後、マイサイトで [サイトアクション] → [サイト設定] → [詳細復旧] の順に選択すると、マイサイトから詳細復旧キャッシュ管理リンクにアクセスできません。以下のメッセージが表示されます。

サイトの "App_GlobalResources" フォルダに GR リソースファイルが見つかりません。

対処方法

1. 次の方法で [サーバーの全体管理] を開きます。

Microsoft Office SharePoint Server 2007:

[操作] タブの [グローバル構成] で、[ファーム機能の管理] を選択します。

Microsoft SharePoint Server 2010:

[システム設定] で、[ファーム機能の管理] を選択します。

2. HP Data Protector Granular Recovery Extension の [非アクティブ化] をクリックします。
[警告] ページが表示されます。この機能を非アクティブ化するリンクをクリックし、[ファーム機能の管理] に戻って HP Data Protector Granular Recovery Extension の [アクティブ化] をクリックします。

図 32 [ファーム機能の管理] での HP Data Protector Granular Recovery Extension の非アクティブ化

Central Administration ▶ Manage Farm Features
This page allows you to manage SharePoint-wide features.

Name	Status
 "Connect to Office" Ribbon Controls Adds entry points in the ribbon user interface for creating library shortcuts in the user's SharePoint Sites list if they have a recent version of Office installed. Office will periodically cache templates available in those libraries on the user's local machine.	Deactivate Active
 Access Services Farm Feature Adds farm-level Access Services Features to the Microsoft SharePoint Foundation framework	Deactivate Active
 Data Connection Library Adds Data Connection Library feature	Deactivate Active
 Excel Services Farm Feature Adds farm-level Excel Services Features to the Microsoft SharePoint Foundation framework	Deactivate Active
 Excel Services Farm Feature Adds farm-level Excel Services Features to the Microsoft SharePoint Foundation framework	Deactivate Active
 FAST Search for SharePoint Master Job Provisioning Provisions FAST Search for SharePoint Master Job.	Deactivate Active
 Global Web Parts Installs additional web parts common to all types of sites.	Deactivate Active
 HP Data Protector Granular Recovery Extension HP Data Protector Granular Recovery Extension	Deactivate Active

マイサイトから詳細復旧キャッシュ管理リンクにアクセスできない

問題

新しいサイトコレクション、新しいWebアプリケーションを作成し、新しいサイトコレクションをバックアップした後、[バックアップからのインポート]の手順を実行してから、マイサイトで[サイトアクション]→[サイト設定]→[詳細復旧]の順に選択すると、マイサイトから詳細復旧キャッシュ管理リンクにアクセスできません。「アクセスが拒否されました」というメッセージが表示されます。また、以下のデバッグエントリが表示されます。

[6 - Fatal] FATAL デバッグ - Recovery.aspx:OnPreInit:- 例外: スレッドを中止しようとしてしました。

対処方法

アプリケーションプールのすべてのユーザーには、復旧 Web アプリケーションでの読み取りパーミッションが付与されている必要があります。アプリケーションプールのユーザーアカウントに読み取りパーミッションを付与するには、次の手順に従います。

1. 次の方法で、Microsoft SharePoint Server サーバーの全体管理システムに接続します。

Microsoft Office SharePoint Server 2007:

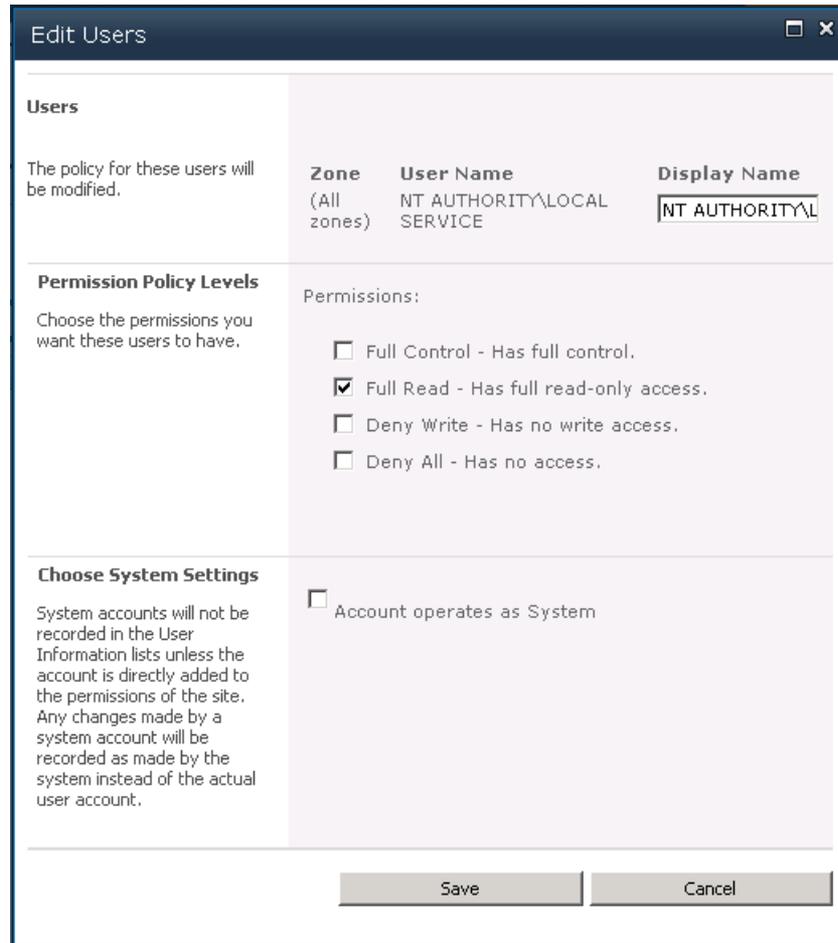
[アプリケーション管理] をクリックし、[アプリケーションセキュリティ] の [Web アプリケーションのポリシー] をクリックします。

Microsoft SharePoint Server 2010:

[アプリケーション管理] で、[Web アプリケーションの管理]→ [Web アプリケーションの復旧] を選択し、[ユーザーポリシー] をクリックします。[Web アプリケーションのポリシー] が表示されます。

2. ユーザーを選択し、[選択したユーザーの権限を編集] をクリックします。[ユーザーの編集] ページが表示されます。[アクセス許可ポリシーレベル] で、[すべて読み取り - すべてに読み取り専用のアクセス権を持ちます。] オプションを選択し、[保存] ボタンをクリックします。

図 33 [すべて読み取り] 権限の付与



コマンドラインインタフェースの応答が遅い

問題

HP Data Protector Granular Recovery Extension のコマンドラインインタフェースの応答が遅いのに気付くことがあります。たとえば、`HP.Sharepoint.GranularRecovery.CLI.exe --help` というコマンドを実行すると、使用方法が表示されるのに 10 秒から数分かかります。この問題の根本的な原因は、HP Data Protector Granular Recovery Extension の署名の検証が完了するのに時間が相当かかることがあるためです。

対処方法

HP Data Protector Granular Recovery Extension の署名の確認を無効にするには、次の手順を実行します。

1. Microsoft SharePoint Server BIN フォルダ内で、cliproxy.exe ファイルと HP.Sharepoint.GranularRecovery.CLI.exe ファイルを探します。BIN フォルダのパスは、デフォルトでは次のとおりです。

Microsoft Office SharePoint Server 2007:

C:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\Web Server Extensions\12\BIN

Microsoft SharePoint Server 2010:

C:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14\BIN

2. BIN フォルダで、以下の内容が入力された構成ファイル cliproxy.exe.config および HP.Sharepoint.GranularRecovery.CLI.exe.config を作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
<configuration>
  <runtime>
    <generatePublisherEvidence enabled="false"/>
  </runtime>
</configuration>
```

グラフィカルユーザーインターフェースの応答が遅い

問題

HP Data Protector Granular Recovery Extension の GUI の応答が遅いのに気付くことがあります。たとえば、バックアップまたはファイルシステムからコンテンツデータベースをインポートするときにこの現象が発生することがあります。この場合、インポートジョブがタイムアウトになって失敗することがあります。この問題の根本的な原因は、HP Data Protector Granular Recovery Extension の署名の検証が完了するのにかかる時間が長すぎるためです。

対処方法

HP Data Protector Granular Recovery Extension の署名の確認を無効にするには、次の手順を実行します。

1. Microsoft SharePoint Server BIN フォルダ内で、cliproxy.exe ファイルと HP.Sharepoint.GranularRecovery.CLI.exe ファイルを探します。BIN フォルダのパスは、デフォルトでは次のとおりです。

Microsoft Office SharePoint Server 2007:

C:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\Web Server Extensions\12\BIN

Microsoft SharePoint Server 2010:

C:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14\BIN

2. BIN フォルダで、以下の内容が入力された構成ファイル cliproxy.exe.config および HP.Sharepoint.GranularRecovery.CLI.exe.config を作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
<configuration>
  <runtime>
    <generatePublisherEvidence enabled="false"/>
  </runtime>
</configuration>
```

Data Protector サービスが実行されていない

問題

ファイルシステムセッションからインポートを実行したときに、次のメッセージが表示されません。必要な Data Protector サービスが実行されていません。

対処方法

1. [コントロールパネル]を開いて、[管理ツール]→[サービス]の順にダブルクリックします。Data Protector サービスを探して、その無効になっているサービスを右クリックし、[開始]をクリックして有効にします。
2. [バックアップバージョン選択] ページで、[戻る]をクリックしてセッションを終了します。

[復元中 - マウント要求を保留] ステータス

問題

バックアップセッションからのインポートを実行したときに、[詳細復旧インポートジョブのステータス] ページに [復元中 - マウント要求を保留] ステータスが表示されます。

対処方法

1. Data Protector GUI (Data Protector Manager) を開きます。
2. [モニター] コンテキストで、マウント要求の有無を確認します。マウント要求を確認し、バックアップセッションを再起動します。
3. バックアップセッションが終了したら、バックアップセッションからのインポートを再度実行します。

サブフォルダが元の場所に復旧されない

問題

Microsoft SharePoint Server 2010 システムで、サブフォルダがあるフォルダを復旧するとき、親フォルダは復旧されますが、サブフォルダが復旧されません。

対処方法

ユーザーがフォルダを削除すると、Microsoft SharePoint Server は、そのフォルダをサイトコレクションのごみ箱に入れます。フォルダとそのサブフォルダを元の場所に復旧するには、Granular Recovery Extension を使用して次の手順を実行します。

1. サイトコレクションのごみ箱で、フォルダを選択して、[選択内容を削除] をクリックします。
2. フォルダの復旧セッションを再度実行します。

Granular Recovery Extension コンポーネントのインストールに失敗する

問題

Granular Recovery Extension コンポーネントを有効にした状態で、HP Data Protector のインストールが失敗します。

対処方法

HP Data Protector の標準インストール手順を使用せずに、HP Data Protector Granular Recovery Extension を手動でインストールするには、以下の手順を実行します。

1. Microsoft SharePoint Server サーバーの全体管理システムに、Microsoft SharePoint Server **ファーム管理者**ユーザーアカウントでログオンします。

2. [スタート] メニューで、[コマンドプロンプト] を右クリックし、[管理者として実行] を選択します。
3. 現在のディレクトリを、製品のインストールプロセス中に自己解凍アーカイブから抽出されたファイルがある `Data_Protector_home\bin` ディレクトリに変更します。
4. `grm_install` を実行して、HP Data Protector Granular Recovery Extension ソリューションをインストールします。インストールが完了したら、次のメッセージが [コマンドプロンプト] ウィンドウに表示されます。
完了しました。

Granular Recovery Extension の削除に失敗する

問題

HP Data Protector を削除しても、HP Data Protector Granular Recovery Extension が削除されません。

対処方法

HP Data Protector の標準的な削除手順を使用せずに、HP Data Protector Granular Recovery Extension を手動で削除するには、以下の手順を実行します。

1. Microsoft SharePoint Server サーバーの全体管理システムに、Microsoft SharePoint Server **ファーム管理者** ユーザーアカウントでログオンします。
2. [スタート] メニューで、[コマンドプロンプト] を右クリックし、[管理者として実行] を選択します。
3. 現在のディレクトリを、製品のインストールプロセス中に自己解凍アーカイブから抽出されたファイルがある `\bin` ディレクトリに変更します。
4. `grm_uninstall` を実行して、HP Data Protector Granular Recovery Extension ソリューションを削除します。削除処理が完了したら、次のメッセージが [コマンドプロンプト] ウィンドウに表示されます。
完了しました。

サーバーの全体管理上の複数のサーバーを含むファームで、インストールが突然終了する

問題

サーバーの全体管理上の複数のサーバーを含むファームで、HP Data Protector Granular Recovery Extension のインストールが突然終了しました。

対処方法

サーバーの全体管理上で、次のサービスが有効になっていることを確認します。

Microsoft Office SharePoint Server 2007:

Windows SharePoint Services Web Application

Microsoft SharePoint Server 2010:

Microsoft SharePoint Foundation Web Application

図 34 サーバーの全体管理サービスを有効にする

The screenshot shows the 'Services on Server' page in the SharePoint 2010 Central Administration console. The page title is 'Central Administration > Services on Server' and it includes a sub-header: 'Use this page to start or stop instances of services on servers in the farm'. The page features a navigation menu on the left with categories like 'Central Administration', 'Application Management', 'System Settings', etc. At the top right, there are 'I Like It' and 'Tags & Notes' buttons. Below the navigation, there are filters for 'Server' (set to 'Server') and 'View' (set to 'Configurable'). The main content is a table of services with columns for 'Service', 'Status', and 'Action'.

Service	Status	Action
Access Database Service	Started	Stop
Application Registry Service	Started	Stop
Business Data Connectivity Service	Started	Stop
Central Administration	Started	Stop
Claims to Windows Token Service	Stopped	Start
Document Conversions Launcher Service	Stopped	Start
Document Conversions Load Balancer Service	Stopped	Start
Excel Calculation Services	Started	Stop
Lotus Notes Connector	Stopped	Start
Managed Metadata Web Service	Started	Stop
Microsoft SharePoint Foundation Incoming E-Mail	Started	Stop
Microsoft SharePoint Foundation Sandboxed Code Service	Stopped	Start
Microsoft SharePoint Foundation Subscription Settings Service	Stopped	Start
Microsoft SharePoint Foundation Web Application	Started	Stop
Microsoft SharePoint Foundation Workflow Timer Service	Started	Stop

用語集

A

- ACSL** **(StorageTek 固有の用語)**Automated Cartridge System Library Server の略語。ACS(Automated Cartridge System: 自動カートリッジシステム) を管理するソフトウェア。
- Active Directory** **(Windows 固有の用語)**Windows ネットワークで使用されるディレクトリサービス。ネットワーク上のリソースに関する情報を格納し、ユーザーやアプリケーションからアクセスできるように維持します。このディレクトリサービスでは、サービスが実際に稼動している物理システムの違いに関係なく、リソースに対する名前や説明の付加、検索、アクセス、および管理を一貫した方法で実行できます。
- AES 256 ビット暗号化** 256 ビット長のランダムキーを使用する AES-CTR(Advanced Encryption Standard in Counter Mode) 暗号化アルゴリズムを基にした Data Protector ソフトウェア暗号化。暗号化と復号化の両方で同じキーが使用されます。データはネットワークを介して転送される前およびメディアに書き込まれる前に、AES256 ビット暗号化機能によって暗号化されます。
- AML** **(ADIC/GRAU 固有の用語)**Automated Mixed-Media library(自動混合メディアライブラリ) の略。
- AMU** **(ADIC/GRAU 固有の用語)**Archive Management Unit(アーカイブ管理単位) の略。
- Application Agent** クライアント上でオンラインデータベース統合ソフトウェアを復元およびバックアップするために必要なコンポーネント。
Disk Agent も参照。
- ASR セット** フロッピーディスク上に保存されたファイルのコレクション。交換用ディスクの適切な再構成 (ディスクパーティション化と論理ボリュームの構成) およびフルクライアントバックアップでバックアップされたオリジナルシステム構成とユーザーデータの自動復旧に必要となります。これらのファイルは、バックアップメディア上に保存されると共に、Cell Manager 上の `Data_Protector_program_data\Config\Server\dr\asr` ディレクトリ (Windows Server 2008 の場合)、`Data_Protector_home\Config\Server\dr\asr` ディレクトリ (その他の Windows システムの場合)、または `/etc/opt/omni/server/dr/asr` ディレクトリ (UNIX システムの場合) に保存されます。障害が発生すると、ASR アーカイブファイルは複数のフロッピーディスクに展開されます。これらのフロッピーディスクは、ASR の実行時に必要となります。

B

- BACKINT** **(SAP R/3 固有の用語)**SAP R/3 バックアッププログラムが、オープンインタフェースへの呼び出しを通じて Data Protector backint インタフェースソフトウェアを呼び出し、Data Protector ソフトウェアと通信できるようにします。バックアップ時および復元時には、SAP R/3 プログラムが Data Protectorbackint インタフェースを通じてコマンドを発行します。
- BC** **(EMC Symmetrix 固有の用語)**Business Continuance の略。BC は、EMC Symmetrix 標準デバイスのインスタントコピーに対するアクセスおよび管理を可能にするプロセスです。
BCV も参照。
- BC Process** **(EMC Symmetrix 固有の用語)** 保護されたストレージ環境のソリューション。特別に構成された EMC Symmetrix デバイスを、EMC Symmetrix 標準デバイス上でデータを保護するために、ミラーとして、つまり Business Continuance Volumes として規定します。
BCV も参照。
- BCV** **(EMC Symmetrix 固有の用語)**Business Continuance Volumes の略。BCV デバイスは ICDA 内であらかじめ構成された専用の SLD です。ビジネスの継続運用を可能にするために使用されます。BCV デバイスには、これらのデバイスによりミラー化される SLD のアドレスとは異なる、個別の SCSI アドレスが割り当てられます。BCV デバイスは、保護を必要とする一次 EMC Symmetrix SLD の分割可能なミラーとして使用されます。
BC および BC Process も参照。
- BRARCHIVE** **(SAP R/3 固有の用語)**SAP R/3 バックアップツールの 1 つ。アーカイブ REDO ログファイルをバックアップできます。BRARCHIVE では、アーカイブプロセスのすべてのログとプロファイルも保存されます。
BRBACKUP および BRRESTORE も参照。

BRBACKUP	(SAP R/3 固有の用語) SAP R/3 バックアップツールの 1 つ。制御ファイル、個々のデータファイル、またはすべての表領域をオンラインでもオフラインでもバックアップできます。また、必要に応じて、オンライン REDO ログファイルをバックアップすることもできます。BRARCHIVE および BRRESTORE も参照。
BRRESTORE	(SAP R/3 固有の用語) SAP R/3 のツール。以下の種類のファイルを復元するために使います。 <ul style="list-style-type: none"> • BRBACKUP で保存されたデータベースデータファイル、制御ファイル、オンライン REDO ログファイル • BRARCHIVE でアーカイブされた REDO ログファイル • BRBACKUP で保存された非データベースファイル ファイル、テーブルスペース、バックアップ全体、REDO ログファイルのログシーケンス番号、またはバックアップのセッション ID を指定することができます。BRBACKUP および BRARCHIVE も参照。
BSM	Data Protector バックアップセッションマネージャー (Backup Session Manager) の略。バックアップセッションを制御します。このプロセスは、常に Cell Manager システム上で稼働します。
C	
CAP	(StorageTek 固有の用語) Cartridge Access Port の略。ライブラリのドアパネルに組み込まれたポートです。メディアの出し入れに使用されます。
CDB	Catalog Database(カタログデータベース) の略。CDB は IDB の一部で、バックアップ、復元、オブジェクトコピー、オブジェクト集約、オブジェクト検証、メディア管理の各セッションに関する情報が格納されます。選択したロギングレベルによっては、ファイル名とファイルバージョンも格納されます。CDB は、常にセルに対してローカルとなります。MMDB も参照。
CDF ファイル	(UNIX 固有の用語) Context Dependent File(コンテキスト依存ファイル) の略。CDF ファイルは、同じパス名でグループ化された複数のファイルからなるファイルです。通常、プロセスのコンテキストに基づいて、これらのファイルのいずれかがシステムによって選択されます。このメカニズムにより、クラスター内のすべてホストから同じパス名を使って、マシンに依存する実行可能ファイル、システムデータ、およびデバイスファイルを正しく動作させることができます。
Cell Manager	セル内のメインシステム。Data Protector の運用に不可欠なソフトウェアがインストールされ、すべてのバックアップおよび復元作業がここから管理されます。管理タスク用の GUI は、異なるシステムにインストールできます。各セルには Cell Manager システムが 1 つあります。
Certificate Server	Windows Certificate Server をインストールして構成すると、クライアントに証明書を提供することができます。証明書サーバーは、エンタープライズ用の証明書を発行および管理するためのカスタマイズ可能なサービスを提供します。これらのサービスでは、公開キーベースの暗号化技術で使用されている証明書の発行、取り消し、および管理が可能です。
Change Log Provider	(Windows 固有の用語) ファイルシステム上のどのオブジェクトが作成、変更、または削除されたかを判断するために照会できるモジュール。
CMMDB	Data Protector の CMMDB(Centralized Media Management Database: メディア集中管理データベース) は、MoM セル内で、複数セルの MMDB をマージすることにより生成されます。この機能を使用することで、MoM 環境内の複数のセルの間でハイエンドデバイスやメディアを共有することが可能になります。いずれかのセルからロボティクスを使用して、他のセルに接続されているデバイスを制御することもできます。CMMDB は Manager-of-Manager 上に置く必要があります。MoM セルとその他の Data Protector セルの間には、できるだけ信頼性の高いネットワーク接続を用意してください。MoM も参照。
COM+ クラス登録データベース	(Windows 固有の用語) COM+ クラス登録データベースと Windows レジストリには、アプリケーションの属性、クラスの属性、およびコンピュータレベルの属性が格納されます。これにより、これらの属性間の整合性を確保でき、これらの属性を共通の方法で操作できます。
Command View VLS	(VLS 固有の用語) LAN 経由で VLS を構成、管理、モニターするのに使用する Web ブラウザベースの GUI。仮想ライブラリシステム (VLS) も参照。

CRS	Data Protector Cell Manager 上で実行され、バックアップと復元セッションを開始、制御する、Cell Request Server のプロセス (サービス)。このサービスは、Data Protector が Cell Manager 上にインストールされるとすぐに開始されます。Windows システムでは、CRS はインストール時に使用したユーザーアカウントで実行されます。UNIX システムでは、CRS はアカウントルートで実行されます。
CSM	Data Protector コピーおよび集約セッションマネージャー (Copy and Consolidation Session Manager) の略。このプロセスは、オブジェクトコピーセッションとオブジェクト集約セッションを制御し、Cell Manager システム上で動作します。
D	
Data_Protector_home	Data Protector のプログラムファイルを含むディレクトリへの参照 (Windows Vista、Windows 7、および Windows Server 2008 の場合)、または Data Protector のプログラムファイルおよびデータファイルを含むディレクトリへの参照 (他の Windows オペレーティングシステムの場合)。デフォルトのパスは、 <code>%ProgramFiles%\OmniBack</code> ですが、パスはインストール時に Data Protector セットアップウィザードで変更できます。 Data_Protector_program_data も参照。
Data_Protector_program_data	Windows Vista、Windows 7、および Windows Server 2008 上の Data Protector データファイルを含むディレクトリへの参照。デフォルトのパスは、 <code>%ProgramData%\OmniBack</code> ですが、パスはインストール時に Data Protector セットアップウィザードで変更できます。 Data_Protector_home も参照。
Dbobject	(Informix Server 固有の用語) Informix Server 物理データベースオブジェクト。blobpace、dbspace、または論理ログファイルなどがそれにあたります。
DCBF	IDB の詳細カタログバイナリファイル (DCBF) 部には、ファイルのバージョンと属性に関する情報が格納されます。IDB の約 80% を占めるファイルバージョンと属性に関する情報を格納します。バックアップに使用される Data Protector メディアごとに 1 つの DC バイナリファイルが作成されます。サイズの最大値は、ファイルシステムの設定による制限を受けます。
DC ディレクトリ	詳細カタログ (DC) ディレクトリには、詳細カタログバイナリファイル (DCBF) が含まれており、そのファイルの中にはファイルバージョンについての情報が保管されています。これは、IDB の DCBF 部分を表し、IDB 全体の約 80% の容量を占めます。デフォルトの DC ディレクトリは <code>dcbf</code> と呼ばれ、 <code>Data_Protector_program_data\db40</code> ディレクトリ (Windows Server 2008 の場合)、 <code>Data_Protector_home\db40</code> ディレクトリ (その他の Windows システムの場合)、または <code>/var/opt/omni/server/db40</code> ディレクトリ (UNIX システムの場合) の Cell Manager に置かれます。他の DC ディレクトリを作成し、独自に指定した場所を使用することができます。1 つのセルでサポートされる DC ディレクトリは 50 個までです。DC ディレクトリのデフォルト最大サイズは 16GB です。
DHCP サーバー	Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) を通じて、DHCP クライアントに IP アドレスの動的割り当て機能とネットワークの動的構成機能を提供するシステム。
Disk Agent	クライアントのバックアップと復元を実行するためにクライアントシステム上にインストールする必要があるコンポーネントの 1 つ。Disk Agent は、ディスクに対するデータの読み書きを制御します。バックアップセッション中には、Disk Agent がディスクからデータを読み取って、Media Agent に送信してデータをデバイスに移動させます。復元セッション中には、Disk Agent が Media Agent からデータを受信して、ディスクに書き込みます。オブジェクト検証セッション中に、Disk Agent は Media Agent からデータを取得し、確認処理を実行しますが、データはディスクには書き込まれません。
Disk Agent の同時処理数	1 つの Media Agent に対して同時にデータを送信できる Disk Agent の数。
DMZ	DMZ (Demilitarized Zone) は、企業のプライベートネットワーク (イントラネット) と外部のパブリックネットワーク (インターネット) の間に「中立地帯」として挿入されたネットワークです。DMZ により、外部のユーザーが企業のイントラネット内のサーバーに直接アクセスすることを防ぐことができます。
DNS サーバー	DNS クライアント/サーバーモデルでは、DNS サーバーにインターネット全体で名前解決を行うのに必要な DNS データベースに含まれている情報の一部を保持します。DNS サーバーは、このデータベースを使用して名前解決を要求するクライアントに対してコンピュータ名を提供します。

DR OS	ディザスタリカバリを実行するオペレーティングシステム環境。Data Protector に対して基本的な実行時環境 (ディスク、ネットワーク、テープ、およびファイルシステムへのアクセス) を提供します。Data Protector ディザスタリカバリを実行する前に、DR OS をディスクにインストールするかメモリにロードして、構成しておく必要があります。DR OS には、一時 DR OS とアクティブ DR OS があります。一時 DR OS は、他のオペレーティングシステムの復元用ホスト環境として排他的に使用されます。このホスト環境には、ターゲットとなるオペレーティングシステムの構成データも置かれます。ターゲットシステムを元のシステム構成に復元し終えた後、一時 DR OS は削除されます。アクティブ DR OS は、Data Protector ディザスタリカバリプロセスのホストとして機能するだけでなく、復元後のシステムの一部にもなります。その場合、DR OS の構成データは元の構成データに置き換わります。
DR イメージ	一時ディザスタリカバリオペレーティングシステム (DR OS) のインストールおよび構成に必要なデータ。
E	
EMC Symmetrix Agent	EMC Symmetrix 環境でのバックアップ操作と復元操作を可能にする Data Protector ソフトウェアモジュール。
Event Log(Data Protector: イベントログ)	イベントログには、Data Protector 関連のすべての通知が書き込まれます。デフォルトの送信方法では、すべての通知がイベントログに送信されます。イベントは Cell Manager で記録され、 <i>Data_Protector_program_data\log\server\Ob2EventLog.txt</i> (Windows Server 2008 の場合)、 <i>Data_Protector_home\log\server\Ob2EventLog.txt</i> (その他の Windows システムの場合)、 <i>/var/opt/omni/server/log/Ob2EventLog.txt</i> (UNIX システムの場合) に書き込まれます。このイベントログにアクセスできるのは、Data Protector の Admin ユーザーグループに所属しているユーザーか、Data Protector の「レポートと通知」ユーザー権限が付与されているユーザーのみです。イベントログに書き込まれているイベントは、いずれも表示と削除が可能です。
Exchange Replication Service	(Microsoft Exchange Server 固有の用語) ローカル連続レプリケーション (LCR) か、クラスター連続レプリケーション (CCR) テクノロジーのいずれかを使用して複製されたストレージグループを表す Microsoft Exchange Server のサービス。 クラスター連続レプリケーションおよびローカル連続レプリケーション も参照。
F	
FCブリッジ fnames.dat	ファイバーチャネルブリッジ を参照。 IDB の <i>fnames.dat</i> ファイルには、バックアップしたファイルの名前に関する情報が格納されます。一般に、ファイル名が保存されている場合、それらのファイルは IDB の 20% を占めます。
G	
GUI	Data Protector には、構成、管理、および操作に関するあらゆるタスクに簡単にアクセスできる、グラフィカルユーザーインターフェースが用意されています。Windows 用のオリジナルの Data Protector GUI の他に、Data Protector には、さまざまなプラットフォームで実行できる、外観も操作も変わらない Java ベースの GUI も用意されています。
H	
Holidays ファイル	休日に関する情報を格納するファイル。このファイルは、 <i>Data_Protector_program_data\Config\Server\holidays</i> ディレクトリ (Windows Server 2008 の場合)、 <i>Data_Protector_home\Config\Server\holidays</i> ディレクトリ (その他の Windows システムの場合)、または <i>/etc/opt/omni/server/Holidays</i> ディレクトリ (UNIX システムの場合) の Cell Manager の Holidays ファイルを編集することで、各種の休日を設定できます。
HP Business Copy (BC) P6000 EVA	(HP P6000 EVA ディスクレイファミリー固有の用語) ローカル複製ソフトウェアソリューションの 1 つで、P6000 EVA ファームウェアのスナップショット機能およびクローン機能を使用して、ソースボリュームの特定時点のコピー (複製) を作成できます。複製、ソースボリューム、スナップショット、および HP Continuous Access + Business Copy (CA+BC) P6000 EVA も参照。

HP Business Copy (BC) P9000 XP	<p>(HP P9000 XP ディスクアレイファミリ固有の用語) HP P9000 XP ディスクアレイファミリ構成の 1 つで、データ複製やバックアップなどのさまざまな目的のために LDEV の内部コピーの作成および保守を可能にします。これらのコピー (セカンダリボリューム: S-VOL) は、プライマリボリューム (P-VOL) から分離して、別のシステムに接続することができます。Data Protector ゼロダウンタイムバックアップを目的とする場合、アプリケーションシステムで P-VOL を使用可能にし、S-VOL セットのいずれかをバックアップシステムで使用可能にする必要があります。</p> <p>LDEV、HP Continuous Access (CA) P9000 XP、メインコントロールユニット、アプリケーションシステム、およびバックアップシステム も参照。</p>
HP Command View (CV) EVA	<p>(HP P6000 EVA ディスクアレイファミリ固有の用語) P6000 EVA ストレージシステムを構成、管理、モニターするためのユーザーインターフェース。さまざまなストレージ管理作業を行うために使用されます。たとえば、仮想ディスクファミリの作成、ストレージシステムハードウェアの管理、仮想ディスクのスナップショットやスナップクローン、ミラークローンの作成などに使用されます。HP Command View EVA ソフトウェアは HP ストレージマネジメントアプライアンス上で動作し、Web ブラウザからアクセスできます。</p> <p>HP P6000 EVA SMI-S Agent および HP SMI-S P6000 EVA アレイプロバイダ も参照。</p>
HP Continuous Access + Business Copy (CA+BC) P6000 EVA	<p>(HP P6000 EVA ディスクアレイファミリ固有の用語) HP P6000 EVA ディスクアレイファミリ構成の 1 つで、リモート P6000 EVA 上にソースボリュームのコピー (複製) を作成および保守し、このリモートアレイでローカル複製を行うときにソースとしてこのコピーを使用できます。</p> <p>HP Business Copy (BC) P6000 EVA、複製、およびソースボリューム も参照。</p>
HP Continuous Access (CA) P9000 XP	<p>(HP P9000 XP ディスクアレイファミリ固有の用語) HP P9000 XP ディスクアレイファミリ構成の 1 つで、データ複製やバックアップ、ディザスタリカバリなどのために LDEV のリモートコピーの作成および保守を可能にします。HP CA P9000 XP を使用するには、メイン (プライマリ) ディスクアレイユニットとリモート (セカンダリ) ディスクアレイユニットが必要です。メインディスクアレイユニットはアプリケーションシステムに接続され、オリジナルのデータを格納しているプライマリボリューム (P-VOL) を格納します。リモートディスクアレイはバックアップシステムに接続され、セカンダリボリューム (S-VOL) を格納します。</p> <p>HP Business Copy (BC) P9000 XP、メインコントロールユニット、および LDEV も参照。</p>
HP Operations Manager	<p>ネットワーク内の多数のシステムとアプリケーションの運用管理を強力な機能でサポートする HP Operations Manager。Data Protector には、この管理製品を使用するための統合ソフトウェアが用意されています。この統合ソフトウェアは、Windows、HP-UX、Solaris および Linux 上の HP Operations Manager 管理サーバー用の SMART Plug-In として実装されています。以前のバージョンの HP Operations Manager は、IT/Operations、Operations Center、Vantage Point Operations、および OpenView Operations と呼ばれていました。</p>
HP Operations Manager SMART Plug-In(SPI)	<p>ドメイン監視機能を強化する完全に統合されたソリューションで、HP Operations Manager に追加するだけですぐに使えます。HP Operations Manager SMART Plug-In として実装される Data Protector 用統合ソフトウェアを使用して、ユーザーは HP Operations Manager の拡張機能として任意の数の Data Protector Cell Manager を監視できます。</p>
HP P6000 EVA SMI-S Agent	<p>HP P6000 EVA ディスクアレイファミリ統合に必要なすべてのタスクを実行する Data Protector のソフトウェアモジュール。P6000 EVA SMI-S Agent を使用すると、受信した要求と HP CV EVA 間のやり取りを制御する HP SMI-S P6000 EVA アレイプロバイダを通じてアレイを制御できます。</p> <p>HP Command View (CV) EVA および HP SMI-S P6000 EVA アレイプロバイダ も参照。</p>
HP P9000 XP Agent	<p>Data Protector HP P9000 XP ディスクアレイファミリ統合に必要なすべてのタスクを実行する Data Protector コンポーネント。P9000 XP アレイストレージシステムとの通信に RAID Manager ライブラリを使用します。</p> <p>RAID Manager ライブラリ も参照。</p>
HP SMI-S P6000 EVA アレイプロバイダ	<p>HP P6000 EVA ディスクアレイファミリを制御するために使用するインターフェース。SMI-S P6000 EVA アレイプロバイダは HP ストレージマネジメントアプライアンスシステム上で個別のサービスとして動作し、受信した要求と HP Command View EVA 間のゲートウェイとして機能します。Data Protector HP P6000 EVA ディスクアレイファミリ統合を使用すると、SMI-S P6000 EVA アレイプロバイダは P6000 EVA SMI-S Agent からの標準化された要求を受け入れ、HP Command View EVA と通信して情報の取得またはメソッドの起動を行って、標準化された応答を返します。</p> <p>HP P6000 EVA SMI-S Agent および HP Command View (CV) EVA も参照。</p>

ICDA	(EMC Symmetrix 固有の用語) EMC の Symmetrix の統合キャッシュディスクアレイ (ICDA) は、複数の物理ディスク、複数の FWD SCSI チャンネル、内部キャッシュメモリ、およびマイクロコードと呼ばれる制御/診断ソフトウェアを備えたディスクアレイデバイスです。
IDB	Data Protector の内部データベース。IDB は、Cell Manager 上に維持される埋込み型データベースです。どのデータがどのメディアにバックアップされたか、バックアップ、復元などのセッションがどのように実行されたか、どのデバイス、ライブラリ、ディスクアレイが構成されているかなどに関する情報が格納されます。
IDB 復旧ファイル	IDB バックアップ、メディア、バックアップ用デバイスに関する情報を含む IDB ファイル (obrindex.dat)。この情報により、IDB の復旧を大幅に簡素化できます。IDB トランザクションログと共にこのファイルを他の IDB ディレクトリとは別の物理ディスクに移動し、さらにこのファイルのコピーを作成することをお勧めします。
Inet	Data Protector セル内の各 UNIX システムまたは Windows システム上で動作するプロセス。このプロセスは、セル内のシステム間の通信と、バックアップおよび復元に必要なその他のプロセスの起動を受け持ちます。システムに Data Protector をインストールすると、Inet サービスが即座に起動されます。Inet プロセスは、inetd デモンにより開始されます。
Informix Server	(Informix Server 固有の用語) Informix Dynamic Server のことです。
Informix Server 用の CMD スクリプト	(Informix Server 固有の用語) Informix Server データベースの構成時に INFORMIXDIR 内に作成される Windows CMD スクリプト。環境変数を Informix Server にエクスポートするコマンド一式が含まれています。
ISQL	(Sybase 固有の用語) Sybase のユーティリティの 1 つ。Sybase SQL Server に対してシステム管理作業を実行できます。

Java GUI クライアント	Java GUI クライアントは Java GUI コンポーネントの 1 つで、ユーザーインターフェース関連の機能 (Cell Manager グラフィカルユーザーインターフェースおよび Manager-of-Managers(MoM) のグラフィカルユーザーインターフェース) のみで構成されており、機能するためには Java GUI サーバーと接続する必要があります。
Java GUI サーバー	Java GUI コンポーネントの 1 つ。Data Protector Cell Manager システムにインストールされています。Java GUI サーバーは、Java GUI クライアントからの要求を受け取って処理し、応答を Java GUI クライアントに戻します。通信には、HTTP (Hypertext Transfer Protocol) とポート 5556 を使用します。

keychain	パスフレーズを手動で入力しなくても秘密キーを復号化できるようにするツールです。セキュアシェルを使用してリモートインストールを実行する場合、このツールをインストールサーバーにインストールして構成する必要があります。
KMS	キー管理サーバー (KMS) は Data Protector の暗号化機能のためのキー管理を提供する、Cell Manager で実行する集中サービス。このサービスは、Data Protector が Cell Manager 上にインストールされるとすぐに開始されます。

LBO	(EMC Symmetrix 固有の用語) Logical Backup Object(論理バックアップオブジェクト) の略。LBO は、EMC Symmetrix/Fastrax 環境内で保存/取得されるデータオブジェクトです。LBO は EMC Symmetrix によって 1 つのエンティティとして保存/取得され、部分的には復元できません。
LDEV	(HP P9000 XP ディスクアレイファミリ固有の用語) HP P9000 XP ディスクアレイファミリのディスクアレイの物理ディスクの論理パーティション。LDEV は、このようなディスクアレイのスプリットミラー機能やスナップショット機能を使用して複製可能なエンティティです。HP Business Copy (BC) P9000 XP、HP Continuous Access (CA) P9000 XP、および複製も参照。
LISTENER.ORA	(Oracle 固有の用語) Oracle の構成ファイルの 1 つ。サーバー上の 1 つまたは複数の TNS リスナを定義します。

log_full シェルスクリプト	(Informix Server UNIX 固有の用語) ON-Bar に用意されているスクリプトの 1 つで、Informix Server で logfull イベント警告が発行された際に、論理ログファイルのバックアップを開始するために使用できます。Informix Server の ALARMPROGRAM 構成パラメータは、デフォルトで、 <i>INFORMIXDIR/etc/log_full.sh</i> に設定されます。ここで、 <i>INFORMIXDIR</i> は、Informix Server ホームディレクトリです。論理ログファイルを継続的にバックアップしたくない場合は、ALARMPROGRAM 構成パラメータを <i>INFORMIXDIR/etc/no_log.sh</i> に設定してください。
Lotus C API	(Lotus Domino Server 固有の用語) Lotus Domino Server と Data Protector などのバックアップソリューションの間でバックアップ情報および復元情報を交換するためのインタフェース。
LVM	LVM (Logical Volume Manager: 論理ボリュームマネージャー) は、HP-UX システム上で物理ディスクスペースを構造化し、論理ボリュームにマッピングするためのサブシステムです。LVM システムは、複数のボリュームグループで構成されます。各ボリュームグループには、複数のボリュームが含まれます。
M	
make_net_recovery	<i>make_net_recovery</i> は、Ignite-UX のコマンドの 1 つ。Ignite-UX サーバーまたはその他の指定システム上にネットワーク経由で復旧アーカイブを作成できます。ターゲットシステムは、Ignite-UX の <i>make_boot_tape</i> コマンドで作成したブート可能なテープからブートするか、または Ignite-UX サーバーから直接ブートした後、サブネットを通じて復旧することができます。Ignite-UX サーバーからの直接ブートは、Ignite-UX の <i>bootsys</i> コマンドで自動的に行うか、またはブートコンソールから対話的に指定して行うことができます。
make_tape_recovery	<i>make_tape_recovery</i> は、Ignite-UX のコマンドの 1 つ。システムに応じてカスタマイズしたブート可能テープ(インストールテープ)を作成できます。ターゲットシステムにバックアップデバイスを直接接続し、ブート可能な復旧テープからターゲットシステムをブートすることにより、無人ディザスタリカバリを実行できます。アーカイブ作成時とクライアント復旧時は、バックアップデバイスをクライアントにローカル接続しておく必要があります。
Manager-of-Managers (MoM)	
	MoM を参照。
MAPI	(Microsoft Exchange Server 固有の用語) MAPI (Messaging Application Programming Interface) は、アプリケーションおよびメッセージングクライアントがメッセージングシステムおよび情報システムと対話するためのプログラミングインタフェースです。
MCU	メインコントロールユニット (MCU) を参照。
Media Agent	デバイスに対する読み込み/書き込みを制御するプロセス。制御対象のデバイスはテープなどのメディアに対して読み込み/書き込みを行います。復元またはオブジェクト検証セッション中、Media Agent はバックアップメディア上のデータを探して、処理するために Disk Agent に送信します。復元セッションの場合、続いて Disk Agent はデータをディスクに書き込みます。Media Agent は、ライブラリのロボティクス制御も管理します。
Microsoft Exchange Server	多様な通信システムへの透過的接続を提供するクライアント/サーバー型のメッセージング/ワークグループシステム。電子メールシステムその他、個人とグループのスケジュール、オンラインフォーム、ワークフロー自動化ツールなどをユーザーに提供します。また、開発者に対しては、情報共有およびメッセージング サービス用のカスタムアプリケーション開発プラットフォームを提供します。
Microsoft SQL Server	分散型"クライアント/サーバー"コンピューティングのニーズを満たすように設計されたデータベース管理システム。
Microsoft 管理コンソール (MMC)	(Windows 固有の用語) Windows 環境における管理モデル。シンプルで一貫した統合型管理ユーザーインタフェースを提供します。同じ GUI を通じて、さまざまな MMC 対応アプリケーションを管理できます。
Microsoft ボリュームシャドウコピーサービス (VSS)	VSS 対応アプリケーションのバックアップと復元をそのアプリケーションの機能に関係なく統合管理する統一通信インタフェースを提供するソフトウェアサービスです。このサービスは、バックアップアプリケーション、ライター、シャドウコピープロバイダ、およびオペレーティングシステムカーネルと連携して、ボリュームシャドウコピーおよびシャドウコピーセットの管理を実現します。 シャドウコピー、シャドウコピープロバイダ、複製およびライター も参照。

MMD	Media Management Daemon (メディア管理デーモン) の略。MMD プロセス (サービス) は、Data Protector Cell Manager 上で稼動し、メディア管理操作およびデバイス操作を制御します。このプロセスは、Data Protector を Cell Manager にインストールしたときに開始されます。
MMDB	Media Management Database(メディア管理データベース) の略。MMDB は、IDB の一部です。セル内で構成されているメディア、メディアプール、デバイス、ライブラリ、ライブラリデバイス、スロットに関する情報と、バックアップに使用されている Data Protector メディアに関する情報を格納します。エンタープライズバックアップ環境では、データベースをすべてのセル間で共有できます。 CMMDB および CDB も参照。
MoM	複数のセルをグループ化して、1 つのセルから集中管理することができます。集中管理用セルの管理システムが、MoM(Manager-of-Managers) です。他のセルは MoM クライアントと呼ばれます。MoM を介して、複数のセルを一元的に構成および管理することができます。
MSM	Data Protector メディアセッションマネージャー (Media Session Manager) の略。MSM は、Cell Manager 上で稼動し、メディアセッション (メディアのコピーなど) を制御します。
○	
obdrindex.dat	IDB 復旧ファイル を参照。
OBDR 対応デバイス	ブート可能ディスクを装填した CD-ROM ドライブをエミュレートできるデバイス。バックアップデバイスとしてだけでなく、ディザスタリカバリ用のブートデバイスとしても使用可能です。
ON-Bar	(Informix Server 固有の用語) Informix Server のためのバックアップと復元のシステム。ON-Bar により、Informix Server データのコピーを作成し、後でそのデータを復元することが可能になります。ON-Bar のバックアップと復元のシステムには、以下のコンポーネントが含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> • onbar コマンド • バックアップソリューションとしての Data Protector • XBSA インタフェース • ON-Bar カタログテーブル。これは、dbobject をバックアップし、複数のバックアップを通して dbobject のインスタンスをトラッキングするために使われます。
ONCONFIG	(Informix Server 固有の用語) アクティブな ONCONFIG 構成ファイルの名前を指定する環境変数。ONCONFIG 環境変数が存在しない場合、Informix Server が <i>INFORMIXDIR\etc</i> (Windows の場合)、または <i>INFORMIXDIR/etc/</i> (UNIX の場合) ディレクトリの ONCONFIG ファイルにある構成値を使います。
Oracle Data Guard	(Oracle 固有の用語) Oracle Data Guard は Oracle の主要なディザスタリカバリソリューションです。プロダクション (一次) データベースのリアルタイムコピーであるスタンバイデータベースを最大 9 個まで保持することにより、破損、データ障害、人為ミス、および災害からの保護を提供します。プロダクション (一次) データベースに障害が発生すると、フェイルオーバーによりスタンバイデータベースの 1 つを新しい一次データベースにすることができます。また、プロダクション処理を現在の一次データベースからスタンバイデータベースに迅速に切り替えたり、元に戻したりできるため、保守作業のための計画ダウンタイムを縮小することができます。
ORACLE_SID	(Oracle 固有の用語) Oracle Server インスタンスの一意的な名前。別の Oracle Server に切り替えるには、目的の <i>ORACLE_SID</i> を指定します。 <i>ORACLE_SID</i> は、 <i>TNSNAMES.ORA</i> ファイル内の接続記述子の <i>CONNECT DATA</i> 部分と <i>LISTENER.ORA</i> ファイル内の <i>TNS</i> リスナの定義に含まれています。
Oracle インスタンス	(Oracle 固有の用語) 1 つまたは複数のシステムにインストールされた個々の Oracle データベース。1 つのコンピュータシステム上で、複数のデータベースインスタンスを同時に稼動させることができます。

Oracle ターゲットデータベースへのログイン情報

(Oracle および SAP R/3 固有の用語) ログイン情報の形式は、`user_name/password@service` です。

- この場合、`user_name` は、Oracle Server およびその他のユーザーに対して公開されるユーザー名です。各ユーザー名はパスワードと関連付けられており、Oracle ターゲットデータベースに接続するにはユーザー名とパスワードの両方を入力する必要があります。ここでは、Oracle の SYSDBA 権限または SYSOPER 権限が付与されているユーザーを指定する必要があります。
- `password` には、Oracle パスワードファイル (`orapwd`) 内に指定したのと同じパスワードを指定しなければなりません。パスワードは、データベースを管理するユーザーの認証に使用されます。
- `service` には、ターゲットデータベースのための SQL*Net サーバプロセスの識別に使用される名前を指定します。

P

P1S ファイル

P1S ファイルには、システムにインストールされているすべてのディスクを拡張自動ディザスタリカバリ (EADR) 中にどのようにフォーマットするかに関する情報が格納されます。このファイルはフルバックアップ中に作成され、バックアップメディアと Cell Manager に保存されます。保存場所は、`Data_Protector_program_data\Config\Server\dr\p1s` ディレクトリ (Windows Server 2008 の場合)、`Data_Protector_home\Config\Server\dr\p1s` ディレクトリ (その他の Windows システムの場合)、`/etc/opt/omni/server/dr/p1s` ディレクトリ (UNIX システムの場合) です。ファイル名は以下のとおりです。recovery.p1s。

R

RAID

Redundant Array of Independent Disks の略。

RAID Manager P9000 XP

(HP P9000 XP ディスクアレイファミリ固有の用語) HP P9000 XP ディスクアレイファミリのディスクアレイに対するコマンドラインインタフェースを提供するソフトウェアアプリケーション。P9000 XP アレイストレージシステムのステータスのレポートと制御を行い、ディスクアレイに対する各種操作を実行するための広範なコマンドセットが用意されています。

RAID Manager ライブラリ

(HP P9000 XP ディスクアレイファミリ固有の用語) P9000 XP アレイストレージシステムの構成、ステータス、およびパフォーマンス測定へのデータへのアクセスと、ディスクアレイの操作の開始に使用されるソフトウェアライブラリ。このライブラリにより、関数呼び出しが関連の低レベルの SCSI コマンドに変換されます。HP P9000 XP Agent も参照。

raw ディスクバックアップ

ディスクイメージバックアップを参照。

RCU

Remote Control Unit(RCU) を参照。

RCU Remote Control Unit (RCU)

(HP P9000 XP ディスクアレイファミリ固有の用語) HP CA P9000 XP または HP CA+BC P9000 XP 構成におけるメインコントロールユニット (MCU) に対するスレーブデバイスとして機能する HP P9000 XP ディスクアレイファミリユニット。双方向の構成の中では、RCU は MCU としての役割も果たします。

RDBMS

Relational Database Management System (リレーショナルデータベース管理システム) の略。

RDF1/RDF2

(EMC Symmetrix 固有の用語) SRDF デバイスグループの一種。RDF グループには RDF デバイスだけを割り当てることができます。RDF1 グループタイプにはソースデバイス (R1) が格納され、RDF2 グループタイプにはターゲットデバイス (R2) が格納されます。

RDS

Raima Database Server の略。RDS(サービス) は、Data Protector Cell Manager 上で稼動し、IDB を管理します。このプロセスは、Data Protector を Cell Manager にインストールしたときに開始されます。

Recovery Manager (RMAN)

(Oracle 固有の用語) Oracle コマンドラインインタフェース。これにより、Oracle Server プロセスに接続されているデータベースをバックアップ、復元、および復旧するための指示が Oracle Server プロセスに出されます。RMAN では、バックアップについての情報を格納するために、リカバリカタログまたは制御ファイルのいずれかが使用されます。この情報は、後の復元セッションで使うことができます。

RecoveryInfo	Windows 構成ファイルのバックアップ時、Data Protector は、現在のシステム構成に関する情報 (ディスクレイアウト、ボリューム、およびネットワークの構成に関する情報) を収集します。この情報は、ディザスタリカバリ時に必要になります。
REDO ログ	(Oracle 固有の用語) 各 Oracle データベースには、複数の REDO ログファイルがあります。データベース用の REDO ログファイルのセットをデータベースの REDO ログと呼びます。Oracle では、REDO ログを使ってデータに対するすべての変更を記録します。
RMAN(Oracle 固有の用語)	Recovery Manager を参照。
RSM	Data Protector 復元セッションマネージャー (Restore Session Manager) の略。復元セッションおよびオブジェクト検証セッションを制御します。このプロセスは、常に Cell Manager システム上で稼働します。
RSM	(Windows 固有の用語) Removable Storage Manager の略。RSM は、アプリケーション、ロボティクスチェンジャ、およびメディアライブラリ間の通信を効率化するメディア管理サービスを提供します。これにより、複数のアプリケーションがローカルロボティクスメディアライブラリとテープまたはディスクドライブを共有でき、リムーバブルメディアを管理できます。
S	
SAPDBA	(SAP R/3 固有の用語) BRBACKUP ツール、BRARCHIVE ツール、BRRESTORE ツールを統合した SAP R/3 ユーザーインターフェース。
SIBF	サーバーレス統合バイナリファイル (SIBF) は、IDB のうち、NDMP の raw メタデータが格納される部分です。これらのデータは、NDMP オブジェクトの復元に必要です。
SMB	スプリットミラーバックアップ を参照。
SMBF	セッションメッセージバイナリファイル (SMBF) は、IDB のうち、バックアップ、復元、オブジェクトコピー、オブジェクト集約、オブジェクト検証、およびメディア管理のセッション中に生成されたセッションメッセージが格納される部分です。1 つのセッションにつき 1 つのバイナリファイルが作成されます。ファイルは年毎や月毎に分類されます。
SMI-S Agent(SMISA)	HP P6000 EVA SMI-S Agent を参照。
sqlhosts ファイルまたはレジストリ	(Informix Server 固有の用語) Informix Server の接続情報ファイル (UNIX) またはレジストリ (Windows)。各データベースサーバーの名前の他、ホストコンピュータ上のクライアントが接続できるエイリアスが格納されます。
SRDF	(EMC Symmetrix 固有の用語) EMC Symmetrix Remote Data Facility の略。SRDF は、異なる位置にある複数の処理環境の間での効率的なリアルタイムデータ複製を実現する Business Continuation プロセスです。同じルートコンピュータ環境内だけでなく、互いに遠距離にある環境も対象となります。
SRD ファイル	(ディザスタリカバリ固有の用語) Unicode (UTF-16) 形式のテキストファイルで、Windows システムの CONFIGURATION バックアップ中に生成され Cell Manager に格納されます。このファイルには、障害発生時にターゲットシステムにオペレーティングシステムをインストールおよび構成するために必要なシステム情報が含まれています。ターゲットシステム も参照。
SSE Agent(SSEA)	HP P9000 XP Agent を参照。
sst.conf ファイル	/usr/kernel/drv/sst.conf ファイルは、マルチドライブライブラリデバイスが接続されている Data Protector Solaris クライアントのそれぞれにインストールされていなければならないファイルです。このファイルには、クライアントに接続されている各ライブラリデバイスのロボット機構の SCSI アドレスエントリが記述されていなければなりません。
st.conf ファイル	/kernel/drv/st.conf ファイルは、バックアップデバイスが接続されている Data Protector Solaris クライアントのそれぞれにインストールされていなければならないファイルです。このファイルには、クライアントに接続されている各バックアップドライブのデバイス情報と SCSI アドレスが記述されていなければなりません。シングルドライブデバイスについては単一の SCSI エントリが、マルチドライブライブラリデバイスについては複数の SCSI エントリが、それぞれ必要です。

StorageTek ACS ライブラリ	(StorageTek 固有の用語) ACS (Automated Cartridge System) は、1 つのライブラリ管理ユニット (LMU) と、このユニットに接続された 1~24 個のライブラリ記憶域モジュール (LSM) からなるライブラリシステム (サイロ) です。
Sybase Backup Server API	(Sybase 固有の用語) Sybase SQL Server と Data Protector などのバックアップソリューションの間でのバックアップ情報および復旧情報交換用に開発された業界標準インタフェース。
Sybase SQL Server	(Sybase 固有の用語) Sybase の「クライアントサーバー」アーキテクチャ内のサーバー。Sybase SQL Server は、複数のデータベースと複数のユーザーを管理し、ディスク上のデータの実位置を追跡します。さらに、物理データストレージ域に対する論理データ記述のマッピングを維持し、メモリ内のデータキャッシュとプロシージャキャッシュを維持します。
SYMA	EMC Symmetrix Agent を参照。
System Backup to Tape	(Oracle 固有の用語) Oracle がバックアップ要求または復元要求を発行したときに正しいバックアップデバイスをロード、ラベリング、およびアンロードするために必要なアクションを処理する Oracle インタフェース。
SysVol	(Windows 固有の用語) ドメインのパブリックファイルのサーバー コピーを保存する共有ディレクトリで、ドメイン内のすべてのドメインコントローラ間で複製されます。
T	
TimeFinder	(EMC Symmetrix 固有の用語) 単一または複数の EMC Symmetrix 論理デバイス (SLD) のインスタントコピーを作成する Business Continuation プロセス。インスタントコピーは、BCV と呼ばれる専用の事前構成 SLD 上に作成され、システムに対する別個のプロセスを経由してアクセスできます。
TLU	Tape Library Unit (テープライブラリユニット) の略。
TNSNAMES.ORA	(Oracle および SAP R/3 固有の用語) サービス名にマッピングされた接続記述子を格納するネットワーク構成ファイル。このファイルは、1 か所で集中的に管理してすべてのクライアントで使用することも、また、ローカルに管理して各クライアントで個別に使用することもできます。
TSANDS.CFG ファイル	(Novell NetWare 固有の用語) バックアップを開始するコンテナの名前を指定するファイル。このファイルはテキストファイルで、TSANDS.NLM がロードされるサーバーの SYS:SYSTEM\TSA ディレクトリにあります。
U	
UIProxy	Java GUI サーバー (UIProxy サービス) は Data Protector Cell Manager で実行されます。Java GUI サーバーでは、Java GUI クライアントと Cell Manager との間の通信を行います。また、ビジネスロジック操作を実行し、重要な情報のみをクライアントに送信する必要があります。このサービスは、Data Protector が Cell Manager 上にインストールされるとすぐに開始されます。
user_restrictions ファイル	割り当てられているユーザー権限に応じて Data Protector のユーザーグループが使用できる特定のユーザーアクションを、Data Protector セルの特定のシステムでのみ実行されるように制限するファイル。このような制限は、 Admin および Operator 以外の Data Protector のユーザーグループにのみ適用されます。
V	
VMware 管理クライアント	(VMware(レガシー) 用統合ソフトウェア固有の用語) Data Protector で、VMware 仮想インフラストラクチャとの通信に使用されるクライアント。VirtualCenter Server システム (VirtualCenter 環境)、または ESX Server システム (スタンドアロン ESX Server 環境) のどちらかです。
VOLSER	(ADIC および STK 固有の用語) ボリュームシリアル (VOLume SERial) 番号は、メディア上のラベルで、大容量ライブラリ内の物理テープの識別に使用されます。VOLSER は、ADIC/GRAU デバイスおよび StorageTek デバイス固有の命名規則です。
VSS	Microsoft ボリュームシャドウコピーサービス (VSS) を参照。
VSS 準拠モード	(HP P9000 XP ディスクアレイファミリ VSS プロバイダ固有の用語) 2 種類ある P9000 XP アレイ VSS ハードウェアプロバイダの操作モードの 1 つ。P9000 XP アレイプロバイダが VSS 準拠モードであると、ソースボリューム (P-VOL) とその複製 (S-VOL) は、バックアップ後、単純非対状態になります。したがって、ローテーションされる複製数 (P-VOL 当たりの S-VOL

数)に制限はありません。このような構成でのバックアップからの復元は、ディスクの切り替えによってのみ可能となります。

再同期モード、ソースボリューム、プライマリボリューム (P-VOL)、複製、セカンダリボリューム (S-VOL)、および複製セットローテーション も参照。

VxFS

Veritas Journal Filesystem の略。

VxVM (Veritas Volume Manager)

Veritas Volume Manager は、Solaris プラットフォーム上でディスクスペースを管理するためのシステムです。VxVM システムは、論理ディスクグループに編成された 1 つまたは複数の物理ボリュームの任意のグループからなります。

W

Wake ONLAN

節電モードで動作しているシステムを同じ LAN 上の他のシステムからのリモート操作により電源投入するためのサポート。

Web レポート

Data Protector の機能の 1 つ。バックアップステータス、オブジェクトコピーステータスおよびオブジェクト集約ステータスと Data Protector 構成に関するレポートを Web インタフェース経由で表示できます。

Windows 構成のバックアップ

Data Protector では、Windows CONFIGURATION(構成データ) をバックアップできます。Windows レジストリ、ユーザープロファイル、イベントログ、WINS サーバーデータおよび DHCP サーバーデータ (システム上で構成されている場合) を 1 回の操作でバックアップできます。

Windows レジストリ

オペレーティングシステムやインストールされたアプリケーションの構成情報を保存するため、Windows により使用される集中化されたデータベース。

WINS サーバー

Windows ネットワークのコンピュータ名を IP アドレスに解決する Windows インターネットネームサービスソフトウェアを実行しているシステム。Data Protector では、WINS サーバーデータを Windows の構成データの一部としてバックアップできます。

X

XBSA インタフェース

(Informix Server 固有の用語)ON-Bar と Data Protector の間の相互通信には、X/Open Backup Services Application Programmer's Interface (XBSA) が使用されます。

Z

ZDB

ゼロダウンタイムバックアップ (ZDB) を参照。

ZDB データベース

(ZDB 固有の用語) ソースボリューム、複製、セキュリティ情報などの ZDB 関連情報を格納する IDB の一部。ZDB データベースは、ゼロダウンタイムバックアップ、インスタントリカバリ、スプリットミラー復元の各セッションで使用されます。ゼロダウンタイムバックアップ (ZDB) も参照。

あ

アーカイブ REDO ログ

(Oracle 固有の用語) オフライン REDO ログとも呼びます。Oracle データベースが ARCHIVELOG モードで動作している場合、各オンライン REDO ログが最大サイズまで書き込まれると、アーカイブ先にコピーされます。このコピーをアーカイブ REDO ログと呼びます。各データベースに対してアーカイブ REDO ログを作成するかどうかを指定するには、以下の 2 つのモードのいずれかを指定します。

- ARCHIVELOG – 満杯になったオンライン REDO ログファイルは、再利用される前にアーカイブされます。そのため、インスタンスやディスクにエラーが発生した場合に、データベースを復旧することができます。「ホット」バックアップを実行できるのは、データベースがこのモードで稼働しているときだけです。
- NOARCHIVELOG – オンライン REDO ログファイルは、いっぱいになってもアーカイブされません。

オンライン REDO ログ も参照。

アーカイブログイン

(Lotus Domino Server 固有の用語) Lotus Domino Server のデータベースモードの 1 つ。トランザクションログファイルがバックアップされて初めて上書きされるモードです。

アクセス権限

ユーザー権限 を参照。

アプリケーションシステム	(ZDB 固有の用語) このシステム上でアプリケーションやデータベースが実行されます。アプリケーションまたはデータベースデータは、ソースボリューム上に格納されています。バックアップシステムおよびソースボリューム も参照。
暗号化 KeyID-StoreID	Data Protector Key Management Server が、Data Protector で使用される暗号化キーの識別と管理に使用する複合識別子です。KeyID は、キーストア内のキーを識別します。StoreID は、Cell Manager 上のキーストアを識別します。Data Protector を暗号化機能付きの旧バージョンからアップグレードした場合、同じ Cell Manager 上で使用される StoreID が複数存在する可能性があります。
暗号化キー	256 ビットのランダムに生成された数値で、AES 256 ビットソフトウェア暗号化またはドライブベースの暗号化が指定されたバックアップの際に、Data Protector の暗号化アルゴリズムが情報を暗号化するために使用します。これに続く情報の復号化では、同じキーが使用されます。Data Protector セルの暗号化キーは、Cell Manager 上の中央キーストアに保存されません。
暗号制御通信	Data Protector セル内のクライアント間における Data Protector のセキュアな通信は、Secure Socket Layer (SSL) をベースにしており、SSLv3 アルゴリズムを使用して制御通信が暗号化されます。Data Protector セル内の制御通信は、Disk Agent(および統合用ソフトウェア) から Media Agent へのデータ転送とその逆方向のデータ転送を除く、Data Protector プロセス間のすべての通信です。

い

イベントログ	(Windows 固有の用語) サービスの開始または停止、ユーザーのログオンとログオフなど、Windows がすべてのイベントを記録したファイル。Data Protector は、Windows イベントログを Windows 構成バックアップの一部としてバックアップできます。
インスタントリカバリ	(ZDB 固有の用語) ディスクへの ZDB セッションまたはディスク + テープへの ZDB セッションで作成された複製を使用して、ソースボリュームの内容を複製が作成された時点の状態に復元するプロセスです。これにより、テープからの復元を行う必要がなくなります。関連するアプリケーションやデータベースによってはインスタントリカバリだけで十分な場合もあれば、完全に復旧するためにトランザクションログファイルを適用するなどその他にも手順が必要な場合もあります。複製、ゼロダウンタイムバックアップ (ZDB)、ディスクへの ZDB、およびディスク + テープへの ZDB も参照。
インストールサーバー	特定のアーキテクチャ用の Data Protector インストールパッケージのレポジトリを保持するコンピュータシステム。インストールサーバーから Data Protector クライアントのリモートインストールが行われます。混在環境では、少なくとも 2 台のインストールサーバーが必要です。1 台は UNIX システム用で、1 台は Windows システム用です。

インターネットインフォメーションサービス (IIS)

(Windows 固有の用語) Microsoft Internet Information Services は、ネットワーク用ファイル/アプリケーションサーバーで、複数のプロトコルをサポートしています。IIS では、主に、HTTP (Hypertext Transport Protocol) により HTML (Hypertext Markup Language) ページとして情報が転送されます。

インフォメーションストア	(Microsoft Exchange Server 固有の用語) ストレージ管理を行う Microsoft Exchange Server のサービス。Microsoft Exchange Server のインフォメーションストアは、メールボックスストアとパブリックフォルダストアという 2 種類のストアを管理します。メールボックスストアは、個々のユーザーに属するメールボックスから成ります。パブリックフォルダストアには、複数のユーザーで共有するパブリックフォルダおよびメッセージがあります。キーマネジメントサービスおよびサイト複製サービス も参照。
---------------------	---

う

上書き	復元中のファイル名競合を解決するモードの 1 つ。既存のファイルの方が新しくても、すべてのファイルがバックアップから復元されます。マージ も参照。
------------	---

え

エクステンジャ	SCSI エクステンジャとも呼ばれます。
----------------	----------------------

ライブラリ も参照。

エンタープライズ バックアップ環境

複数のセルをグループ化して、1つのセルから集中管理することができます。エンタープライズバックアップ環境には、複数の Data Protector セル内のすべてのクライアントが含まれます。これらのセルは、Manager of Managers (MoM) のコンセプトにより集中管理用のセルから管理されます。

MoM も参照。

お

オートチェン ジャー

ライブラリ を参照。

オートローダ

ライブラリ を参照。

オブジェクト

バックアップオブジェクト を参照。

オブジェクト ID

(Windows 固有の用語) オブジェクト ID(OID) を使用すると、システムのどこにファイルがあるかにかかわらず、NTFS 5 ファイルにアクセスできます。Data Protector では、ファイルの代替ストリームとして OID を扱います。

オブジェクト検証

Data Protector の観点で見たバックアップオブジェクトのデータ整合性と、それらを必要なあて先に送信する Data Protector の機能を確認する処理です。処理は、バックアップ、オブジェクトコピー、またはオブジェクト集約セッションによって作成されたオブジェクトバージョンを復元する機能に信頼レベルを付与するために使用できます。

オブジェクト検証 セッション

指定のバックアップオブジェクトまたはオブジェクトバージョンのデータ整合性と、指定のホストにそれらを送信するための選択済み Data Protector ネットワークコンポーネントの機能を確認するプロセスです。オブジェクト検証セッションは、対話式に実行することも、自動ポストバックアップまたはスケジュール仕様の指定通りに実行することもできます。

オブジェクトコ ピー

特定のオブジェクトバージョンのコピー。オブジェクトコピーセッション中またはオブジェクトミラーのバックアップセッション中に作成されます。

オブジェクトコ ピーセッション

異なるメディアセット上にバックアップデータの追加コピーを作成するプロセス。オブジェクトコピーセッション中に、選択されたバックアップオブジェクトがソースからターゲットメディアへコピーされます。

オブジェクト集約

1つのフルバックアップと1つ以上の増分バックアップで構成されたバックアップオブジェクトの復元チェーンを、新たな集約されたバージョンのオブジェクトとしてマージするプロセス。このプロセスは、合成バックアップの一部です。このプロセスの結果、指定のバックアップオブジェクトの合成フルバックアップが出力されます。

オブジェクト集約 セッション

1つのフルバックアップと1つ以上の増分バックアップで構成されたバックアップオブジェクトの復元チェーンを、新たな統合されたバージョンのオブジェクトとしてマージするプロセス。

オブジェクトのコ ピー

選択されたオブジェクトバージョンを特定のメディアセットにコピーするプロセス。1つまたは複数のバックアップセッションから、コピーするオブジェクトバージョンを選択できます。

オブジェクトのミ ラーリング

バックアップセッション中に、いくつかのメディアセットに同じデータを書き込むプロセス。Data Protector を使用すると、1つまたは複数のメディアセットに対し、すべてまたは一部のバックアップオブジェクトをミラーリングすることができます。

オブジェクトミ ラー

オブジェクトのミラーリングを使用して作成されるバックアップオブジェクトのコピー。オブジェクトのミラーは、通常、オブジェクトコピーと呼ばれます。

オフライン REDO ログ

アーカイブ REDO ログ を参照。

オフラインバック アップ

実行中はアプリケーションデータベースがアプリケーションから使用できなくなるバックアップ。オフラインバックアップセッションでは、一般にデータベースはデータ複製プロセス中に休止状態となり、バックアップシステムからは使用できますが、アプリケーションシステムからは使用できません。たとえばテープへのバックアップの場合、テープへのデータストリーミングが終わるまでの間となります。残りのバックアッププロセスでは、データベースは通常の稼働を再開できます。

ゼロダウンタイムバックアップ (ZDB) およびオンラインバックアップ も参照。

オフライン復旧	オフライン復旧は、ネットワーク障害などにより Cell Manager にアクセスできない場合に行われます。オフライン復旧では、スタンドアロンデバイスおよび SCSI ライブラリデバイスのみで使用可能です。Cell Manager の復旧は、常にオフラインで行われます。
オリジナルシステム	あるシステムに障害が発生する前に Data Protector によってバックアップされたシステム構成データ。
オンライン REDO ログ	(Oracle 固有の用語) まだアーカイブされていないが、インスタンスでデータベースアクティビティを記録するために利用できるか、または満杯になっており、アーカイブまたは再使用されるまで待機している REDO ログ。 アーカイブ REDO ログ も参照。
オンラインバックアップ	データベースアプリケーションを利用可能な状態に維持したまま行われるバックアップ。データベースは、データ複製プロセスの間、特別なバックアップモードで稼働します。たとえばテープへのバックアップの場合、テープへのデータストリーミングが終わるまでの間となります。この期間中、データベースは完全に機能しますが、パフォーマンスに多少影響が出たり、ログファイルのサイズが急速に増大したりする場合があります。残りのバックアッププロセスでは、データベースは通常の稼働を再開できます。 場合によっては、データベースを整合性を保って復元するために、トランザクションログもバックアップする必要があります。 ゼロダウンタイムバックアップ (ZDB) およびオフラインバックアップ も参照。
オンライン復旧	オンライン復旧は、Cell Manager がアクセス可能な場合に行います。この場合、Data Protector のほとんどの機能 (Cell Manager によるセッションの実行、復元セッションの IDB への記録、GUI を使った復元作業の進行状況の監視など) が使用可能です。
 か	
階層ストレージ管理 (HSM)	使用頻度の低いデータを低コストの光磁気プラッタに移動することで、コストの高いハードディスク記憶域を有効利用するための仕組み。移動したデータが必要になった場合は、ハードディスク記憶域に自動的に戻されます。これにより、ハードディスクからの高速読み取りと光磁気プラッタの低コスト性のバランスが維持されます。
拡張可能ストレージエンジン (ESE)	(Microsoft Exchange Server 固有の用語) Microsoft Exchange Server で情報交換用の記憶システムとして使用されているデータベーステクノロジー。
拡張増分バックアップ	従来の増分バックアップでは、前回のバックアップより後に変更されたファイルがバックアップされますが、変更検出機能に限界があります。これに対し、拡張増分バックアップでは、名前が変更されたファイルや移動されたファイルのほか、属性が変更されたファイルについても、信頼性のある検出とバックアップが行われます。
確認	指定したメディア上の Data Protector データが読み取り可能かどうかをチェックする機能。また、CRC(巡回冗長検査) オプションをオンにして実行したバックアップに対しては、各ブロック内の整合性もチェックできます。
仮想コントローラソフトウェア (VCS)	(HP P6000 EVA ディスクアレイファミリ固有の用語) HSV コントローラを介した HP Command View EVA との通信など、記憶システムの処理すべてを管理するファームウェア。 HP Command View (CV) EVA も参照。
仮想サーバー	ネットワーク IP 名および IP アドレスでドメイン内に定義されるクラスター環境の仮想マシンです。アドレスはクラスターソフトウェアによりキャッシュされ、仮想サーバーリソースを現在実行しているクラスターノードにマップされます。こうして、特定の仮想サーバーに対するすべての要求が特定のクラスターノードにキャッシュされます。
仮想ディスク	(HP P6000 EVA ディスクアレイファミリ固有の用語) HP P6000 EVA ディスクアレイファミリのディスクアレイのストレージプールから割り当てられるストレージユニット。仮想ディスクは、このようなディスクアレイのスナップショット機能を使用して複製可能なエンティティです。 ソースボリュームおよびターゲットボリューム も参照。
仮想テープ	(VLS 固有の用語) テープに保存された場合と同様にディスクドライブにデータをバックアップするアーカイブ式ストレージテクノロジー。バックアップスピードおよびリカバリスピードの向上、運用コストの削減など仮想テープシステムとしての利点がある。 仮想ライブラリシステム (VLS) および仮想テープライブラリ (VTL) も参照。
仮想テープライブラリ (VTL)	(VLS 固有の用語) 従来のテープベースのストレージ機能を提供する、エミュレートされるテープライブラリ。

仮想ライブラリシステム (VLS) も参照。

仮想デバイスインタフェース	(Microsoft SQL Server 固有の用語) Microsoft SQL Server のプログラミングインタフェースの 1 つ。大容量のデータベースを高速でバックアップおよび復元できます。
仮想フルバックアップ	コピーするのではなくポインタを使用してデータが統合される、効率の良い合成バックアップ。配布ファイルメディア形式を使用する 1 つのファイルライブラリにすべてのバックアップ (フルバックアップ、増分バックアップ、およびその結果である仮想フルバックアップ) が書き込まれる場合に実行されます。
仮想ライブラリシステム (VLS)	1 つまたは複数の仮想テーブルライブラリ (VTL) をホストする、データベースのデータストレージデバイス。
カタログ保護	バックアップデータに関する情報 (ファイル名やファイルバージョンなど) を IDB に維持する期間を定義します。 データ保護 も参照。
監査情報	Data Protector セル全体に対し、ユーザーが定義した拡張期間にわたって実施された、全バックアップセッションに関するデータ。
監査レポート	監査ログファイルに保存されたデータから作成される、ユーザーが判読可能な形式の監査情報出力。
監査ログ	監査情報が保存されるデータファイル。

き

キーストア	すべての暗号化キーは、Cell Manager のキーストアに集中的に格納され、キー管理サーバー (KMS) により管理されます。
キーマネージメントサービス	(Microsoft Exchange Server 固有の用語) 拡張セキュリティのための暗号化機能を提供する Microsoft Exchange Server のサービス。 インフォメーションストアおよびサイト複製サービス も参照。
共有ディスク	あるシステム上に置かれた Windows のディスクをネットワーク上の他のシステムのユーザーが使用できるように構成したもの。共有ディスクを使用しているシステムは、Data Protector Disk Agent がインストールされていなくてもバックアップ可能です。
緊急ブートファイル	(Informix Server 固有の用語) Informix Server 構成ファイル <code>ixbar.server_id</code> 。このファイルは、 <code>INFORMIXDIR/etc</code> ディレクトリ (Windows の場合)、または <code>INFORMIXDIR\etc</code> ディレクトリ (UNIX の場合) に置かれています。 <code>INFORMIXDIR</code> は Informix Server のホームディレクトリ、 <code>server_id</code> は <code>SERVERNUM</code> 構成パラメータの値です。緊急ブートファイルの各行は、1 つのバックアップオブジェクトに対応します。

く

クライアントバックアップ	Data Protector クライアントにマウントされているすべてのボリューム (ファイルシステム) のバックアップ。実際に何がバックアップされるかは、バックアップ仕様でどのようにオブジェクトを選択するかによって異なります。 <ul style="list-style-type: none">クライアントシステム名の隣のチェックボックスを選択した場合、[クライアントシステム] の種類の 1 つのバックアップオブジェクトが作成されます。その結果、バックアップ時に Data Protector は選択されたクライアントにマウントされているすべてのボリュームを最初に検出してから、それらをバックアップします。Windows クライアントの場合、<code>CONFIGURATION</code> もバックアップされます。クライアントシステムにマウントされているすべてのボリュームを別々に選択する場合、<code>Filesystem</code> タイプの個別バックアップオブジェクトがボリュームごとに作成されます。その結果、バックアップ時に、選択されたボリュームのみがバックアップされます。バックアップ仕様の作成後にクライアントにマウントされたボリュームは、バックアップされません。
---------------------	---

クライアントまたはクライアントシステム

セル内で Data Protector の機能を使用できるように構成された任意のシステム。

クラスター対応アプリケーション	クラスターアプリケーションプログラミングインタフェースをサポートしているアプリケーション。クラスター対応アプリケーションごとに、クリティカルリソースが宣言されます。これらのリソースには、ディスクボリューム (Microsoft Cluster Server の場合)、ボリュームグ
------------------------	--

ループ (MC/ServiceGuard の場合)、アプリケーションサービス、IP 名および IP アドレスなどがあります。

クラスター連続レプリケーション

(Microsoft Exchange Server 固有の用語) クラスター連続レプリケーション (CCR) はクラスター管理とフェイルオーバーオプションを使用して、ストレージグループの完全なコピー (CCR コピー) を作成および維持する高可用性ソリューションです。ストレージグループは個別のサーバーに複製されます。CCR は Exchange バックエンドサーバーで発生した単発箇所の障害を取り除きます。CCR コピーが存在するパッシブ Exchange Server ノードで VSS を使用してバックアップを実行すれば、アクティブノードの負荷が軽減されます。

CCR コピーへの切り替えは数秒で完了するため、CCR コピーはディザスタリカバリに使用されます。複製されたストレージグループは、Exchange ライターの新しいインスタンス (Exchange Replication Service) として表示され、元のストレージグループと同様に VSS を使用してバックアップできます。

Exchange Replication Service およびローカル連続レプリケーション も参照。

グループ

(Microsoft Cluster Server 固有の用語) 特定のクラスター対応アプリケーションを実行するために必要なリソース (ディスクボリューム、アプリケーションサービス、IP 名および IP アドレスなど) の集合。

グローバルオプションファイル

Data Protector をカスタマイズするためのファイル。このファイルでは、Data Protector のさまざまな設定 (特に、タイムアウトや制限) を定義でき、その内容は Data Protector セル全体に適用されます。このファイルは、

Data_Protector_program_data\Config\Server\Options ディレクトリ (Windows Server 2008 の場合)、*Data_Protector_home*\Config\Server\Options ディレクトリ (その他の Windows システムの場合)、または */etc/opt/omni/server/options* ディレクトリ (HP-UX または Linux システムの場合) の Cell Manager に置かれています。

こ

合成バックアップ

データに関しては従来のフルバックアップと同じである合成フルバックアップを、生産サーバーやネットワークに負担をかけずに出力するバックアップソリューション。合成フルバックアップは、前回のフルバックアップと任意の数の増分バックアップを使用して作成されます。

合成フルバックアップ

バックアップオブジェクトの復元チェーンが新たな合成フルバージョンのオブジェクトにマージされる、オブジェクト集約処理の結果。合成フルバックアップは、復元速度の面では従来のフルバックアップと同じです。

コピーセット

(HP P6000 EVA ディスクアレイファミリ固有の用語) ローカル P6000 EVA 上にあるソースボリュームとリモート P6000 EVA 上にあるその複製とのペア。ソースボリューム、複製、および HP Continuous Access + Business Copy(CA+BC)P6000 EVA も参照。

コマンドデバイス

(HP P9000 XP ディスクアレイファミリ固有の用語) ディスクアレイ内の専用のボリュームで、管理アプリケーションとディスクアレイのストレージシステムとの間のインターフェースとして機能します。データストレージ用に使用することはできません。操作に対する要求のみを受け付け、ディスクアレイによってその操作が実行されます。

コマンドラインインタフェース (CLI)

CLI には、DOS コマンドや UNIX コマンドと同じようにシェルスクリプト内で使用できるコマンドが用意されています。これらを通じて、Data Protector の構成、管理、バックアップ/復元タスクを実行することができます。

コンテナ

(HP P6000 EVA ディスクアレイファミリ固有の用語) ディスクアレイ上のスペース。後で標準スナップショット、vsnap、またはスナップクローンとして使用するために事前に割り当てられます。

さ

再解析ポイント

(Windows 固有の用語) 任意のディレクトリまたはファイルに関連付けることができるシステム制御属性。再解析属性の値は、ユーザー制御データをとることができます。このデータの形式は、データを保存したアプリケーションによって認識され、データの解釈用にインストールされており、該当ファイルを処理するファイルシステムフィルタによっても認識されます。ファイルシステムは、再解析ポイント付きのファイルを検出すると、そのデータ形式に関連付けられているファイルシステムフィルタを検索します。

再同期モード	(HP P9000 XP ディスクアレイファミリ VSS プロバイダ固有の用語) 2 種類ある P9000 XP アレイ VSS ハードウェアプロバイダの操作モードの 1 つ。P9000 XP アレイプロバイダが再同期モードであると、ソースボリューム (P-VOL) とその複製 (S-VOL) は、バックアップ後、中断ミラー関係になります。MU 範囲が 0-2(つまり、0、1、2) の場合、ローテーションされる最大複製数 (P-VOL 当たりの S-VOL 数) は 3 となります。このような構成でのバックアップからの復元は、S-VOL をその P-VOL と再同期することによってのみ可能となります。VSS 準拠モード、ソースボリューム、プライマリボリューム (P-VOL)、複製、セカンダリボリューム (S-VOL)、ミラーユニット (MU) 番号、および複製セットローテーション も参照。
サイト複製サービス	(Microsoft Exchange Server 固有の用語) Exchange Server 5.5 ディレクトリサービスをエミュレートすることで、Microsoft Exchange Server 5.5 と互換性のある Microsoft Exchange Server 2003 のサービス。 インフォメーションストアおよびキーマネジメントサービス も参照。
差分同期 (再同期)	(EMC Symmetrix 固有の用語) BCV または SRDF 制御操作。BCV 制御操作では、差分同期 (Incremental Establish) により、BCV デバイスが増分的に同期化され、EMC Symmetrix ミラー化メディアとして機能します。EMC Symmetrix デバイスは、事前にペアにしておく必要があります。SRDF 制御操作では、差分同期 (Incremental Establish) により、ターゲットデバイス (R2) が増分的に同期化され、EMC Symmetrix ミラー化メディアとして機能します。EMC Symmetrix デバイスは、事前にペアにしておく必要があります。
差分バックアップ	前回のフルバックアップより後の変更をバックアップする増分バックアップ。このバックアップを実行するには、増分 1 バックアップを指定します。 増分バックアップ も参照。
差分バックアップ	(Microsoft SQL Server 固有の用語) 前回のフルデータベースバックアップ以降にデータベースに対して加えられた変更だけを記録するデータベースバックアップ。 バックアップの種類 も参照。
差分リストア	(EMC Symmetrix 固有の用語) BCV または SRDF 制御操作。BCV 制御操作では、差分リストアにより、BCV デバイスがペア内の 2 番目に利用可能な標準デバイスのミラーとして再割り当てされます。これに対し、標準デバイスの更新時には、オリジナルのペアの分割中に BCV デバイスに書き込まれたデータだけが反映され、分割中に標準デバイスに書き込まれたデータは BCV ミラーからのデータで上書きされます。SRDF 制御操作では、差分リストアにより、ターゲットデバイス (R2) がペア内の 2 番目に利用可能なソースデバイス (R1) のミラーとして再割り当てされます。これに対し、ソースデバイス (R1) の更新時には、オリジナルのペアの分割中にターゲットデバイス (R2) に書き込まれたデータだけが反映され、分割中にソースデバイス (R1) に書き込まれたデータはターゲットミラー (R2) からのデータで上書きされます。

し

システムボリューム/ディスク/パーティション

オペレーティングシステムファイルが格納されているボリューム/ディスク/パーティション。ただし、Microsoft の用語では、ブートプロセスの開始に必要なファイルが入っているボリューム/ディスク/パーティションをシステムボリューム/システムディスク/システムパーティションと呼んでいます。

システム状態 **(Windows 固有の用語)** システム状態データには、レジストリ、COM+ クラス登録データベース、システム起動ファイル、および証明書サービスデータベース (Certificate Server の場合) が含まれます。サーバーがドメインコントローラの場合は、Active Directory サービスと SYSVOL ディレクトリもシステム状態データに含まれます。サーバーがクラスターサービスを実行している場合、システム状態データにはリソースレジストリチェックポイントとクォーラムリソースリカバリ ログが含まれ、最新のクラスターデータ情報が格納されます。

システムデータベース **(Sybase 固有の用語)** Sybase SQL Server を新規インストールすると、以下の 4 種類のデータベースが生成されます。

- マスターデータベース (master)
- 一時データベース (tempdb)
- システムプロシージャデータベース (sybsystemprocs)
- モデルデータベース (model)

システム復旧データファイル	SRD ファイル を参照。
事前割り当てリスト	メディアプール内のメディアのサブセットをバックアップに使用する順に指定したリスト。
実行後	オブジェクトのバックアップ後、またはセッション全体の完了後にコマンドまたはスクリプトを実行するバックアップオプション。実行後コマンドは、Data Protector で事前に用意されているものではありません。ユーザーは、コマンドを独自に作成する必要があります。Windows 上で動作する実行可能ファイルまたはバッチファイル、UNIX 上で動作するシェルスクリプトなどを使用できます。 実行前 も参照。
実行前コマンドと実行後コマンド	実行前コマンドおよび実行後コマンドは、バックアップセッションまたは復元セッションの前後に付加的な処理を実行する実行可能ファイルまたはスクリプトです。実行前コマンドおよび実行後コマンドは、Data Protector で事前に用意されているものではありません。ユーザーは、コマンドを独自に作成する必要があります。Windows 上で動作する実行可能ファイルまたはバッチファイル、UNIX 上で動作するシェルスクリプトなどを使用できます。
実行前	オブジェクトのバックアップ前、またはセッション全体の開始前にコマンドまたはスクリプトを実行するバックアップオプション。実行前コマンドおよび実行後コマンドは、Data Protector で事前に用意されているものではありません。ユーザーは、コマンドを独自に作成する必要があります。Windows 上で動作する実行可能ファイルまたはバッチファイル、UNIX 上で動作するシェルスクリプトなどを使用できます。 実行後 も参照。
自動移行	(VLS 固有の用語) データのバックアップをまず VLS の仮想テープに作成し、それを物理テープ (1 つの仮想テープが 1 つの物理テープをエミュレート) に移行する操作を、中間バックアップアプリケーションを使用せずに実行する機能。 仮想ライブラリシステム (VLS) と仮想テープ も参照。
自動ストレージ管理 (ASM)	(Oracle 固有の用語) Oracle に統合されるファイルシステムおよびボリュームマネージャーで、Oracle データベースファイルを管理します。データやディスクの管理が簡単になり、ストライピング機能やミラーリング機能によってパフォーマンスが最適化されます。
シャドウコピー	(Microsoft VSS 固有の用語) 特定の時点におけるオリジナルボリューム (元のボリューム) の複製を表すボリューム。オリジナルボリュームからではなく、シャドウコピーからデータがバックアップされます。オリジナルボリュームはバックアップ処理中も更新が可能です。ボリュームのシャドウコピーは同じ内容に維持されます。 Microsoft ボリュームシャドウコピーサービスおよび複製 も参照。
シャドウコピーセット	(Microsoft VSS 固有の用語) 同じ時点で作成されたシャドウコピーのコレクション。 シャドウコピーおよび複製セット も参照。
シャドウコピープロバイダ	(Microsoft VSS 固有の用語) ボリュームシャドウコピーの作成と表現を行うエンティティ。プロバイダは、シャドウコピーデータを所有して、シャドウコピーを公開します。プロバイダは、ソフトウェア (システムプロバイダなど) で実装することも、ハードウェア (ローカルディスクやディスクアレイ) で実装することもできます。 シャドウコピー も参照。
ジュークボックス	ライブラリ を参照。
ジュークボックスデバイス	光磁気メディアまたはファイルメディアを格納するために使用する、複数のスロットからなるデバイス。ファイルメディアの格納に使用する場合、ジュークボックスデバイスは「ファイルジュークボックスデバイス」と呼ばれます。
集中型ライセンス	Data Protector では、複数のセルからなるエンタープライズ環境全体にわたってライセンスの集中管理を構成できません。すべての Data Protector ライセンスは、エンタープライズ Cell Manager システム上にインストールされます。ライセンスは、実際のニーズに応じてエンタープライズ Cell Manager システムから特定のセルに割り当てることができます。 MoM も参照。
循環ログ	(Microsoft Exchange Server および Lotus Domino Server 固有の用語) 循環ログは、Microsoft Exchange Server データベースおよび Lotus Domino Server データベースモードの 1 つ。このモードでは、トランザクションログファイルのコンテンツは、対応するデータがデータベースにコミットされると、定期的の上書きされます。循環ログにより、ディスク記憶領域の要件が軽減されます。
初期化	フォーマット を参照。

所有権

バックアップ所有権は、データを参照および復元するユーザーの能力に影響します。各バックアップセッションとの中でバックアップされたすべてのデータはオーナーに割り当てられます。所有者は、対話型バックアップを開始するユーザー、CRS プロセスを実行するとき使用するアカウント、またはバックアップ仕様オプションで所有者として指定されたユーザーです。

ユーザーが既存のバックアップ仕様を修正せずにそのまま起動した場合、そのバックアップセッションは対話型とみなされません。

ユーザーがバックアップ仕様を修正して起動すると、以下の条件が成立しない限り、そのユーザーがオーナーになります。

- そのユーザーが [セッションの所有権を切り替え] ユーザー権限を持っている。
- バックアップ仕様内でバックアップセッションオーナーを明示的に定義するには、ユーザー名、グループ名またはドメイン名、およびシステム名を指定します。

UNIX Cell Manager 上でスケジュールしたバックアップの場合、上記の条件が成立しない限り、root: sys がセッションオーナーになります。

Windows Cell Manager 上でスケジュールしたバックアップの場合、上記の条件が成立していない限り、インストール時に指定されたユーザーがセッションオーナーになります。オブジェクトのコピーまたは統合を行う場合のオーナーは、コピー仕様や統合仕様で別のオーナーが指定されていない限り、デフォルトでは、その操作を開始するユーザーです。

す

スイッチオーバー スキャン

フェイルオーバー を参照。

デバイス内のメディアを識別する機能。これにより、MMDB を、選択した位置 (たとえば、ライブラリ内のスロット) に実際に存在するメディアと同期させることができます。デバイスに含まれる実際のメディアをスキャンしてチェックすると、第三者が Data Protector を使用せずにメディアを操作 (挿入または取り出しなど) していないかどうかを確認できます。

スケジューラ

自動バックアップの実行タイミングと頻度を制御する機能。スケジュールを設定することで、バックアップの開始を自動化できます。

スタッカー

メディア記憶用の複数のスロットを備えたデバイス。通常は、1 ドライブ構成です。スタッカーは、スタックからシーケンシャルにメディアを選択します。これに対し、ライブラリはレポジトリからメディアをランダムに選択します。

スタンドアロン ファイルデバイス

ファイルデバイスとは、ユーザーがデータのバックアップに指定したディレクトリにあるファイルのことです。

ストレージグループ

(Microsoft Exchange Server 固有の用語) 同じログファイルを共有する複数のメールボックスストアとパブリックフォルダストアのコレクション。Exchange Server では、各ストレージグループを個別のサーバープロセスで管理します。

ストレージボ リューム

(ZDB 固有の用語) ボリューム管理システム、ファイルシステム、他のオブジェクトなどが存在可能なオペレーティングシステムや他のエンティティ (たとえば、仮想化機構など) に提示できるオブジェクト。ボリューム管理システム、ファイルシステムはこの記憶域に構築されます。これらは通常、ディスクアレイなどの記憶システム内に作成または存在します。

スナップショット

(HP P4000 SAN ソリューション、HP P6000 EVA ディスクアレイファミリ、HP P9000 XP ディスクアレイファミリ、および HP P10000 Storage Systems 固有の用語) 特定の複製方法で作成されたターゲットボリュームの種類の一つ。ディスクアレイモデルと選択した複製方法に応じて、特性の異なる、さまざまなスナップショットの種類が使用できます。基本的に、各スナップショットは仮想コピー (ソースボリュームの内容に引き続き依存します)、またはソースボリュームから独立した複製 (クローン) のどちらかです。複製およびスナップショット作成 も参照。

スナップショット 作成

(HP P4000 SAN ソリューション、HP P6000 EVA ディスクアレイファミリ、HP P9000 XP ディスクアレイファミリ、および HP P10000 Storage Systems 固有の用語) 選択したソースボリュームのコピーをストレージ仮想化技術を使用して作成する複製作成プロセス。スナップショットは、ある特定の時点で作成されたとみなされる複製で、作成後すぐに使用できます。ただし、スナップショットの種類によっては、複製作成後にデータコピープロセスがバックグラウンドで継続して実行されるものもあります。スナップショット も参照。

スナップショット バックアップ	テープへの ZDB、ディスクへの ZDB、およびディスク + テープへの ZDB を参照。
スパースファイル	ブロックが空の部分を含むファイル。例として、データの一部または大部分にゼロが含まれるマトリクス、イメージアプリケーションからのファイル、高速データベースなどがあります。スパースファイルの処理を復元中に有効にしておかないと、スパースファイルを復元できなくなる可能性があります。
スプリットミラー	(EMC Symmetrix Disk Array および HP P9000 XP ディスクアレイファミリ固有の用語) 特定の複製方法で作成されたターゲットボリュームの種類の一つ。スプリットミラー複製により、ソースボリュームの独立した複製 (クローン) が作成されます。複製およびスプリットミラーの作成 も参照。
スプリットミラー の作成	(EMC Symmetrix および HP P9000 XP ディスクアレイファミリ固有の用語) 事前構成したターゲットボリュームのセット (ミラー) を、ソースボリュームの内容の複製が必要になるまでソースボリュームのセットと同期化し続ける複製技法。その後、同期を停止 (ミラーを分割) すると、分割時点でのソースボリュームのスプリットミラー複製はターゲットボリュームに残ります。スプリットミラー も参照。
スプリットミラー バックアップ (EMC Symmetrix 固有の用語)	テープへの ZDB を参照。
スプリットミラー バックアップ (HP P9000 XP ディス クアレイファミリ 固有の用語)	テープへの ZDB、ディスクへの ZDB、およびディスク + テープへの ZDB を参照。
スプリットミラー 復元	(EMC Symmetrix および HP P9000 XP ディスクアレイファミリ固有の用語) テープへの ZDB セッションまたはディスク + テープへの ZDB セッションでバックアップされたデータを、最初にバックアップメディアから複製に、その後に複製からソースボリュームにコピーするプロセス。この方法では、完全なセッションを復元することも個々のバックアップオブジェクトを復元することも可能です。テープへの ZDB、ディスク + テープへの ZDB および複製 も参照。
スマートコピー	(VLS 固有の用語) 仮想テープから物理テープライブラリへ作成されたバックアップデータのコピー。スマートコピーのプロセスによって、Data Protector ではソースメディアとターゲットメディアを区別できるため、メディア管理が可能になります。仮想ライブラリシステム (VLS) も参照。
スマートコピー プール	(VLS 固有の用語) 指定されたソース仮想ライブラリに対してどのコピー先ライブラリロットをスマートコピーターゲットとして使用できるかどうかを定義するプール。仮想ライブラリシステム (VLS) およびスマートコピー も参照。
スレッド	(Microsoft SQL Server 固有の用語) 1 つのプロセスのみに属する実行可能なエンティティ。プログラムカウンタ、ユーザーモードスタック、カーネルモードスタック、およびレジスタ値のセットからなります。同じプロセス内で複数のスレッドを同時に実行できます。
スロット	ライブラリ内の機械的位置。各スロットが DLT テープなどのメディアを 1 つずつ格納できません。Data Protector では、各スロットを番号で参照します。メディアを読み取るときには、ロボット機構がメディアをスロットからドライブに移動します。

せ

制御ファイル	(Oracle および SAP R/3 固有の用語) データベースの物理構造を指定するエントリが記述された Oracle データファイル。復旧に使用するデータベース情報の整合性を確保できます。
セカンダリボ リューム (S-VOL)	(HP P9000 XP ディスクアレイファミリ固有の用語) HP P9000 XP ディスクアレイファミリのディスクアレイの内部ディスク (LDEV) で、もう 1 つの LDEV であるプライマリボリューム (P-VOL) とペアとなっています。プライマリボリューム (P-VOL) セカンダリボリュームは、P-VOL のミラーとして、また P-VOL のスナップショットストレージに使用されるボリュームとして機能することが可能です。S-VOL は P-VOL に使用される SCSI アドレスとは異なるアドレスに割り当てられます。HP CA P9000 XP 構成では、ミラーとして機能する S-VOL を MetroCluster 構成のフェイルオーバーデバイスとして使用することができます。

プライマリボリューム (P-VOL) およびメインコントロールユニット (MCU) も参照。

セッション	バックアップセッション、メディア管理セッション、および復元セッションを参照。
セッション ID	バックアップ、復元、オブジェクトコピー、オブジェクト集約、オブジェクト検証、またはメディア管理のセッションの識別子で、セッションを実行した日付と一意の番号から構成されます。
セッションキー	実行前スクリプトおよび実行後スクリプト用の環境変数。Data Protector プレビューセッションを含めたセッションを一意に識別します。セッションキーはデータベースに記録されず、omnimnt, omnistat および omniabort コマンドのオプション指定に使用されます。
セル	1 台の Cell Manager に管理されているシステムの集合。セルは、通常、同じ LAN または SAN に接続されている、サイト上または組織エンティティ上のシステムを表します。集中管理によるバックアップおよび復元のポリシーやタスクの管理が可能です。
ゼロダウンタイム バックアップ (ZDB)	ディスクアレイにより実現したデータ複製技術を用いて、アプリケーションシステムのバックアップ処理の影響を最小限に抑えるバックアップアプローチ。バックアップされるデータの複製がまず作成されます。その後のすべてのバックアップ処理は、元のデータではなく複製データを使って実行し、アプリケーションシステムは通常の処理に復帰します。ディスクへの ZDB、テープへの ZDB、ディスク + テープへの ZDB、およびインスタントリカバリ も参照。

そ

増分 1 メールボックスバックアップ	増分 1 メールボックスバックアップでは、前回のフルバックアップ以降にメールボックスに対して行われた変更をすべてバックアップします。
増分 ZDB	ファイルシステム ZDB からテープへ、または ZDB からディスク + テープへのセッション。前回の保護されたフルバックアップまたは増分バックアップ以降に変更された内容のみがテープにストリーミングされます。フル ZDB も参照。
増分バックアップ	前回のバックアップ以降に変更があったファイルだけを選択するバックアップ。増分バックアップには複数のレベルがあり、復元チェーンの長さを細かく制御できます。バックアップの種類 も参照。
増分バックアップ	(Microsoft Exchange Server 固有の用語) 前回のフルバックアップまたは増分バックアップ以降の変更だけをバックアップする Microsoft Exchange Server データのバックアップ。増分バックアップでは、バックアップ対象はトランザクションログだけです。バックアップの種類 も参照。
増分メールボックスバックアップ	増分メールボックスバックアップでは、前回の各種バックアップ以降にメールボックスに対して行われた変更をすべてバックアップします。
ソースデバイス (R1)	(EMC Symmetrix 固有の用語) ターゲットデバイス (R2) との SRDF 操作に参加する EMC Symmetrix デバイス。このデバイスに対するすべての書き込みは、リモート EMC Symmetrix ユニット内のターゲットデバイス (R2) にミラー化されます。R1 デバイスは、RDF1 グループタイプに割り当てる必要があります。ターゲットデバイス (R2) も参照。
ソースボリューム	(ZDB 固有の用語) 複製されるデータを含むストレージボリューム。

た

ターゲットシステム	(ディザスタリカバリ固有の用語) コンピュータの障害が発生した後のシステム。ターゲットシステムは、ブート不能な状態になっていることが多く、そのような状態のシステムを元のシステム構成に戻すことがディザスタリカバリの目標となります。クラッシュしたシステムがそのままターゲットシステムになるのではなく、正常に機能していないハードウェアをすべて交換することで、クラッシュしたシステムがターゲットシステムになります。
ターゲットデータベース	(Oracle 固有の用語) RMAN では、バックアップまたは復元対象のデータベースがターゲットデータベースとなります。
ターゲットデバイス (R2)	(EMC Symmetrix 固有の用語) ターゲットデバイス (R1) との SRDF 操作に参加する EMC Symmetrix デバイス。リモート EMC Symmetrix ユニット内に置かれます。ローカル EMC Symmetrix ユニット内でソースデバイス (R1) とペアになり、ミラー化ペアから、すべての書き込みデータを受け取ります。このデバイスは、通常の I/O 操作ではユーザーアプリケー

ションからアクセスされません。R2 デバイスは、RDF2 グループタイプに割り当てる必要があります。

ソースデバイス (R1) も参照。

ターゲットボ リューム

(ZDB 固有の用語) 複製されるデータを含むストレージボリューム。

ターミナルサービ ス

(Windows 固有の用語) Windows のターミナルサービスは、サーバー上で実行されている仮想 Windows デスクトップセッションと Windows ベースのプログラムにクライアントからアクセスできるマルチセッション環境を提供します。

ち

チャンネル

(Oracle 固有の用語) Oracle Recovery Manager リソース割り当て。チャンネルが割り当てられるごとに、新しい Oracle プロセスが開始され、そのプロセスを通じてバックアップ、復元、および復旧が行われます。割り当てられるチャンネルの種類によって、使用するメディアの種類が決まります。

- disk タイプ
- sbt_tape タイプ

Oracle が Data Protector と統合されており、指定されたチャンネルの種類が sbt_tape タイプの場合は、上記のサーバープロセスが Data Protector に対してバックアップの読み取りとデータファイルの書き込みを試行します。

て

ディザスタリカバ リ

クライアントのメインシステムディスクを (フル) バックアップの実行時に近い状態に復元するためのプロセスです。

ディザスタリカバリオペレーティングシステム

DR OS を参照。

ディザスタリカバ リの段階 0

ディザスタリカバリの準備 (ディザスタリカバリを成功させるための必須条件)。

ディザスタリカバ リの段階 1

DR OS のインストールと構成 (以前の記憶領域構造の構築)。

ディザスタリカバ リの段階 2

オペレーティングシステム (環境を定義する各種の構成情報を含む) と Data Protector の復元。

ディザスタリカバ リの段階 3

ユーザーデータとアプリケーションデータの復元。

ディスク+テープ への ZDB

(ZDB 固有の用語) ゼロダウンタイムバックアップの 1 つの形式。ディスクへの ZDB と同様に、作成された複製が特定の時点でのソースボリュームのバックアップとしてディスクアレイに保持されます。ただし、テープへの ZDB と同様、複製データはバックアップメディアにもストリーミングされます。このバックアップ方法を使用した場合、同じセッションでバックアップしたデータは、インスタントリカバリプロセス、Data Protector 標準のテープからの復元を使用して復元できます。特定のディスクアレイファミリではスプリットミラー復元が可能です。

ゼロダウンタイムバックアップ (ZDB)、ディスクへの ZDB、テープへの ZDB、インスタントリカバリ、複製、および複製セットローテーション も参照。

ディスクイメージ (raw ディスク) の バックアップ

ディスクイメージのバックアップでは、ファイルがビットマップイメージとしてバックアップされるので、高速バックアップが実現します。ディスクイメージ (raw ディスク) バックアップでは、ディスク上のファイルおよびディレクトリの構造はバックアップされませんが、ディスクイメージ構造がバイトレベルで保存されます。ディスクイメージバックアップは、ディスク全体か、またはディスク上の特定のセクションを対象にして実行できます。

ディスククォータ

コンピュータシステム上のすべてのユーザーまたはユーザーのサブセットに対してディスクスペースの消費を管理するためのコンセプト。このコンセプトは、いくつかのオペレーティングシステムプラットフォームで採用されています。

ディスクグループ

(Veritas Volume Manager 固有の用語) VxVM システムのデータストレージの基本ユニット。ディスクグループは、1 つまたは複数の物理ボリュームから作成できます。同じシステム上に複数のディスクグループを置くことができます。

ディスクステージング	データをいくつかの段階に分けてバックアップする処理。これにより、バックアップと復元のパフォーマンスが向上し、バックアップデータの格納費用が節減され、データの可用性と復元時のアクセス性が向上します。バックアップステージは、最初に 1 種類のメディア (たとえば、ディスク) にデータをバックアップし、その後データを異なる種類のメディア (たとえば、テープ) にコピーすることから構成されます。
ディスクへの ZDB	(ZDB 固有の用語) ゼロダウンタイムバックアップの 1 つの形式。作成された複製が、特定の時点でのソースボリュームのバックアップとしてディスクアレイに保持されます。同じバックアップ仕様を使って別の時点で作成された複数の複製を、複製セットに保持することができます。テープに ZDB した複製はインスタントリカバリプロセスで復元できます。ゼロダウンタイムバックアップ (ZDB)、テープへの ZDB、ディスク + テープへの ZDB、インスタントリカバリ、および複製セットローテーション も参照。
ディレクトリ接合	(Windows 固有の用語) ディレクトリ接合は、Windows の再解析ポイントのコンセプトに基づいています。NTFS 5 ディレクトリ接合では、ディレクトリ/ファイル要求を他の場所にリダイレクトできます。
データストリーム	通信チャンネルを通じて転送されるデータのシーケンス。
データファイル	(Oracle および SAP R/3 固有の用語) Oracle によって作成される物理ファイル。表や索引などのデータ構造を格納します。データファイルは、1 つの Oracle データベースにのみ所属できます。
データ複製 (DR) グループ	(HP P6000 EVA ディスクアレイファミリ固有の用語) HP P6000 EVA ディスクアレイファミリ仮想ディスクの論理グループ。共通の性質を持ち、同じ HP CA P6000 EVA ログを共有していれば、最大 8 組のコピーセットを含めることができます。コピーセット も参照。
データベースサーバー	大規模なデータベース (SAP R/3 データベースや Microsoft SQL データベースなど) が置かれているコンピュータ。サーバー上のデータベースへは、クライアントからアクセスできます。
データベースの差分バックアップ	前回のフルデータベースバックアップ以降にデータベースに対して加えられた変更だけを記録するデータベースバックアップ。
データベースの並列処理 (数)	十分な台数のデバイスが利用可能で、並列バックアップを実行できる場合には、複数のデータベースが同時にバックアップされます。
データベースライブラリ	Data Protector のルーチンのセット。Oracle Server のようなオンラインデータベース統合ソフトウェアのサーバーと Data Protector の間でのデータ転送を可能にします。
データ保護	メディア上のバックアップデータを保護する期間を定義します。この期間中は、データが上書きされません。保護期限が切れると、それ以降のバックアップセッションでメディアを再利用できるようになります。カタログ保護 も参照。
テープなしのバックアップ (ZDB 固有の用語)	ディスクへの ZDB を参照。
テープへの ZDB	(ZDB 固有の用語) ゼロダウンタイムバックアップの 1 つの形式。作成された複製が、バックアップメディア (通常はテープ) にストリーミングされます。このバックアップ形式ではインスタントリカバリはできませんが、バックアップ終了後にディスクアレイ上に複製を保持する必要がありません。バックアップデータは Data Protector 標準のテープからの復元を使用して復元できます。特定のディスクアレイファミリでは、スプリットミラー復元が可能です。ゼロダウンタイムバックアップ (ZDB)、ディスクへの ZDB、ディスク + テープへの ZDB、インスタントリカバリ、および複製 も参照。
デバイス	ドライブまたはより複雑な装置 (ライブラリなど) を格納する物理装置。
デバイスグループ	(EMC Symmetrix 固有の用語) 複数の EMC Symmetrix デバイスを表す論理ユニット。デバイスは 1 つのデバイスグループにしか所属できません。デバイスグループのデバイスは、すべて同じ EMC Symmetrix 装置に取り付けられている必要があります。デバイスグループにより、利用可能な EMC Symmetrix デバイスのサブセットを指定し、使用することができます。
デバイスストリーミング	デバイスがメディアへ十分な量のデータを継続して送信できる場合、デバイスはストリーミングを行います。そうでない場合は、デバイスはテープを止めてデータが到着するのを待ち、テープを少し巻き戻した後、テープへの書込みを再開します。言い換えると、テープにデータを書き込む速度が、コンピュータシステムがデバイスへデータを送信する速度以下の場合、

デバイスはストリーミングを行います。ストリーミングは、スペースの使用効率とデバイスのパフォーマンスを大幅に向上します。

デバイスチェーン デバイスチェーンは、シーケンシャルに使用するように構成された複数のスタンドアロンデバイスからなります。デバイスチェーンに含まれるデバイスのメディアで空き容量がなくなると、自動的に次のデバイスのメディアに切り替えて、バックアップを続けます。

デルタバックアップ 差分バックアップ (delta backup) では、前回の各種バックアップ以降にデータベースに対して加えられたすべての変更がバックアップされます。バックアップの種類 も参照。

と

統合ソフトウェアオブジェクト Oracle または SAP DB などの Data Protector 統合ソフトウェアのバックアップオブジェクト。

同時処理数 Disk Agent の同時処理数 を参照。

ドメインコントローラ ユーザーのセキュリティを保護し、別のサーバーグループ内のパスワードを検証するネットワーク内のサーバー。

ドライブ コンピュータシステムからデータを受け取って、磁気メディア (テープなど) に書き込む物理装置。データをメディアから読み取って、コンピュータシステムに送信することもできます。

ドライブのインデックス ライブラリデバイス内のドライブの機械的な位置を識別するための数字。ロボット機構によるドライブアクセスは、この数に基づいて制御されます。

ドライブベースの暗号化 Data Protector のドライブベースの暗号化では、ドライブの暗号化機能が使用されます。バックアップの実行中、ドライブではメディアに書き込まれるデータとメタデータの両方が暗号化されます。

トランザクション 一連のアクションを単一の作業単位として扱えるようにするためのメカニズム。データベースでは、トランザクションを通じて、データベースの変更を追跡します。

トランザクションバックアップ トランザクションバックアップは、一般に、データベースのバックアップよりも必要とするリソースが少ないため、データベースのバックアップよりもより高い頻度で実行できます。トランザクションバックアップを適用することで、データベースを問題発生以前の特定の時点の状態に復旧することができます。

トランザクションバックアップ (**Sybase および SQL 固有の用語**) トランザクションログをバックアップすること。トランザクションログには、前回のフルバックアップまたはトランザクションバックアップ以降に発生した変更が記録されます。

トランザクションログ (**Data Protector 固有の用語**) IDB に対する変更を記録します。IDB 復旧に必要なトランザクションログファイル (前回の IDB バックアップ以降に作成されたトランザクションログ) が失われることがないように、トランザクションログのアーカイブを有効化しておく必要があります。

トランザクションログテーブル (**Sybase 固有の用語**) データベースに対するすべての変更が自動的に記録されるシステムテーブル。

トランザクションログバックアップ トランザクションログバックアップは、一般に、データベースのバックアップよりも必要とするリソースが少ないため、データベースのバックアップよりもより高い頻度で実行できます。トランザクションログバックアップを用いることにより、データベースを特定の時点の状態に復旧できます。

トランザクションログファイル データベースを変更するトランザクションを記録するファイル。データベースが破損した場合にフォールトトレランスを提供します。

トランスポートスナップショット (**Microsoft VSS 固有の用語**) アプリケーションシステム上に作成されるシャドウコピー。このシャドウコピーは、バックアップを実行するバックアップシステムに提供できます。Microsoft ポリリュームシャドウコピーサービス (VSS) も参照。

は

ハートビート 特定のクラスターノードの動作ステータスに関する情報を伝達するタイムスタンプ付きのクラスターデータセット。このデータセット (パケット) は、すべてのクラスターノードに配布されます。

ハードリカバリ (**Microsoft Exchange Server 固有の用語**) トランザクションログファイルを使用し、データベースエンジンによる復元後に実行される Microsoft Exchange Server のデータベース復旧。

配布ファイルメディア形式	ファイルライブラリで利用できるメディア形式。仮想フルバックアップと呼ばれる容量効率のいい合成バックアップをサポートしています。この形式を使用することは、仮想フルバックアップにおける前提条件です。 仮想フルバックアップも参照。
バックアップ API	Oracle のバックアップ/復元ユーティリティとバックアップ/復元メディア管理層の間にある Oracle インタフェース。このインタフェースによってルーチンのセットが定義され、バックアップメディアのデータの読み書き、バックアップファイルの作成や検索、削除が行えるようになります。
バックアップ ID	統合ソフトウェアオブジェクトの識別子で、統合ソフトウェアオブジェクトのバックアップのセッション ID と一致します。バックアップ ID は、オブジェクトのコピー、エクスポート、またはインポート時に保存されます。
バックアップオーナー	IDB の各バックアップオブジェクトにはオーナーが定義されています。デフォルトのオーナーは、バックアップセッションを開始したユーザーです。
バックアップオブジェクト	1 つのディスクボリューム (論理ディスクまたはマウントポイント) からバックアップされた項目すべてを含むバックアップ単位。バックアップ項目は、任意の数のファイル、ディレクトリ、ディスク全体またはマウントポイントの場合が考えられます。また、バックアップオブジェクトはデータベース/アプリケーションエンティティまたはディスクイメージ (raw ディスク) の場合もあります。 バックアップオブジェクトは以下のように定義されます。 <ul style="list-style-type: none"> • クライアント名: バックアップオブジェクトが保存される Data Protector クライアントのホスト名 • マウントポイント: ファイルシステムオブジェクトを対象とする場合 – バックアップオブジェクトが存在するクライアント (Windows ではドライブ、UNIX ではマウントポイント) 上のディレクトリ構造におけるアクセスポイント。統合オブジェクトを対象とする場合 – バックアップストリーム ID。バックアップされたデータベース項目/アプリケーション項目を示します。 • 説明: ファイルシステムオブジェクトを対象とする場合 – 同一のクライアント名とマウントポイントを持つオブジェクトを一意に定義します。統合オブジェクトを対象とする場合 – 統合の種類を表示します (例: SAP または Lotus)。 • 種類: バックアップオブジェクトの種類。ファイルシステムオブジェクトを対象とする場合 – ファイルシステムの種類 (例: WinFS)。統合オブジェクトを対象とする場合 – 「Bar」
バックアップシステム	(ZDB 固有の用語) 1 つ以上のアプリケーションシステムとともにディスクアレイに接続されているシステム。ほとんどの場合、バックアップシステムはターゲットボリューム (複製) を作成するためにディスクアレイに接続されるほか、ターゲットボリューム (複製) のマウント処理に使用されます。 アプリケーションシステム、ターゲットボリュームおよび複製も参照。
バックアップ仕様	バックアップ対象のオブジェクトのリストに、使用するデバイスまたはドライブのセット、仕様に含まれているすべてのオブジェクトのバックアップオプション、およびバックアップを実行する曜日や時刻を加えたもの。オブジェクトとなるのは、ディスクやボリューム全体、またはその一部、たとえばファイル、ディレクトリ、Windows レジストリなどです。インクルードリストおよびエクスクルードリストを使用して、ファイルを選択することもできます。
バックアップ世代	1 つのフルバックアップとそれに続く増分バックアップを意味します。次のフルバックアップが行われると、世代が新しくなります。
バックアップセッション	データのコピーを記憶メディア上に作成するプロセス。バックアップ仕様に処理内容を指定することも、対話式に操作を行うこともできます (対話式セッション)。1 つのバックアップ仕様の中で複数のクライアントが構成されている場合、すべてのクライアントが同じバックアップの種類を使って、1 回のバックアップセッションで同時にバックアップされます。バックアップセッションの結果、1 式のメディアにバックアップデータが書き込まれます。これらのメディアは、バックアップセットまたはメディアセットとも呼ばれます。 バックアップ仕様、フルバックアップ、および増分バックアップも参照。
バックアップセット	バックアップに関連したすべての統合ソフトウェアオブジェクトのセットです。

バックアップセット	(Oracle 固有の用語) RMAN バックアップコマンドを使用して作成したバックアップファイルの論理グループ。バックアップセットは、バックアップに関連したすべてのファイルのセットです。これらのファイルはパフォーマンスを向上するため多重化することができます。バックアップセットにはデータファイルまたはアーカイブログのいずれかを含めることができますが、両方同時に使用できません。
バックアップチェーン	復元チェーン を参照。
バックアップデバイス	記憶メディアに対するデータの読み書きが可能な物理デバイスを Data Protector で使用できるように構成したもの。たとえば、スタンドアロン DDS/DAT ドライブやライブラリなどをバックアップデバイスとして使用できます。
バックアップの種類	増分バックアップ、差分バックアップ、トランザクションバックアップ、フルバックアップおよびデルタバックアップ を参照。
バックアップビュー	Data Protector では、バックアップ仕様のビューを切り替えることができます。 [種類別] を選択すると、バックアップ/テンプレートで利用できるデータの種類の種類に基づいたビューが表示されます。(デフォルト) [グループ別] を選択すると、バックアップ仕様/テンプレートの所属先のグループに基づいたビューが表示されます。 [名前別] を選択すると、バックアップ仕様/テンプレートの名前に基づいたビューが表示されます。 [Manager 別](MoM の実行時のみ有効) を選択すると、バックアップ仕様/テンプレートの所属先の Cell Manager に基づいたビューが表示されます。
パッケージ	(MC/ServiceGuard および Veritas Cluster 固有の用語) 特定のクラスター対応アプリケーションを実行するために必要なリソース (ボリュームグループ、アプリケーションサービス、IP 名および IP アドレスなど) の集合。
パブリック/プライベートバックアップデータ	バックアップを構成する際は、バックアップデータをパブリックまたはプライベートのいずれにするかを選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> • パブリックデータ – すべての Data Protector ユーザーに対してアクセスと復元が許可されます。 • プライベートデータ – バックアップの所有者および管理者に対してのみ表示と復元が許可されます。
パブリックフォルダストア	(Microsoft Exchange Server 固有の用語) インフォメーションストアのうち、パブリックフォルダ内の情報を維持する部分。パブリックフォルダストアは、バイナリリッチテキスト.edb ファイルと、ストリーミングネイティブインターネットコンテンツを格納する.stm ファイルから構成されます。
ひ	
表領域	データベース構造の一部。各データベースは論理的に 1 つまたは複数の表領域に分割されます。各表領域には、データファイルまたは raw ボリュームが排他的に関連付けられます。
ひ	
ブートボリューム/ディスク/パーティション	ブートプロセスの開始に必要なファイルが入っているボリューム/ディスク/パーティション。Microsoft の用語では、オペレーティングシステムファイルが入っているボリューム/ディスク/パーティションをブートボリューム/ブートディスク/ブートパーティションと呼んでいます。
ファーストレベルミラー	(HP P9000 XP ディスクアレイファミリ固有の用語) HP P9000 XP ディスクアレイファミリのディスクアレイの内部ディスク (LDEV) のミラーで、このミラーをさらにミラー化し、セカンドレベルのミラーを作成できます。Data Protector ゼロダウンタイムバックアップおよびインスタントリカバリ目的には、ファーストレベルミラーのみを使用できます。プライマリボリュームおよびミラーユニット (MU) 番号 も参照。

ファイバーチャネル	ファイバーチャネルは、高速のコンピュータ相互接続に関する ANSI 標準です。光ケーブルまたは銅線ケーブルを使って、大容量データファイルを高速で双方向送信でき、数 km 離れたサイト間を接続できます。ファイバーチャネルは、ノード間を 3 種類の物理トポロジー (ポイントツーポイント、ループ、スイッチ式) で接続できます。
ファイバーチャネルブリッジ	ファイバーチャネルブリッジ (マルチプレクサ) は、RAID アレイ、ソリッドステートディスク (SSD)、テープライブラリなどの既存の平行 SCSI デバイスをファイバーチャネル環境に移行できるようにします。ブリッジ (マルチプレクサ) の片側には Fibre Channel インタフェースがあり、その反対側には平行 SCSI ポートがあります。このブリッジ (マルチプレクサ) を通じて、SCSI パケットを Fibre Channel と平行 SCSI デバイスの間で移動することができます。
ファイルシステム	ハードディスク上に一定の形式で保存されたファイルの集まり。ファイルシステムは、ファイル属性とファイルの内容がバックアップメディアに保存されるようにバックアップされます。
ファイルジョークボックスデバイス	ファイルメディアを格納するために使用する、複数のスロットからなるディスク上に存在するデバイス。
ファイルツリーウォーク	(Windows 固有の用語) どのオブジェクトが作成、変更、または削除されたかを判断するためにファイルシステムを巡回する処理。
ファイルデポ	バックアップからファイルライブラリデバイスまでのデータを含むファイル。
ファイルバージョン	フルバックアップや増分バックアップでは、ファイルが変更されている場合、同じファイルが複数回バックアップされます。バックアップのロギングレベルとして [すべてログに記録] を選択している場合は、ファイル名自体に対応する 1 つのエントリとファイルの各バージョンに対応する個別のエントリが IDB 内に維持されます。
ファイル複製サービス (FRS)	Windows サービスの 1 つ。ドメインコントローラのストアログオンスクリプトとグループポリシーを複製します。また、分散ファイルシステム (DFS) 共有をシステム間で複製したり、任意のサーバーから複製作業を実行することもできます。
ファイルライブラリデバイス	複数のメディアからなるライブラリをエミュレートするディスク上に存在するデバイス。ファイルデポと呼ばれる複数のファイルが格納されます。
フェイルオーバー	あるクラスターノードから別のクラスターノードに最も重要なクラスターデータ (Windows の場合はグループ、UNIX の場合はパッケージ) を転送すること。フェイルオーバーは、主に、プライマリノードのソフトウェア/ハードウェア障害発生時や保守時に発生します。
フェイルオーバー	(HP P6000 EVA ディスクアレイファミリ固有の用語) HP Continuous Access + Business Copy (CA+BC) P6000 EVA 構成でソースとあて先の役割を逆にする操作。HP Continuous Access + Business Copy (CA+BC) P6000 EVA も参照。
フォーマット	メディアを Data Protector で使用できるように初期化するプロセス。メディア上の既存データはすべて消去されます。メディアに関する情報 (メディア ID、説明、場所) は、IDB および該当するメディア (メディアヘッダ) に保存されます。Data Protector のメディアは、保護の期限が切れるか、またはメディアの保護が解除されるかメディアがリサイクルされるまで、フォーマットされません。
負荷調整	デフォルトでは、デバイスが均等に使用されるように、バックアップ用に選択されたデバイスの負荷 (使用率) が自動的に調整されます。負荷調整では、各デバイスに書き込まれるオブジェクトの個数を調整することで、使用率を最適化します。負荷調整はバックアップ時に自動的に実行されるので、データが実際にどのようにバックアップされるかを管理する必要はありません。使用するデバイスを指定する必要があるだけです。負荷調整機能を使用しない場合は、バックアップ仕様に各オブジェクトに使用するデバイスを選択できます。Data Protector は、指定した順にデバイスにアクセスします。
復元セッション	バックアップメディアからクライアントシステムにデータをコピーするプロセス。
復元チェーン	特定の時点までのバックアップオブジェクトの復元に必要なバックアップすべて。復元チェーンは、オブジェクトのフルバックアップ 1 つと、任意の数の増分バックアップで構成されます。
複製	(ZDB 固有の用語) ユーザー指定のバックアップオブジェクトを含む、特定の時点におけるソースボリュームのデータのイメージ。イメージは、作成するハードウェアまたはソフトウェアによって、物理ディスクレベルでの記憶ブロックの独立した正確な複製 (クローン) になる (スプリットミラーやスナップクローンなど) 場合もあれば、仮想コピーになる (スナップショットなど) 場合もあります。基本的なオペレーティングシステムの観点からすると、バックアッ

ブオブジェクトを含む物理ディスク全体が複製されます。しかし、UNIXでボリュームマネージャーを使用するときは、バックアップオブジェクトを含むボリュームまたはディスクグループ全体が複製されます。Windowsでパーティションを使用する場合、選択したパーティションを含む物理ボリューム全体が複製されます。スナップショット、スナップショット作成、スプリットミラー、およびスプリットミラーの作成も参照。

複製セット

(ZDB 固有の用語) 同じバックアップ仕様を使って作成される複製のグループ。複製および複製セットローテーションも参照。

複製セットのローテーション

(ZDB 固有の用語) 通常のバックアップ作成のために継続的に複製セットを使用すること。複製セットの使用を必要とする同一のバックアップ仕様が実行されるたびに、新規の複製がセットの最大数になるまで作成され、セットに追加されます。その後、セット内の最も古い複製は置き換えられ、セット内の複製の最大数が維持されます。複製および複製セットも参照。

物理デバイス

ドライブまたはより複雑な装置 (ライブラリなど) を格納する物理装置。

プライマリボリューム (P-VOL)

(HP P9000 XP ディスクアレイファミリ固有の用語) HP P9000 XP ディスクアレイファミリのディスクアレイの内部ディスク (LDEV) で、これに対して、そのミラー、またはスナップショットストレージに使用されるボリュームのいずれかのセカンダリボリューム (S-VOL) が存在します。HP CA P9000 XP および HP CA+BC P9000 XP 構成では、プライマリボリュームはメインコントロールユニット (MCU) 内に配置されています。セカンダリボリューム (S-VOL) およびメインコントロールユニット (MCU) も参照。

フラッシュリカバリ領域

(Oracle 固有の用語) Oracle によって管理されるディレクトリ、ファイルシステム、または自動ストレージ管理 (ASM) ディスクグループであり、バックアップ、復元、およびデータベース復旧に関するファイル (リカバリファイル) 用の集中管理ストレージ領域として機能します。リカバリファイルも参照。

フリープール

フリープールは、メディアプール内のすべてのメディアが使用中になっている場合にメディアのソースとして補助的に使用できるプールです。ただし、メディアプールでフリープールを使用するには、明示的にフリープールを使用するように構成する必要があります。

フル ZDB

テープへの ZDB セッションまたはディスク + テープへの ZDB セッション。前回のバックアップから変更がない場合でも、選択したすべてのオブジェクトがテープにストリーミングされます。増分 ZDB も参照。

フルデータベースバックアップ

最後に (フルまたは増分) バックアップした後に変更されたデータだけでなく、データベース内のすべてのデータのバックアップ。フルデータベースバックアップは、他のバックアップに依存しません。

フルバックアップ

フルバックアップでは、最近変更されたかどうかに関係なく、選択されたオブジェクトをすべてバックアップします。バックアップの種類も参照。

フルメールボックスバックアップ

フルメールボックスバックアップでは、メールボックス全体の内容をバックアップします。

分散ファイルシステム (DFS)

複数のファイル共有を単一の名前空間に接続するサービス。対象となるファイル共有は、同じコンピュータに置かれていても、異なるコンピュータに置かれていてもかまいません。DFS は、リソースの保存場所の違いに関係なくクライアントがリソースにアクセスできるようにします。

へ

ペアステータス

(HP P9000 XP ディスクアレイファミリ固有の用語) HP P9000 XP ディスクアレイファミリのディスクアレイのディスクペア (セカンダリボリュームとそれに対応するプライマリボリューム) の状態。状況によってペアのディスクはさまざまな状態になる可能性があります。Data Protector HP P9000 XP Agent の操作において特に以下の状態が重要となります。

- ペア - セカンダリボリュームがゼロダウンタイムバックアップ用に準備されています。セカンダリボリュームがミラーの場合、完全に同期化されます。セカンダリボリュームがスナップショットストレージ用に使用されるボリュームの場合、空の状態です。

- 中断 – ディスク間のリンクは中断されています。ただし、ペアの関係は維持されたままとなり、後で再度ゼロダウンタイムバックアップを行うためにセカンダリディスクを準備できます。
- コピー – ディスクペアは現在使用中であり、ペア状態に移行中です。セカンダリボリュームがミラーの場合、プライマリボリュームで再同期されています。セカンダリボリュームがスナップショットストレージに使用されるボリュームの場合、その内容はクリアされています。

並行復元

単一の Media Agent からデータを受信する Disk Agent を複数実行して、バックアップされたデータを同時に複数のディスクに(並行して)復元すること。並行復元を行うには、複数のディスクまたは論理ボリュームに置かれているデータを選択し、同時処理数を 2 以上に設定してバックアップを開始し、異なるオブジェクトのデータを同じデバイスに送信する必要があります。並行復元中には、復元対象として選択した複数のオブジェクトがメディアから同時に読み取られるので、パフォーマンスが向上します。

並列処理

1 つのオンラインデータベースから複数のデータストリームを読み取ること。

変更ジャーナル

(Windows 固有の用語) ローカル NTFS ボリューム上のファイルやディレクトリへの変更が発生するたび、それに関するレコードをログに記録する Windows ファイルシステム機能。

ほ

保護

データ保護およびカタログ保護 を参照。

補助ディスク

必要最小限のオペレーティングシステムファイル、ネットワークファイル、および Data Protector Disk Agent がインストールされたブート可能ディスク。ディスクデリバリーで UNIX クライアントを障害から復旧するときのフェーズ 1 では、補助ディスクをターゲットシステムのブートに使用することができます。

ホストシステム

Data Protector Disk Agent がインストールされており、ディスクデリバリーによるディザスタリカバリに使用される稼働中の Data Protector クライアント。

ボリュームグループ

LVM システムにおけるデータストレージ単位。ボリュームグループは、1 つまたは複数の物理ボリュームから作成できます。同じシステム上に複数のボリュームグループを置くことができます。

ボリュームシャドウコピーサービス

Microsoft ボリュームシャドウコピーサービス (VSS) を参照。

ボリュームマウントポイント

(Windows 固有の用語) ボリューム上の空のディレクトリを他のボリュームのマウントに使用できるように構成したもの。ボリュームマウントポイントは、ターゲットボリュームへのゲートウェイとして機能します。ボリュームがマウントされていれば、ユーザーやアプリケーションがそのボリューム上のデータをフル (マージ) ファイルシステムパスで参照できます (両方のボリュームが一体化されている場合)。

ま

マージ

復元中のファイル名競合を解決するモードの 1 つ。復元するファイルと同じ名前のファイルが復元先に存在する場合、変更日時の新しい方が維持されます。既存のファイルと名前が重複しないファイルは、常に復元されます。
上書き も参照。

マウントポイント

ディレクトリ構造内において、ディスクまたは論理ボリュームにアクセスするためのアクセスポイント (/opt や d: など)。UNIX では、bdf コマンドまたは df コマンドを使ってマウントポイントを表示できます。

マウント要求

マウント要求時には、デバイスにメディアを挿入するように促す画面が表示されます。必要なメディアを挿入して確認することでマウント要求に応答すると、セッションが実行されます。

マジックパケット

Wake ONLAN を参照。

マルチスナップ

(HP P6000 EVA ディスクアレイファミリ固有の用語) 個々のターゲットボリュームだけでなく、スナップショットを構成するすべてのボリュームでバックアップデータの整合性が取れるように、複数のターゲットボリュームを同時に作成すること。
スナップショット も参照。

み

ミラー (EMC Symmetrix および HP P9000 XP ディスクアレイファミリ固有の用語)	ターゲットボリューム を参照。
ミラークローン	(HP P6000 EVA ディスクアレイファミリ固有の用語) ストレージボリュームの動的な複製です。元のストレージボリュームに加えられた変更は、ローカル複製リンクを介して、ミラークローンに反映されます。元のストレージボリュームとそのミラークローン間の複製は中断できません。各ストレージボリュームについてディスクアレイ上に 1 つのミラークローンを作成できます。
ミラーユニット (MU) 番号	(HP P9000 XP ディスクアレイファミリ固有の用語) HP P9000 XP ディスクアレイファミリのディスクアレイ上にある内部ディスク (LDEV) のセカンダリボリューム (S-VOL) を特定する 0 以上の整数。 ファーストレベルミラー も参照。
ミラーローテーション (HP P9000 XP ディスクアレイファミリ固有の用語)	複製セットローテーション を参照。

む

無人操作	夜間処理 を参照。
-------------	-----------

め

メインコントロールユニット (MCU)	(HP P9000 XP ディスクアレイファミリ固有の用語) HP CA P9000 XP または HP CA+BC P9000 XP 構成のプライマリボリューム (P-VOL) を含み、マスターデバイスとして機能する HP P9000 XP ディスクアレイファミリのユニット。 HP Business Copy (BC) P9000 XP、HP Continuous Access (CA) P9000 XP、および LDEV も参照。
メールボックス	(Microsoft Exchange Server 固有の用語) 電子メールが配信される場所。管理者がユーザーごとに設定します。電子メールの配信場所として複数の個人用フォルダが指定されている場合は、メールボックスから個人用フォルダに電子メールがルーティングされます。
メールボックスストア	(Microsoft Exchange Server 固有の用語) インフォメーションストアのうち、ユーザーメールボックス内の情報を維持する部分。メールボックスストアは、バイナリデータを格納するリッチテキスト .edb ファイルと、ストリーミングネイティブインターネットコンテンツを格納する .stm ファイルからなります。
メディア ID	Data Protector がメディアに割り当ててる一意な識別子。
メディア管理セッション	初期化、内容のスキャン、メディア上のデータの確認、メディアのコピーなどのアクションをメディアに対して実行するセッション。
メディア集中管理データベース (CMMDB)	CMMDB を参照。
メディア状態要素	使用回数のしきい値と上書きのしきい値。メディアの状態の判定基準となります。
メディアセット	バックアップセッションでは、メディアセットと呼ばれるメディアのグループにデータをバックアップします。メディアの使用法によっては、複数のセッションで同じメディアを共有できます。
メディアの位置	バックアップメディアが物理的に収納されている場所を示すユーザー定義の識別子。"building 4"や"off-site storage"のような文字列です。
メディアのインポート	メディアに書き込まれているバックアップセッションデータをすべて再読み込みして、IDB に取り込むプロセス。これにより、メディア上のデータにすばやく、簡単にアクセスできるようになります。 メディアのエクスポート も参照。

メディアのeksポート	メディアに格納されているすべてのバックアップセッション情報(システム、オブジェクト、ファイル名など)をIDBから削除するプロセス。メディア自体に関する情報やメディアとプールに関する情報もIDBから削除されます。メディア上のデータは影響されません。メディアのインポートも参照。
メディアの種類	メディアの物理的な種類(DDSやDLTなど)。
メディアの状態	メディア状態要素から求められるメディアの品質。テープメディアの使用頻度が高く、使用時間が長ければ、読み書きエラーの発生率が高くなります。状態が[不良]になったメディアは交換する必要があります。
メディアの使用法	メディアの使用法は、既に使用されているメディアに対してバックアップをどのように追加するかを制御します。メディアの使用法は、[追加可能]、[追加不可能]、[増分のみ追加可能]のいずれかに設定できます。
メディアのボールディング	メディアを安全な別の場所に収納すること。メディアが復元に必要になった場合や、今後のバックアップにメディアを再使用する場合は、メディアをデータセンターに戻します。ボールディング手順は、会社のバックアップ戦略やデータ保護/信頼性ポリシーに依存します。
メディアプール	同じ種類のメディア(DDSなど)のセット。グループとして追跡されます。フォーマットしたメディアは、メディアプールに割り当てられます。
メディアラベル	メディアに割り当てられるユーザー定義の識別子。
メディア割り当てポリシー	メディアをバックアップに使用する順序を決定します。[厳格]メディア割り当てポリシーでは、特定のメディアに限定されます。[緩和]ポリシーでは、任意の適切なメディアを使用できます。[フォーマットされていないメディアを先に割り当てる]ポリシーでは、ライブラリ内に利用可能な非保護メディアがある場合でも、不明なメディアが優先されます。

や

夜間処理または無人操作	オペレータの介在なしで、通常の営業時間外に実行されるバックアップ操作または復元操作。オペレータが手動で操作することなく、バックアップアプリケーションやサービスのマウント要求などが自動的に処理されます。
--------------------	--

ゆ

ユーザーアカウント(Data Protectorユーザーアカウント)	Data Protector およびバックアップデータに対する無許可のアクセスを制限するために、Data Protector ユーザーとして許可を受けたユーザーにしか Data Protector を使用できないようになっています。Data Protector 管理者がこのアカウントを作成するときには、ユーザーログオン名、ユーザーのログオン元として有効なシステム、および Data Protector ユーザーグループのメンバーシップを指定します。ユーザーが Data Protector のユーザーインターフェースを起動するか、または特定のタスクを実行するときには、このアカウントが必ずチェックされます。
ユーザーアカウント制御(UAC)	Windows Vista、Windows 7 および Windows Server 2008 のセキュリティコンポーネント。管理者が権限レベルを上げるまで、アプリケーションソフトウェアを標準のユーザー権限に限定します。
ユーザーグループ	各 Data Protector ユーザーは、ユーザーグループのメンバーです。各ユーザーグループにはユーザー権限のセットがあり、それらの権限がユーザーグループ内のすべてのユーザーに付与されます。ユーザー権限を関連付けるユーザーグループの数は、必要に応じて定義できます。Data Protector には、デフォルトで admin、operator、user という 3 つのユーザーグループが用意されています。
ユーザー権限	特定の Data Protector タスクの実行に必要なパーミッションをユーザー権限またはアクセス権限と呼びます。主なユーザー権限には、バックアップの構成、バックアップセッションの開始、復元セッションの開始などがあります。ユーザーには、そのユーザーの所属先ユーザーグループに関連付けられているアクセス権限が割り当てられます。
ユーザーディスク割り当て	NTFS の容量管理サポートを使用すると、共有ストレージボリュームに対して、拡張された追跡メカニズムの使用およびディスク容量に対する制御が行えるようになります。Data Protector では、システム全体にわたるユーザーディスク割り当てが、すべてのユーザーに対して一度にバックアップされます。
ユーザープロファイル	(Windows 固有の用語) ユーザー別に維持される構成情報。この情報には、デスクトップ設定、画面表示色、ネットワーク接続などが含まれます。ユーザーがログオンすると、そのユーザーのプロファイルがロードされ、Windows 環境がそれに応じて設定されます。

ら

ライター (Microsoft VSS 固有の用語) オリジナルボリューム上のデータの変更を開始するプロセス。主に、永続的なデータをボリューム上に書き込むアプリケーションまたはシステムサービスがライターとなります。ライターは、シャドウコピーの同期化プロセスにも参加し、データの整合性を保証します。

ライブラリ オートチェンジャー、ジュークボックス、オートローダ、またはエクステンジャとも呼ばれます。ライブラリには、複数のレポジトリスロットがあり、それらにメディアが格納されます。各スロットがメディア (DDS/DAT など) を 1 つずつ格納します。スロット/ドライブ間でのメディアの移動は、ロボット機構によって制御され、メディアへのランダムアクセスが可能です。ライブラリには、複数のドライブを格納できます。

り

リカバリカタログ (Oracle 固有の用語) Recovery Manager が Oracle データベースについての情報を格納するために使用する Oracle の表とビューのセット。この情報は、Recovery Manager が Oracle データベースのバックアップ、復元、および復旧を管理するために使用されます。リカバリカタログには、以下の情報が含まれます。

- Oracle ターゲットデータベースの物理スキーマ
- データファイルおよびアーカイブログのバックアップセット
- データファイルのコピー
- アーカイブ REDO ログ
- ストアドスクリプト

リカバリカタログデータベース (Oracle 固有の用語) リカバリカタログスキーマを格納する Oracle データベース。リカバリカタログはターゲットデータベースに保存しないでください。

リカバリカタログデータベースへのログイン情報

(Oracle 固有の用語) リカバリカタログデータベース (Oracle) へのログイン情報の形式は `user_name/password@service` で、ユーザー名、パスワード、サービス名の説明は、Oracle ターゲットデータベースへの Oracle SQL*Net V2 ログイン情報と同じです。ただし、この場合の `service` は Oracle ターゲットデータベースではなく、リカバリカタログデータベースに対するサービス名となります。

ここで指定する Oracle ユーザーは、Oracle のリカバリカタログのオーナーでなければならぬことに注意してください。

リカバリファイル (Oracle 固有の用語) リカバリファイルはフラッシュリカバリ領域に存在する Oracle 固有のファイルで、現在の制御ファイル、オンライン REDO ログ、アーカイブ REDO ログ、フラッシュバックログ、制御ファイル自動バックアップ、データファイルコピー、およびバックアップピースがこれにあたります。フラッシュリカバリ領域 も参照。

リサイクルまたは保護解除 メディア上のすべてのバックアップデータのデータ保護を解除して、以降のバックアップで上書きできるようにするプロセス。同じセッションに所属しているデータのうち、他のメディアに置かれているデータも保護解除されます。リサイクルを行っても、メディア上のデータ自体は変更されません。

リムーバブル記憶域の管理データベース (Windows 固有の用語) Windows サービスの 1 つ。リムーバブルメディア (テープやディスクなど) と記憶デバイス (ライブラリ) の管理に使用されます。リムーバブル記憶域により、複数のアプリケーションが同じメディアリソースを共有できます。

ろ

ローカル復旧とリモート復旧 リモート復旧は、SRD ファイルで指定されている Media Agent ホストがすべてアクセス可能な場合にのみ実行されます。いずれかのホストがアクセス不能になっていると、ディザスタリカバリプロセスがローカルモードにフェイルオーバーされます。これは、ターゲットシステムにローカルに接続しているデバイスが検索されることを意味します。デバイスが 1 台しか見つからない場合は、そのデバイスが自動的に使用されます。複数のデバイスが見つかった場合は、デバイスが選択できるプロンプトが表示され、ユーザーが選択したデバイスが復元に使用されます。

ローカル連続レプリケーション	<p>(Microsoft Exchange Server 固有の用語) ローカル連続レプリケーション (LCR) はストレージグループの完全コピー (LCR コピー) を作成および維持するシングルサーバー ソリューション。LCR コピーは元のストレージグループと同じサーバーに配置されます。LCR コピーが作成されると、変更伝播 (ログリプレイ) テクノロジーで最新に保たれます。LCR の複製機能では未複製のログが削除されません。この動作の影響により、ログを削除するモードでバックアップを実行しても、コピー中のログと複製に十分な余裕がある場合、実際にはディスクの空き容量が解放されない場合があります。</p> <p>LCR コピーへの切り替えは数秒で完了するため、LCR コピーはディザスタリカバリに使用されます。元のデータとは異なるディスクに存在する LCR コピーをバックアップに使用すると、プロダクションデータベースの入出力の負荷が最小になります。</p> <p>複製されたストレージグループは、Exchange ライターの新しいインスタンス (Exchange Replication Service) として表示され、通常のストレージグループのように VSS を使用してバックアップできます。</p> <p>クラスター連続レプリケーションおよび Exchange Replication Service も参照。</p>
ロギングレベル	<p>ロギングレベルは、バックアップ、オブジェクトのコピー、またはオブジェクトの集約時にファイルとディレクトリに関する情報をどの程度まで詳細に IDB に記録するかを示します。バックアップ時のロギングレベルに関係なく、データの復元は常に可能です。Data Protector には、[すべてログに記録]、[ディレクトリレベルまでログに記録]、[ファイルレベルまでログに記録]、および [記録しない] の 4 つのロギングレベルがあります。ロギングレベル設定によって、IDB のサイズ増加、バックアップ速度、および復元データのブラウザのしやすさが影響を受けます。</p>
ログイン ID	<p>(Microsoft SQL Server 固有の用語)Microsoft SQL Server にログインするためにユーザーが使用する名前。Microsoft SQL Server の syslogin システムテーブル内のエントリに対応するログイン ID が有効なログイン ID となります。</p>
ロック名	<p>別のデバイス名を使うことで同じ物理デバイスを違う特性で何度も構成することができます。そのようなデバイス (デバイス名) が複数同時に使用された場合に重複を防ぐ目的で、デバイス構成をロックするためにロック名が使用されます。ロック名はユーザーが指定する文字列です。同一の物理デバイスを使用するデバイス定義には、すべて同じロック名を使用します。</p>
論理演算子	<p>Data Protector ヘルプシステムの全文検索には、AND、OR、NOT、NEAR の各ブール演算子を使用できます。複数の検索条件をブール演算子で組み合わせて指定することで、検索対象をより正確に絞り込むことができます。複数単語の検索に演算子を指定しなければ、AND を指定したものとみなされます。たとえば、「マニュアルディザスタリカバリ」という検索条件は、「マニュアル AND ディザスタ AND リカバリ」と同じ結果になります。</p>
論理ログファイル	<p>論理ログファイルは、オンラインデータベースバックアップの場合に使用されます。変更されたデータがディスクにフラッシュされる前に書き込まれるファイルです。障害発生時には、これらの論理ログファイルを使用することで、コミット済みのトランザクションをすべてロールフォワードするとともに、コミットされていないトランザクションをロールバックすることができます。</p>
わ	
ワイルドカード文字	<p>1 文字または複数文字を表すために使用できるキーボード文字。たとえば、通常、アスタリスク (*) は 1 文字以上の文字を表し、疑問符 (?) は 1 文字を示します。ワイルドカード文字は、名前により複数のファイルを指定するための手段としてオペレーティングシステムで頻繁に使用されます。</p>

索引

C

CLI, 40

G

GUI、開く, 22

GUI を開く, 22

H

HP

テクニカルサポート, 12

HP Data Protector Granular Recovery Extension
インストール, 16, 51

削除, 52

設定の変更, 38

I

IIS アプリケーションプール、構成の確認, 20

Internet Information Services 参照 IIS

M

Microsoft SharePoint ファームの情報, 43

O

Office SharePoint ファームの情報, 43

W

Web サイト

HP, 13

HP メールニュース配信登録, 12

製品マニュアル, 6

い

インストール, 16, 51

HP Data Protector Granular Recovery Extension, 16,
51

インポート

コンテンツデータベース, 24, 27

コンテンツデータベースからのアイテム, 43

バックアップ, 24

バックアップからのコンテンツデータベース, 24

ファイルシステム, 27

ファイルシステムからのコンテンツデータベースの,
27

インポートジョブ、監視, 37

え

エクスポートするアイテム、一覧表示, 43

エクスポートするアイテムの一覧表示, 43

か

関連ドキュメント, 6

き

規則

表記, 11

キャッシュ

管理, 24

コンテンツデータベースの削除, 37, 42

こ

構成, 18

Data Protector バックアップ仕様, 19

ユーザー権限, 18

構成の確認

IIS アプリケーションプール, 20

復旧 Web アプリケーション, 18

高度な検索, 33

コマンドラインリファレンス, 40

コンテンツデータベース, 14

アイテムのインポート, 43

アイテムのエクスポート, 43

一覧表示, 41

インポート, 24, 27

キャッシュからの削除, 37, 42

情報の表示, 43

ディスクからの削除, 42

バックアップからのインポート, 27

ファイルシステムからのインポート, 27

復元, 40

コンテンツデータベースからのエクスポート, 43

コンテンツの復旧タスク, 29

コンテンツの復旧タスクの実行, 29

さ

サイト

一覧表示, 44

ブラウズ, 44

サイトアイテム

高度な検索, 33

ネットワーク共有への復旧, 35

フォルダへの復旧, 35

復旧, 30

別の場所への復旧, 34, 42

別のファームへの復旧, 35

元のサイトへの復旧, 42

サイトアイテムの復旧, 30

オリジナルサイト, 42

ネットワーク共有, 35

フォルダ, 35

別の場所, 34, 42

別のファーム, 35

サイトのブラウズ, 44

削除, 52

HP Data Protector Granular Recovery Extension, 52

コンテンツデータベース、キャッシュから, 37, 42

コンテンツデータベース、ディスクから, 42

復元ジョブ, 41

し

詳細復旧

インポートジョブの監視, 37

- 開始, 22
- キャッシュ管理, 24
- キャッシュ管理、Data Protector サービスが実行されていないエラーメッセージ, 51
- キャッシュ管理、リンクにアクセスできない, 47, 48
- ジョブ、監視, 40
- ジョブの監視, 40

せ

- 設定
 - コンテンツデータベース、ディスクから, 42
- 設定、変更, 38
- 設定の変更, 38
- 前提条件
 - インストール前, 16
 - サイトアイテムの復旧, 30

た

- 対象読者, 6
- タスク、コンテンツの復旧, 29
- 単位, 14

ち

- 遅延
 - HP Data Protector Granular Recovery Extension, 50
 - コマンドライン, 49

て

- ディスク容量、確認, 41
- テクニカルサポート
 - HP, 12
 - サービスロケータ Web サイト, 13

と

- ドキュメント
 - HP Web サイト, 6
 - 関連ドキュメント, 6
- トラブルシューティング, 45

は

- バージョン, 44
- バックアップ, 21
- バックアップ、コンテンツデータベースのインポート, 24
- バックアップ仕様
 - 構成, 19
- バックアップソリューション, 14
 - 詳細, 16

ひ

- 表記
 - 規則, 11
- 表示, 44

ふ

- ファームの情報, 43
- ファイルシステム、コンテンツデータベースのインポート, 27
- 復元
 - 失敗, 45, 46
 - ジョブ、復元, 41
 - 復元先のディスク容量の確認, 41
 - 復旧, 22
 - 失敗, 47
 - 復旧 Web アプリケーション
 - 構成の確認, 18
 - 設定, 18
 - 復旧単位機能, 14

へ

- ヘルプ
 - 取得, 12

ま

- マウントの失敗, 45, 46

め

- メールニュース配信登録、HP, 12

ゆ

- ユーザー権限, 18